大正二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

December 20th 1911.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 239

大日本蠶絲會報

第貳百參拾九號要目

●家蠶卵殼の組成分に就て　農學士　三宅康次　農學士　田所哲太郎

●家蠶絹絲腺の分泌を論ず　農學士　田中義麿

●蠶虻蝿の斑紋は雌雄に關係なし　西川砂　小池市松

●非製絲官營論　再び漂白粉液汁の微粒子芽胞形態消失作用に就て　蠶絲業法施行に先ちて蠶種製造者に望む　工藤文太郎

●晩秋蠶は如何にせば豐作するか　埼玉農報主筆　齋藤積太郎

●清國柞蠶業視察談　農學士　新井友吉

●產繭地を荒し廻はる製絲家を取締る方法なきか　本多岩次郎

●萬國蠶絲業會議の模様　町田慶正

●蠶種の不時催青及發蟻に就て　吉田穣

●原富岡製絲所の買入繭品評會は如何き方法を以て開設したり　池田良太郎

●朝鮮の蠶業　中太郎

●比律賓群島の養蠶　比律賓絲綿株式會社技師長　チャーレス、エス、バンクス　大久保佐一

●千九百十年度に於る世界の蠶絲業　名譽通信員　農學士　戸塚巳之助

●日本蠶絲の改良を要する點　木島孝藏

●產業組合に就て　佐藤寛次

TOKYO.
The Association;
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

營業項目

製絲用汽罐汽機類
並附屬品類小幡式
統一ケンネルノ外
小道具類

解舒不良は製絲家の饑饉なり**解舒不良の最大原因**は濕氣に溶解せられたる護謨質の乾凾密着するにありされば**濕氣の排除は生繭乾燥の最大要目**也○**中原式乾燥器**は換氣裝置に問然する處なし**繭層をして常に乾燥狀態にあらしむ**完全なる生繭乾燥を望まるゝ向は本器を採用せられよ

繭の價格は必らずしも低廉と謂ふ可からずされと蠶絲の價格甚だ安し更に又賃銀の昇騰は必然の大勢なるあり之れ製絲家の最も苦痛を感する處にして然かも如何ともなし得さる處とす此**苦境を救ふものは同質の繭より優秀なる蠶絲を多量に得る**事この一路のみ斯の一路は**中原式煮繭器**に依りて開かる

東京市本所區御右衛門町三十四番地

中原式合資會社

【電話浅花二貳二六(電略ナカ)
振替貯金口座壹六五〇四番】

送歳の辭

一歳三百六十餘日

流轉の跡を顧れば恍として夢の如し。而かも吾人は過去の實在を認め本會同人の努力を信ず。

今や歳暮の聲閭巷に滿つ。

擱筆天の一角を望て蠶界の前途を按ずれば洋々たる一大新天地の髣髴たるを覺ゆ。

吾人は諸君と與に畫策以て此の新天地に絶大の飛躍を期せんとす。

明治四十四年十二月二十日

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報　第貳百參拾九號

目次

口繪

●本會岡山支會發會式々場の光景と三國產繭比較
●本多理事の清國蠶絲業視察土產—柳蠶と柞蠶
●清國刺繍地に於る詐種の光景

論叢……農學士三宅康次郎（一一二）

●家蠶卵殼の組成分に就て
●家蠶絹絲腺の分泌を論ず　農學士田中哲太郎
●繭組織の斑紋は雌雄に關係なし　農學士田川齋
●非製絲官營論　小酉池市松
●再び漂白粉液汁の微粒子芽胞形態消失作用に就て　工藤文太郎
●蠶絲業法施行に先ちて蠶種製造者に望む　齋藤積太郎

集芳……埼玉農報主筆　新井友吉

●晚秋蠶は如何にせば豐作するか
●蠶棚の不時催青及發蛾に就て（三七）　田中良太郎

叩門……（一七）（三九）

●清國柞蠶業視察談　農學士本多岩次郎氏談
●產繭地を荒し廻はる製絲家を取締る方法なきか　町田穰氏談
●萬國蠶絲業會議の模樣　吉池慶正氏談
●原富岡製絲所の買入繭品評會は如此き順序方法を以て開設したら　大久保佐一氏談

遠響……四〇—四九

●朝鮮の蠶業　戸塚巳之助

●比律賓群島の養蠶
●千九百十年度に於る世界の蠶絲業
●日本蠶絲の改良を要する點

講筵……比律賓政廳科學局昆蟲課長—ケヤーレス、エスパンクス

名譽通信委員　木島孝藏（五〇—五三）

講演……農學士佐藤寛次（五四）

●催青中に微妙なる音響を聞く　梅津重太郎（五九—六二）

絲況……

問答……（六三—六四）

蠶兒の飼育に就き質問答●晞ゴムの件に就き質問答●紋羽病の件に就き質問答●蠶糞を桑肥とするの件に就き質問答●肥料に就き質問答

會務錄事……（六五—七四）

愛媛支會の新設●支會職員の嘱託●特別會員の推薦●本會職員の出張及歸京●本會下野支會第十一回品評會褒賞授與式●本會宮城支會第四回品評會褒賞授與式●岡山支會褒賞式

雜叢……（七五）

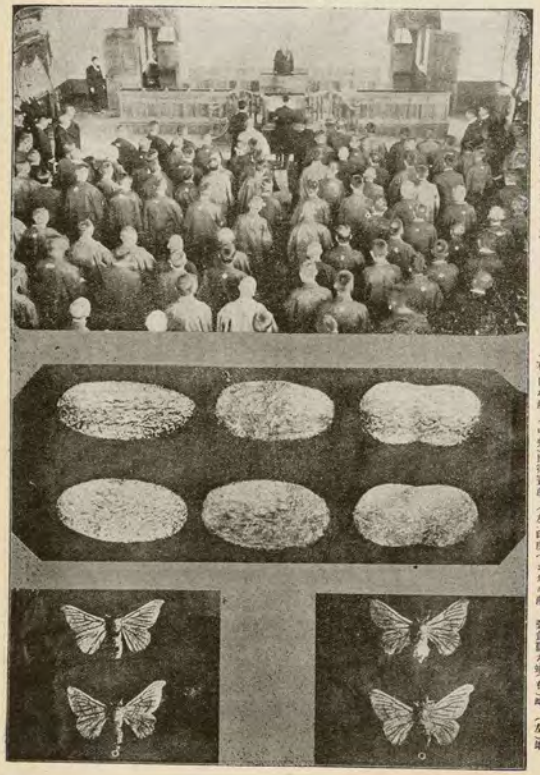
川村君逝去●中村農學士生蠶の唆嗾げ

蠶桑雜觀……（七六—七八）

○蠶業學校の改稱●私立東京農業大學●蠶絲業法施行期日●稻熱病豫防心得●京都蠶業講習所別科入學試驗問題●郡國蠶品評會規則●蠶病豫防心得●京都蠶業講習所別科入學試驗問題●郡國蠶品評會●久慈郡繭絲品評會●蠶業小誌●文藝●蠶海消息●新刊紹介（六〇頁五四頁）

本會岡山支會發會式場の光景と三國產繭比較

Inauguration de notre Succursale de Okayama et la comparaison des Cocons produits par trois provinces



岡山支會發會式場の光景

（右日本產、（中央）北支產、（左）印度ベンガル產、桑食蚕ナ狀石一種、（左）一種、

刮目して見よ

講習生募集

男子部第三期生
女子部第四期生
期間四十五年一月至十二月一ヶ年
講習料男女共本會々員金貳圓會員外金參圓
講師は蠶絲業界のオーソリチー博士
學士廿四名講述

過去二期三期共多大の稱賛を博して本月終了せり更に明年新學期の講義を開始し以て斯業界に貢献せんとす

殊に……蠶絲業法は……!!!

明年一月より實施せられんとす從て從來の蠶業法規は全部改訂するの必要あるを以て講師に乞ひ同法の神髓を極めて平易に講述せらるゝの諸を得たり第一號には即ち新法の解釋を載す機を逸せず申込み以て遺算なきを期せられよ

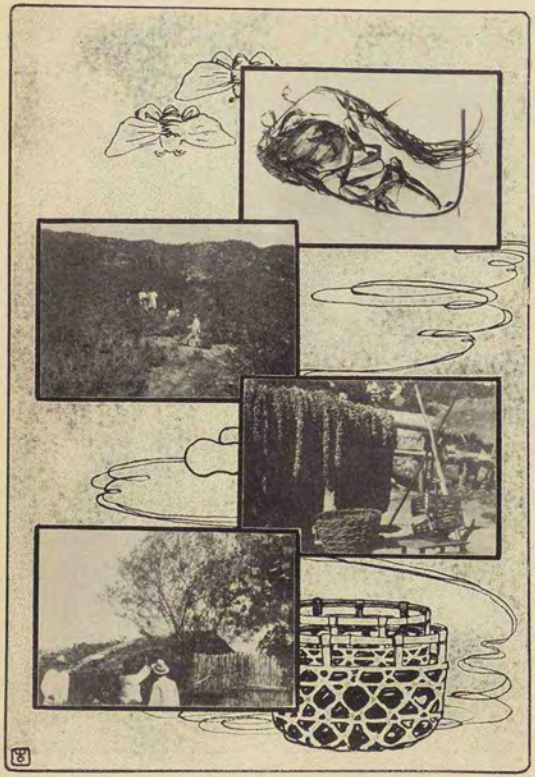
（規則、學科、講師名等は次號に掲載するも規則要望は二錢、見本要望は二十二錢を添へ申込ひべし）

東京二一〇六番 振替貯金口座

大日本蠶絲會

本多理事の清國蠶絲業視察土產柳蠶と柞蠶

Différente espèce d'articles apportés de la Chine par M. Honda, notre Administrateur, à l'occasion de son investigation sur l'industrie sericicole de ce pays.

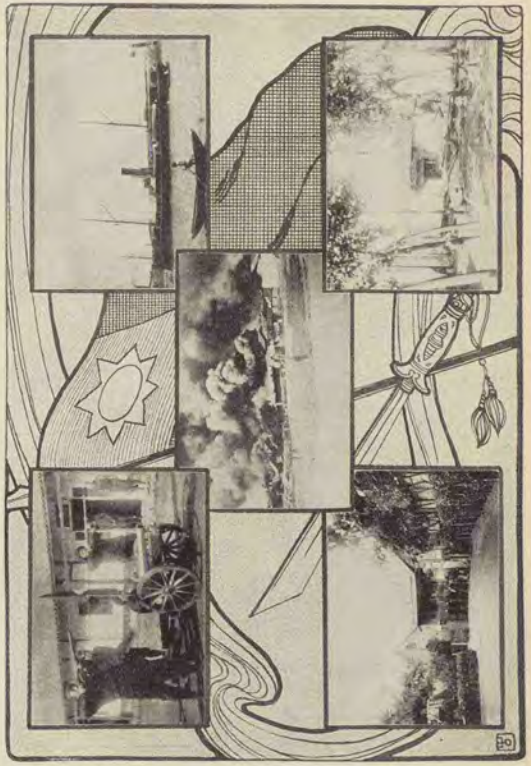


義州より三里餘松長面の柞蠶飼育林

柳蠶飼育の狀況

持ち歸られたる柳蠶繭の標本を寫眞せるもの

（西鐵冠山附近の柞蠶大枠製絲場（出發繭と繭蒸と大枠）



清國國動亂地に於る種諸の光景

Panoramas de différentes places en trouble de la Chine.

（本文説明の末頁に載せ）

大日本蠶絲會報　第貳百參拾九號

論叢

家蠶卵殼の組成分に就て

農學士　三宅康次
農學士　田所哲太郎

卵殼の化學的組成に就ては從來研究せられたるもの少しとせず、有脊椎動物に在りては O. Hammersten. 及び V. Lindwall. (Johns ber. f. Thier chem. 11, 1881) の兩氏が家鷄の卵殼膜に就き研究して「アルブミノイド」の一種なる「グラチン」質より成る事を報告せし以來、幾多の研究者相續きて各種の有脊椎動物卵殼に就き其の化學的組成を究めたり、即ち、W. Krukenberg. (Physiol. studien II. 1, 1884.) 氏は Scyllium stellare. 並に Myliobatis aquila に就き L. Schenk. (Sitzungsber d. Wiener Acad. 68, 1874.) 氏は Raja quadrimaculata. R. Neumeister. (Lehrbuch d. physiol. chem. jena 1897.) 氏は Priadis monacanthomas, Calotis jubatus, Pycnodonon homalomorphus 並に Crocodillus biproculus の卵殼に就き研究を試み共に「グラチン」質よりなる事を證せり。

然るに其後 Neumeister 氏は Echidnos aculeatus の卵殼に就き研究を行ひ其性質は眞正「グラチン」質と異り胃液に依りて消化せらるゝ事を報告し Krukenberg 氏も Trogiokanthes natrix 及び Mustellus lævis の卵殼は溶解性曹達液に不溶解にして「ペプシン」及び「トリプシン」に依り消化せられ、且つ Columber natrix に在りては其性質著しく相異なる事を記載せり。又 Hilger. (Ber. d. deutsc. chem. Ges. 6, 1873) 氏は

(Columba intrix の卵殻)を其性質並に成分より「コラスチン」なる事を報告せり。近時 Fresel (Zs. physiol. chem. 56, 1108) 及び Goebitzka (Zs. physiol. chem. 56, 1108) 氏も專ら鮫類の卵殻に就き「コラスチン」質と言ひ、或は「キチン」質と言ひ、或は「エラスチン」質と成ると報じ、歸著する所あらず、蓋し動物の種類を異にするに從ひ其化學的組成を異にするならんか、殊に家鶏の卵殻組成分に就きて報告しあるにも係らず、爾來之が追試を試みるものなく、須田教授著『畜學及び』E. Maillot, E. Lambert, 氏著 Traité sur la nutrition et sur la Murier 著』, Velson e Quapt 氏著 Il Filugello e Part serioda の三書を除きて、殆んど和書を問はず洋書と雖も其の畜産卵殻の化學的組成を以て「キチン」質なりとす、之れ何に由つて斯る記載を節行せしか其理を明にせざるべし、一般に「キチン」化せるものなりとの概念に歸因するなるべし、亦以て墨守固たる云はざるべからず、是を以て著者等は以上兩氏の說を確め畜卵殻の化學的組成を決定せんが爲めに之が研究を試みたり、以下其の研究概略を報告せんとす家畜脱皮の組成に就ても他日報告することあるべし。

三宅農學士

て「グラチン」質より成る事を報告せり。

上述しが如く卵殻の化學的組成は「グラチン」質と言ひ、或は「コラスチン」質と言ひ、或は「キチン」質より成ると報じ、歸著する所あらず、蓋し動物の種類を異にするに從ひ其化學的組成を異にするならんか、殊に家鶏の卵殻組成分に就きて報告しあるにも係らず、爾來之が追試を試みるものなく、須田教授著『畜學及び』E. Maillot, E. Lambert, 氏著 Traité sur la nutrition et sur la Murier 著』, Velson e Quapt 氏著 Il Filugello e Part serioda の三書を除きて、殆んど和書を問はず洋書と雖も其の畜産卵殻の化學的組成を以て「キチン」質なりとす、之れ何に由つて斯る記載を節行せしか其理を明にせざるべし、一般に「キチン」化せるものなりとの概念に歸因するなるべし、亦以て墨守固たる云はざるべからず、是を以て著者等は以上兩氏の說を確め畜卵殻の化學的組成を決定せんが爲めに之が研究を試みたり、以下其の研究概略を報告せんとす家畜脱皮の組成に就ても他日報告することあるべし。

一、試驗材料の調製

既に解化したる畜種紙を取り殻留せる卵殻を猛落し、水中にて攪拌しつゝ混ぜ毛羽を除き、乾燥後ペル鉢にて破碎し粉末とせり、同粉末を冷水に浸し二十四時間放置せる後數回洗滌し、次に一%の鹽酸にて四十八時間浸出し、後ち更に五%の冷鹽酸にて同樣浸出し水にて洗ひ鹽酸を除き温湯温酒精エーテル等にて處理せる後ち乾燥せり。

二、「キチン」質物に對する試驗

方今世人の信ずるが如く果して畜卵殻の組成は「キチン」質物なるや否やは考慮すべきものにして、若し「キチン」質物なりとせば鹽酸に依り鹽酸グルコサミンの結晶を拆出せざるべからず。

一、試驗製品二〇、瓦を取り For Schulze 氏の方法に依り一〇、純の強鹽酸を加へ糊狀と爲し、濕上にて加熱せしに暫時にして溶解するをまち、更に加熱すること十五分間にして透拆を行ひ第一透拆液は「ベルガメント」紙を以て濾過し濾液は「ベルガメント」紙に依り鹽酸を含むが故に一時間後に集めて之を除業せり、第二第三第四の透拆液は各々一夜夜

田所農學士

を經たる後ち集めて蒸發濃厚となし之を放置せしに更に鹽酸グルコサミンの結晶を拆出せず。

二、是に於て更に Oswald 氏が報告せし方法に從ひ六瓦の調製品を取り、三%の鹽酸四〇純を加へ逆流冷却器に連結して加熱する事十二時間加水分解の完了せる後ち液を冷却濾過し、濾液はベルカメント紙に依り透拆を行ひ、透拆液を數回に集め骨炭にて脱色し低壓にて蒸發濃厚となせり、同濃厚液に鹽酸グルコサミンの結晶を接種し十數日間放置せしも何ほ亦固有の結晶を檢出することを能はざりき、以上の如く畜卵殻は何に鹽酸を以て處理するも鹽酸グルコサミンの結晶を生ぜず、以て「キチン」質にあらざる事明瞭なり。

三、「グラチン」質に對する試驗

以上述しが如く畜卵殻の組成は「キチン」質にあらざるを以て Velson 並に Tichomirroff 兩氏の報告に依る「グラチン」質の證明を試みたるに

一、既に述べしが如く畜卵殻は冷水、温湯、酒精エーテル、ベンゾール等に全く溶解せず

二、沸蒸アルカリー液に容易に溶解す

三、酸に對しては抵抗力大にして稀薄酸と共に沸煮するも單

田所農學士

は「キチン」質にあらざるを以て Velson 並に Tichomirroff 兩氏の報告に依る「グラチン」質の證明を試みたるに

一、既に述べしが如く畜卵殻は冷水、温湯、酒精エーテル、ベンゾール等に全く溶解せず

二、沸蒸アルカリー液に容易に溶解す

三、酸に對しては抵抗力大にして稀薄酸と共に沸煮するも單

に微紅色を呈するのみ。

四、清化酵素に對する抵抗力極めて大なり。

五、ザンソプロテイン並にミロン氏反應積極なり。

六、酢酸鉛並に硫黄の含量多きを認む。

黑色を呈し硫黄の含量多きを認む。

七、硫酸を以て加水分解を行ひ炭酸重土を以て硫酸を除去し得たる溶液を蒸發せしに著しき多量の「チロシン」を析出せり。

更に水素分析を行ひしに

炭素　供試品〇、一瓦　炭酸鐵〇、一三二瓦　炭素%　四、二

水素　同　上　水量〇、六、八五　水素%　六、八五

窒素　供試品〇、五瓦　窒素量〇、〇六〇五瓦　窒素%　一、二

（ケルダール法に由る）

硫黄　供試品二、〇瓦　硫黄量〇、〇〇八〇瓦　硫黄%　〇、四〇

（硝酸加里及び炭酸曹達と共に熔融し硫酸マリュムとして定量せり）

斯の如く家蠶卵殻の化學的組成は其性質上硫黄の含量多きを以て「エラスチン」と異なり、又ミロンの反應鋭敏にして加水分解產物中多量の「チロシン」を含有するが故に「コンキオリン」にもあらず、「グラチン」質物なり、且つ其の元素分析の結果も、ボ氏が得たる成績に類似す、今比較の爲め從來發表されたる成績を擧ぐれば下の如し。

種類	炭素	水素	窒素	硫黄	酸素	著者名
鶏の卵殻膜	四八、六%	六、七四%	一四、四%	三、二%	二七、三%	Liebreich.
Scyllium catulus.	四七、〇%	六、八%	一六、七%	〇、四%	二五、一%	Hoppe-Seyler.
Pleuronectes platessoides.	四七、〇%	六、八%	一六、七%	〇、四%	二五、一%	Hoppe-Seyler.
北海道産鰈卵殻	四七、〇四%	六、八四%	一六、七四%	〇、四〇%	二五、一〇%	著者
Mucus (terrestlae	四七、〇%	六、七%	一六、六%	〇、四%	二五、一%	Krukenberg
家蠶卵殻	四七、〇%	六、七%	一六、六%	〇、四%	二五、一%	Tribondeau.
同　上	四七、二	六、七四	一六、六四	〇、四〇	二五、一〇	著者

四、結　論

一、家蠶卵殻の組成は蛋白質多く且つ鹽酸を以て處理するも鹽酸グルコサミンの結晶を生ぜず以て「キチン」質にあらざるを知る。

二、家蠶卵殻の組成は其性質並に成分よりして「グラチン」質に屬し一、一對する事を認む。

三、終に臨み本試驗を行ふに際し、懇篤なる指導を賜りたる大島教授並に材料の供給を得たる須田教授に深謝す。

◎自家用養種の區域

第一島嶼部　第二瀬戸内海沿岸地帯　第三九州地帯　第四東海地帯　第五北陸地帯　第六東山地帯　第七北陸地帯　第八東北地帯

（第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八の各地帯に於ては蚕種業者に於て自家用蚕種を製造するに適する地方なりと認定し、次の二十七郡を指定する事に決定せり）

▲岐阜　▲青森　▲森　▲宮城　▲福島　▲秋田　▲山形　▲新潟　▲長野　▲群馬　▲栃木　▲茨城　▲千葉　▲埼玉　▲東京　▲神奈川　▲静岡　▲愛知　▲三重　▲滋賀　▲京都　▲奈良　▲和歌山　▲鳥取　▲岡山　▲広島　▲山口　▲愛媛　▲高知　▲福岡　▲佐賀　▲熊本　▲宮崎　▲鹿児島

北海道　十勝郡　見附郡　勝郡　志津郡　石狩郡　後志郡　渡島郡　檜山郡　中古宇郡　上川郡　空知郡　河東郡　千歳郡　白老郡　勇拂郡　静内郡　浦河郡　様似郡　日高郡　増毛郡　留萌郡　苫前郡　天塩郡　枝幸郡　宗谷郡　紋別郡　網走郡　中川郡　十勝郡　足寄郡　根室郡　吉城郡　大野郡　河内郡　北津軽郡　南津軽郡

家蠶絹絲腺の分泌を論ず(二)

東北帝國大學
農科大學助教授　農學士　田中義麿

本論に於ては前編に於ける研究歴史に次ぎ、本邦の文獻に於いて述ぶる筈であったが、都合により之を後編とし、直に自己の研究に於て述べることゝする。

(三)絲質と膠質との識別點

最も普通の場合（例へば繭）に就いて觀察する時は、絲腺内腔には絲腺の後端より前端に達し、且つ絲腺の部分に應じて其の太さを異にする絹絲物質の柱がある。此の絹絲物質の柱の中、前部及び中部絲腺内腔に位する部分は、通常絲質が中軸となり其表面を膠質が環狀に被つて居る。而して絲腺が大形（例へば五齡三、四日目以後）になると此の絲質と膠質とは肉眼でも大體區別が出來る程著しく異なつた外觀を有して居る。化學的性質の差別は後述の蠶業書に記載してあり、且つ本論に直接必要が薄いから省略する、但し其化學的成分に關しては研究歴史中に一寸述べたボルレーの說に從つてゐる。即ち固定した絲腺に於て、膠質は半透明の飴色を呈し、絲質は之に反し白色不透明である。又色素に對しては、膠質は鹿の毒敏な染色性を有して居るが、絲質は容易に染まらない。予が顯微鏡的研究に於て用ゐた識別法は、主として此の色素に對する性質の差異である。

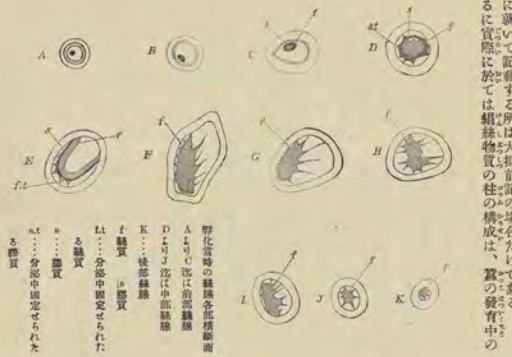
(四)絲腺内に於ける膠質及絲質の狀態

絹絲物質の柱は、前部絲腺に於ては通常圓壔形で、其物質中には大抵空泡を混ずれども、其の形細くして絲腺管との間に大なる空處を有して居る（第一圖A）。中部絲腺に至ると、絹絲物質の柱は急に其直徑を增し、往々絲腺内腔に充滿し、絲腺管壁と相接着せることがある。又其物質内には多數の空泡を存し、絹絲物質の柱の表面は平滑なるも、又往々不規則の狀を呈し、絲腺管を爲せる絹絲物質の横を以て、壁と連結して居ることも有る。（第一圖D以下）更に後部絲腺に於ては、絹絲物質は通常絲腺のみより成り、其表面は往々中部に於て認むると同樣の絹絲物質を以て管壁と結びつけられて居ることが有る。此等は畢竟絹腺より分泌せる絹絲物質が、固定液の爲めに其のまゝ固定されたものに外ならぬのである。

以上は最も普通な場合に就いて述べたのであ、東西の學者が

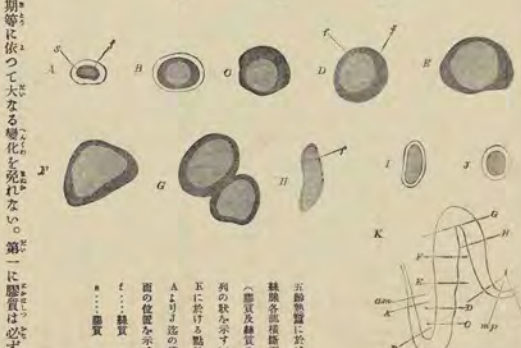
絲腺に就いて記載する所は大抵前記の場合だけである。然るに實際に於ては絹絲物質の柱の構成は、蠶の發育中の

第一圖



野化當時の絲腺各部橫斷面
A より C 迄は前部絲腺
D より J 迄は中部絲腺
K……後部絲腺
f……絲質　s……膠質
st……分泌中固定せられたる絲質
n……膠質

第二圖



五齡熟蠶に於ける絲腺各部橫斷面
（膠質及絲質の排列の狀を示す）
K に於ける點線は A より J 迄の橫斷面の位置を示す
f……絲質
s……膠質

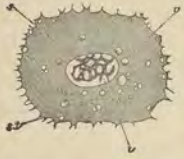
時期等に依つて大なる變化を免れない。第一に膠質は必ずし

も平等に絲質の表面を被覆するものではなく時としては其一部に於て特に厚く他部に於ては甚薄いやうでもある。第二圖）又蠶兒孵化前の胚子に於ては前、中、後の三部共に絲質を分泌するらしい（第三圖）次に各齡共、眠中等の如き一時的に分泌の停止した場合には前、中、後の三部共に絲物質は全く膠質のみより成ることがあり（第四圖）、又場合には、中軸に膠質が有つて絲質が其の表面を被ふといふ奇觀（從來の見地より

第三圖

野化三日目蠶兒子の絲腺橫斷面
A……前部絲腺
B……中部絲腺
C……後部絲腺
f……絲質

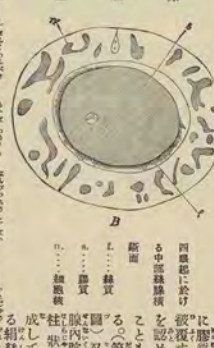
第四圖



五齡一日目中部絲腺の絹絲物質橫斷面
s……膠質
st……分泌中固定せられた膠質
v……空泡

すれば奇觀と言はねばならぬ）を呈することも有る（第五圖）又何ういふ拍子か膠質の小さな破片が絲質の中に埋もれて居るのを見ることがある（第六圖）。或は又後部絲腺に於て絲質の周圍に環狀に膠質の被覆する中部絲腺橫斷面を認めることもある（第七圖）又絲腺內腔に往々絲物質を成して居る。

第五圖



四齡起に於ける中部絲腺橫斷面
f……絲質
s……膠質
n……細胞核

第六圖

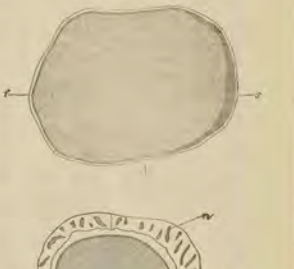
五齡二日目（二化蠶）中部絲腺橫斷面
f……絲質
s……膠質
gl……絲腺內腔
n……細胞核

絹絲物質は時として絲質より成り又時として膠質と絲腺管壁との間に往々、分泌中固定された絲狀の膠質を認めることは前に述べたる通りであるが、此の分泌中の膠質より成つて居る。此の部分には絲腺の部分に由るのではなくて、蠶兒發育中の時期に由るものである。即ち同一の部分より或時期では絲質を分泌し、他の時期に於ては膠質を分泌するのである。而して絲質を分泌するのは多く

第七圖

四齡一日目蛻部絲腺縱斷面
r……分泌中固定せられたる絲質
g……絲腺內腔
m……糊質なる且て被はれたる初絲物質柱
n……細胞核

第八圖



B

熟蠶絲腺橫斷面
A……中部絲腺
B……後部絲腺
z……絲質
m, n……膠質
n……細胞核

第九圖

五齡盛食期後部絲腺縱斷面
m……初絲物質柱
n……細胞核
l……氣管
s……空泡

家蠶初絲腺の分泌を論ず

分泌作用の旺盛な時期で、膠質を分泌するのは例へば眠中眠後等分泌作用の緩慢な時期に多い。

又一方分泌細胞の方は如何と云ふに、其の原形質の中に往々種々の大さの絲質の顆粒を認めることがある。此の顆粒は必ずしもブランなどの說ずが如く一定の通路を為して存在するものでは無く、細胞內に不規則に散在し、又其の大さも外側より內側（絲腺內腔に面する側）に至るに從ひ增大すると限りては居ない。唯非常に大形のものは大抵絲腺內腔近くに發見されることだけは確である。

（五）絲腺物質中に含まるゝ空泡に就いて

絲腺內腔に於ける絲物質は通常多少の空泡を含有する（但し前記絲腺に於ては前述の空泡を見ず）ブランの如きは、野蠶には空泡を見るも家蠶に成程家蠶には殆いやうに記載して居るが之は大なる間違で、家蠶にも殆んど同じ位の大さの空泡が非常に多く存在し、家蠶とはそれが概ね大形で且つ比較的少數である云ふだけの差異は有るが、空泡の存在することは隨分大切な事實である。尤も空泡の數及大さは蠶の發育中の時期に依つて大に相異なるもので、一方には殆ど全くこれを缺くものが隨分多く、他方には非常に大形の空泡が何にして生ずるかと云ふに、絲腺の分泌細胞中には無數の氣管毛細管が分布して居る。從つて氣管に、依つて輸入された空氣は其毛細管の末端から斷へず細胞內に出で來るものと考へられる、此の空氣の一部は自然絲腺內腔に出て絹絲物質分泌の際其の中に取入られて茧に貯記の空泡を生ずるものであらう。（未完）

蠶業歌

英國銀行の紙幣に向ひつゝあるる蠶の產地なり、ヨ、ロッパ諸國の蠶業は、近年日本の蠶種を輸入して、其の原料を得ることに、ときは、蠶種

鱗蛆蠅の斑紋は雌雄に關係なし

特別會員　西川　砂

鱗蛆蠅の雌雄鑑別に就ては從來記述せらるゝところが甚だ多く、何れも蠅の腹部の斑紋によりて區別し得るものとせられて居る樣であるが、併し予の調査せるところによると、腹部の斑紋は雌雄に何等の關係がない、乃ち是に付て少しく記述して見度いと思ふ。

▲普通昆蟲の雌雄淘汰

鱗蛆蠅の雌雄淘汰を記述する前に比較の爲め、普通昆蟲數種に付き、其雌雄淘汰を調査して見ると、

一、クハケムシ
雌の翅は淡黄白色であるが、雄は體形が稍々小さく、翅は暗褐色で、殊に腹部の色彩は雌よりも甚だ美しい。

二、カハラトシボ
雌の翅は無色であるが、雄は彩色がある。

三、ヒグコガネ、ヒグコメッキ
一般昆蟲の觸肢は雄に於て勝れるを常とするが、此二種は殊に著しい。

四、ノコギリカブトムシ、カブトムシ
雌は小さいが、雄は大きく、頭部又は胸部に角狀の突起を具へて居る。

五、ジャコーアゲハ
雄は特に一種の香氣を放つ。

六、キリギリス、クツハムシ、スヽムシ、セミ等
雄は特に美聲を發す。

等の如く、普通昆蟲の雌雄淘汰は、雄は雌に比して特に美しき翅を有し、或は特に殊に香氣を發し、或は「立派の觸肢」を具へて勇壯の狀を示すと云ひ、或は美聲に鳴々し、或は角を具へて勇壯の狀を示すと云ふ樣に、體の外部に現はせる機官、又は、色彩、鳴聲等により、其雌雄を區別し易き樣になって居る。

▲鱗蛆蠅の斑紋と雌雄

然るに鱗蛆蠅は、右數種の例の如く、腹部に現出せる色彩即ち赤褐色の斑紋によりて、其雌雄を區別し得らるゝであらうか、予の調査せるところによると、此法は甚だ不確實である、今該蠅三百三十六頭に就て、調査したる成績を示すと左表の如くである。

雌蠅	斑紋濃き者	五四頭
	斑紋淡き者	三六頭
	斑紋無き者	三六頭
計		一二六頭
雄蠅	斑紋淡き者	四二頭
	斑紋無き者	六頭
計		二一〇頭

總計　三三六頭

今此雌雄斑紋の有無を、百分率に直して見ると左の如くである。

雌蠅　斑紋有る者　七一％
　　斑紋無き者　二九％
雄蠅　斑紋有る者　九七％
　　斑紋無き者　三％

即ち右の如くで、從來斑紋なしとせられた雌蠅に、百頭中七十一頭の斑紋を有し、斑紋ありとせられた雄蠅に百頭中三頭は斑紋を缺くと云ふ成蹟を得た、之れ予が斑紋によりて雌雄を區別する能はずとなす所以である。

▲該蠅の雌雄は何によりて區別するを便とするか

前述の如く、雌雄の區別に腹部の斑紋の有無が關係なしとしたならば、何れによりて是をなすべきか、今雌雄を比較して、多く相違する點を擧げて見ると、

一、雌蠅の顏部は灰白色、雄は黄色なることが多い樣である。

二、雄の複眼は、雌よりも大きい傾がある。

三、胸部の背面は黑色なるも、雄は少しく淡灰綠色を加ふることが多い樣である。

四、雄の鐵節の鞭狀は雌のものより大なるを常とする。

五、多くは雄の腹部は三角形、雌の腹部は圓形である。

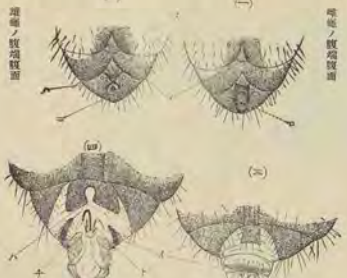
等であるが、是等は比較上のことであるから、未だ區別に完全であるとは云へぬ。

▲簡便なる雌雄鑑別法

然らば、何によりて區別するを最も簡便にして確實とするか、先づ兩者の形狀最も相異れる、

一、雌蠅腹部の外形

雌蠅の腹部は、先雄雄に比して多くは圓く、九環節より、


(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)
(八)
(九)
(十)
(十一)
(十二)
(十三)
(十四)
(十五)
(十六)
(十七)
(十八)
(十九)
(二十)
(二十一)
(二十二)
(二十三)
(二十四)
(二十五)
(二十六)
(二十七)
(二十八)
(二十九)
(三十)
(三十一)
(三十二)
(三十三)
(三十四)
(三十五)
(三十六)
(三十七)
(三十八)
(三十九)
(四十)
(四十一)
(四十二)
(四十三)
(四十四)
(四十五)
(四十六)
(四十七)
(四十八)
(四十九)
(五十)
(五十一)
(五十二)
(五十三)
(五十四)
(五十五)
(五十六)
(五十七)
(五十八)
(五十九)
(六十)
(六十一)
(六十二)
(六十三)
(六十四)
(六十五)
(六十六)
(六十七)
(六十八)
(六十九)
(七十)
(七十一)
(七十二)
(七十三)
(七十四)
(七十五)
(七十六)
(七十七)
(七十八)
(七十九)
(八十)
(八十一)
(八十二)
(八十三)
(八十四)
(八十五)
(八十六)
(八十七)
(八十八)
(八十九)
(九十)
(九十一)
(九十二)
(九十三)
(九十四)
(九十五)
(九十六)
(九十七)
(九十八)
(九十九)
(一百)
(一百一)
(一百二)
(一百三)
(一百四)
(一百五)
(一百六)
(一百七)
(一百八)
(一百九)
(一百十)
(一百十一)
(一百十二)
(一百十三)
(一百十四)
(一百十五)
(一百十六)
(一百十七)
(一百十八)
(一百十九)
(二百)
(二百一)
(二百二)
(二百三)
(二百四)
(二百五)
(二百六)
(二百七)
(二百八)
(二百九)
(二百十)
(二百十一)
(二百十二)
(二百十三)
(二百十四)
(二百十五)
(二百十六)
(二百十七)
(二百十八)
(二百十九)
(三百)
(三百一)
(三百二)
(三百三)
(三百四)
(三百五)
(三百六)
(三百七)
(三百八)
(三百九)
(三百十)
(三百十一)
(三百十二)
(三百十三)
(三百十四)
(三百十五)
(三百十六)
(三百十七)
(三百十八)
(三百十九)
(四百)
(四百一)
(四百二)
(四百三)
(四百四)
(四百五)
(四百六)
(四百七)
(四百八)
(四百九)
(四百十)
(四百十一)
(四百十二)
(四百十三)
(四百十四)
(四百十五)
(四百十六)
(四百十七)
(四百十八)
(四百十九)
(五百)
(五百一)
(五百二)
(五百三)
(五百四)
(五百五)
(五百六)
(五百七)
(五百八)
(五百九)
(五百十)
(五百十一)
(五百十二)
(五百十三)
(五百十四)
(五百十五)
(五百十六)
(五百十七)
(五百十八)
(五百十九)
(六百)
(六百一)
(六百二)
(六百三)
(六百四)
(六百五)
(六百六)
(六百七)
(六百八)
(六百九)
(六百十)
(六百十一)
(六百十二)
(六百十三)
(六百十四)
(六百十五)
(六百十六)
(六百十七)
(六百十八)
(六百十九)
(七百)
(七百一)
(七百二)
(七百三)
(七百四)
(七百五)
(七百六)
(七百七)
(七百八)
(七百九)
(七百十)
(七百十一)
(七百十二)
(七百十三)
(七百十四)
(七百十五)
(七百十六)
(七百十七)
(七百十八)
(七百十九)
(八百)
(八百一)
(八百二)
(八百三)
(八百四)
(八百五)
(八百六)
(八百七)
(八百八)
(八百九)
(八百十)
(八百十一)
(八百十二)
(八百十三)
(八百十四)
(八百十五)
(八百十六)
(八百十七)
(八百十八)
(八百十九)
(九百)
(九百一)
(九百二)
(九百三)
(九百四)
(九百五)
(九百六)
(九百七)
(九百八)
(九百九)
(九百十)
(九百十一)
(九百十二)
(九百十三)
(九百十四)
(九百十五)
(九百十六)
(九百十七)
(九百十八)
(九百十九)
(十百)
(十百一)
(十百二)
(十百三)
(十百四)
(十百五)
(十百六)
(十百七)
(十百八)
(十百九)
(十百十)
(十百十一)
(十百十二)
(十百十三)
(十百十四)
(十百十五)
(十百十六)
(十百十七)
(十百十八)
(十百十九)
(十一百)
(十一百一)
(十一百二)
(十一百三)
(十一百四)
(十一百五)
(十一百六)
(十一百七)
(十一百八)
(十一百九)
(十一百十)
(十一百十一)
(十一百十二)
(十一百十三)
(十一百十四)
(十一百十五)
(十一百十六)
(十一百十七)
(十一百十八)
(十一百十九)
(十二百)
(十二百一)
(十二百二)
(十二百三)
(十二百四)
(十二百五)
(十二百六)
(十二百七)
(十二百八)
(十二百九)
(十二百十)
(十二百十一)
(十二百十二)
(十二百十三)
(十二百十四)
(十二百十五)
(十二百十六)
(十二百十七)
(十二百十八)
(十二百十九)
(十三百)
(十三百一)
(十三百二)
(十三百三)
(十三百四)
(十三百五)
(十三百六)
(十三百七)
(十三百八)
(十三百九)
(十三百十)
(十三百十一)
(十三百十二)
(十三百十三)
(十三百十四)
(十三百十五)
(十三百十六)
(十三百十七)
(十三百十八)
(十三百十九)
(十四百)
(十四百一)
(十四百二)
(十四百三)
(十四百四)
(十四百五)
(十四百六)
(十四百七)
(十四百八)
(十四百九)
(十四百十)
(十四百十一)
(十四百十二)
(十四百十三)
(十四百十四)
(十四百十五)
(十四百十六)
(十四百十七)
(十四百十八)
(十四百十九)
(十五百)
(十五百一)
(十五百二)
(十五百三)
(十五百四)
(十五百五)
(十五百六)
(十五百七)
(十五百八)
(十五百九)
(十五百十)
(十五百十一)
(十五百十二)
(十五百十三)
(十五百十四)
(十五百十五)
(十五百十六)
(十五百十七)
(十五百十八)
(十五百十九)
(十六百)
(十六百一)
(十六百二)
(十六百三)
(十六百四)
(十六百五)
(十六百六)
(十六百七)
(十六百八)
(十六百九)
(十六百十)
(十六百十一)
(十六百十二)
(十六百十三)
(十六百十四)
(十六百十五)
(十六百十六)
(十六百十七)
(十六百十八)
(十六百十九)
(十七百)
(十七百一)
(十七百二)
(十七百三)
(十七百四)
(十七百五)
(十七百六)
(十七百七)
(十七百八)
(十七百九)
(十七百十)
(十七百十一)
(十七百十二)
(十七百十三)
(十七百十四)
(十七百十五)
(十七百十六)
(十七百十七)
(十七百十八)
(十七百十九)
(十八百)
(十八百一)
(十八百二)
(十八百三)
(十八百四)
(十八百五)
(十八百六)
(十八百七)
(十八百八)
(十八百九)
(十八百十)
(十八百十一)
(十八百十二)
(十八百十三)
(十八百十四)
(十八百十五)
(十八百十六)
(十八百十七)
(十八百十八)
(十八百十九)
(十九百)
(十九百一)
(十九百二)
(十九百三)
(十九百四)
(十九百五)
(十九百六)
(十九百七)
(十九百八)
(十九百九)
(十九百十)
(十九百十一)
(十九百十二)
(十九百十三)
(十九百十四)
(十九百十五)
(十九百十六)
(十九百十七)
(十九百十八)
(十九百十九)
(二十百)
(二十百一)
(二十百二)
(二十百三)
(二十百四)
(二十百五)
(二十百六)
(二十百七)
(二十百八)
(二十百九)
(二十百十)
(二十百十一)
(二十百十二)
(二十百十三)
(二十百十四)
(二十百十五)
(二十百十六)
(二十百十七)
(二十百十八)
(二十百十九)
(二十一百)
(二十一百一)
(二十一百二)
(二十一百三)
(二十一百四)
(二十一百五)
(二十一百六)
(二十一百七)
(二十一百八)
(二十一百九)
(二十一百十)
(二十一百十一)
(二十一百十二)
(二十一百十三)
(二十一百十四)
(二十一百十五)
(二十一百十六)
(二十一百十七)
(二十一百十八)
(二十一百十九)
(二十二百)
(二十二百一)
(二十二百二)
(二十二百三)
(二十二百四)
(二十二百五)
(二十二百六)
(二十二百七)
(二十二百八)
(二十二百九)
(二十二百十)
(二十二百十一)
(二十二百十二)
(二十二百十三)
(二十二百十四)
(二十二百十五)
(二十二百十六)
(二十二百十七)
(二十二百十八)
(二十二百十九)
(二十三百)
(二十三百一)
(二十三百二)
(二十三百三)
(二十三百四)
(二十三百五)
(二十三百六)
(二十三百七)
(二十三百八)
(二十三百九)
(二十三百十)
(二十三百十一)
(二十三百十二)
(二十三百十三)
(二十三百十四)
(二十三百十五)
(二十三百十六)
(二十三百十七)
(二十三百十八)
(二十三百十九)
(二十四百)
(二十四百一)
(二十四百二)
(二十四百三)
(二十四百四)
(二十四百五)
(二十四百六)
(二十四百七)
(二十四百八)
(二十四百九)
(二十四百十)
(二十四百十一)
(二十四百十二)
(二十四百十三)
(二十四百十四)
(二十四百十五)
(二十四百十六)
(二十四百十七)
(二十四百十八)
(二十四百十九)
(二十五百)
(二十五百一)
(二十五百二)
(二十五百三)
(二十五百四)
(二十五百五)
(二十五百六)
(二十五百七)
(二十五百八)
(二十五百九)
(二十五百十)
(二十五百十一)
(二十五百十二)
(二十五百十三)
(二十五百十四)
(二十五百十五)
(二十五百十六)
(二十五百十七)
(二十五百十八)
(二十五百十九)
(二十六百)
(二十六百一)
(二十六百二)
(二十六百三)
(二十六百四)
(二十六百五)
(二十六百六)
(二十六百七)
(二十六百八)
(二十六百九)
(二十六百十)
(二十六百十一)
(二十六百十二)
(二十六百十三)
(二十六百十四)
(二十六百十五)
(二十六百十六)
(二十六百十七)
(二十六百十八)
(二十六百十九)
(二十七百)
(二十七百一)
(二十七百二)
(二十七百三)
(二十七百四)
(二十七百五)
(二十七百六)
(二十七百七)
(二十七百八)
(二十七百九)
(二十七百十)
(二十七百十一)
(二十七百十二)
(二十七百十三)
(二十七百十四)
(二十七百十五)
(二十七百十六)
(二十七百十七)
(二十七百十八)
(二十七百十九)
(二十八百)
(二十八百一)
(二十八百二)
(二十八百三)
(二十八百四)
(二十八百五)
(二十八百六)
(二十八百七)
(二十八百八)
(二十八百九)
(二十八百十)
(二十八百十一)
(二十八百十二)
(二十八百十三)
(二十八百十四)
(二十八百十五)
(二十八百十六)
(二十八百十七)
(二十八百十八)
(二十八百十九)
(二十九百)
(二十九百一)
(二十九百二)
(二十九百三)
(二十九百四)
(二十九百五)
(二十九百六)
(二十九百七)
(二十九百八)
(二十九百九)
(二十九百十)
(二十九百十一)
(二十九百十二)
(二十九百十三)
(二十九百十四)
(二十九百十五)
(二十九百十六)
(二十九百十七)
(二十九百十八)
(二十九百十九)
(三十百)
(三十百一)
(三十百二)
(三十百三)
(三十百四)
(三十百五)
(三十百六)
(三十百七)
(三十百八)
(三十百九)
(三十百十)
(三十百十一)
(三十百十二)
(三十百十三)
(三十百十四)
(三十百十五)
(三十百十六)
(三十百十七)
(三十百十八)
(三十百十九)
(三十一百)
(三十一百一)
(三十一百二)
(三十一百三)
(三十一百四)
(三十一百五)
(三十一百六)
(三十一百七)
(三十一百八)
(三十一百九)
(三十一百十)
(三十一百十一)
(三十一百十二)
(三十一百十三)
(三十一百十四)
(三十一百十五)
(三十一百十六)
(三十一百十七)
(三十一百十八)
(三十一百十九)
(三十二百)
(三十二百一)
(三十二百二)
(三十二百三)
(三十二百四)
(三十二百五)
(三十二百六)
(三十二百七)
(三十二百八)
(三十二百九)
(三十二百十)
(三十二百十一)
(三十二百十二)
(三十二百十三)
(三十二百十四)
(三十二百十五)
(三十二百十六)
(三十二百十七)
(三十二百十八)
(三十二百十九)
(三十三百)
(三十三百一)
(三十三百二)
(三十三百三)
(三十三百四)
(三十三百五)
(三十三百六)
(三十三百七)
(三十三百八)
(三十三百九)
(三十三百十)
(三十三百十一)
(三十三百十二)
(三十三百十三)
(三十三百十四)
(三十三百十五)
(三十三百十六)
(三十三百十七)
(三十三百十八)
(三十三百十九)
(三十四百)
(三十四百一)
(三十四百二)
(三十四百三)
(三十四百四)
(三十四百五)
(三十四百六)
(三十四百七)
(三十四百八)
(三十四百九)
(三十四百十)
(三十四百十一)
(三十四百十二)
(三十四百十三)
(三十四百十四)
(三十四百十五)
(三十四百十六)
(三十四百十七)
(三十四百十八)
(三十四百十九)
(三十五百)
(三十五百一)
(三十五百二)
(三十五百三)
(三十五百四)
(三十五百五)
(三十五百六)
(三十五百七)
(三十五百八)
(三十五百九)
(三十五百十)
(三十五百十一)
(三十五百十二)
(三十五百十三)
(三十五百十四)
(三十五百十五)
(三十五百十六)
(三十五百十七)
(三十五百十八)
(三十五百十九)
(三十六百)
(三十六百一)
(三十六百二)
(三十六百三)
(三十六百四)
(三十六百五)
(三十六百六)
(三十六百七)
(三十六百八)
(三十六百九)
(三十六百十)
(三十六百十一)
(三十六百十二)
(三十六百十三)
(三十六百十四)
(三十六百十五)
(三十六百十六)
(三十六百十七)
(三十六百十八)
(三十六百十九)
(三十七百)
(三十七百一)
(三十七百二)
(三十七百三)
(三十七百四)
(三十七百五)
(三十七百六)
(三十七百七)
(三十七百八)
(三十七百九)
(三十七百十)
(三十七百十一)
(三十七百十二)
(三十七百十三)
(三十七百十四)
(三十七百十五)
(三十七百十六)
(三十七百十七)
(三十七百十八)
(三十七百十九)
(三十八百)
(三十八百一)
(三十八百二)
(三十八百三)
(三十八百四)
(三十八百五)
(三十八百六)
(三十八百七)
(三十八百八)
(三十八百九)
(三十八百十)
(三十八百十一)
(三十八百十二)
(三十八百十三)
(三十八百十四)
(三十八百十五)
(三十八百十六)
(三十八百十七)
(三十八百十八)
(三十八百十九)
(三十九百)
(三十九百一)
(三十九百二)
(三十九百三)
(三十九百四)
(三十九百五)
(三十九百六)
(三十九百七)
(三十九百八)
(三十九百九)
(三十九百十)
(三十九百十一)
(三十九百十二)
(三十九百十三)
(三十九百十四)
(三十九百十五)
(三十九百十六)
(三十九百十七)
(三十九百十八)
(三十九百十九)
(四十百)
(四十百一)
(四十百二)
(四十百三)
(四十百四)
(四十百五)
(四十百六)
(四十百七)
(四十百八)
(四十百九)
(四十百十)
(四十百十一)
(四十百十二)
(四十百十三)
(四十百十四)
(四十百十五)
(四十百十六)
(四十百十七)
(四十百十八)
(四十百十九)
(四十一百)
(四十一百一)
(四十一百二)
(四十一百三)
(四十一百四)
(四十一百五)
(四十一百六)
(四十一百七)
(四十一百八)
(四十一百九)
(四十一百十)
(四十一百十一)
(四十一百十二)
(四十一百十三)
(四十一百十四)
(四十一百十五)
(四十一百十六)
(四十一百十七)
(四十一百十八)
(四十一百十九)
(四十二百)
(四十二百一)
(四十二百二)
(四十二百三)
(四十二百四)
(四十二百五)
(四十二百六)
(四十二百七)
(四十二百八)
(四十二百九)
(四十二百十)
(四十二百十一)
(四十二百十二)
(四十二百十三)
(四十二百十四)
(四十二百十五)
(四十二百十六)
(四十二百十七)
(四十二百十八)
(四十二百十九)
(四十三百)
(四十三百一)
(四十三百二)
(四十三百三)
(四十三百四)
(四十三百五)
(四十三百六)
(四十三百七)
(四十三百八)
(四十三百九)
(四十三百十)
(四十三百十一)
(四十三百十二)
(四十三百十三)
(四十三百十四)
(四十三百十五)
(四十三百十六)
(四十三百十七)
(四十三百十八)
(四十三百十九)
(四十四百)
(四十四百一)
(四十四百二)
(四十四百三)
(四十四百四)
(四十四百五)
(四十四百六)
(四十四百七)
(四十四百八)
(四十四百九)
(四十四百十)
(四十四百十一)
(四十四百十二)
(四十四百十三)
(四十四百十四)
(四十四百十五)
(四十四百十六)
(四十四百十七)
(四十四百十八)
(四十四百十九)
(四十五百)
(四十五百一)
(四十五百二)
(四十五百三)
(四十五百四)
(四十五百五)
(四十五百六)
(四十五百七)
(四十五百八)
(四十五百九)
(四十五百十)
(四十五百十一)
(四十五百十二)
(四十五百十三)
(四十五百十四)
(四十五百十五)
(四十五百十六)
(四十五百十七)
(四十五百十八)
(四十五百十九)
(四十六百)
(四十六百一)
(四十六百二)
(四十六百三)
(四十六百四)
(四十六百五)
(四十六百六)
(四十六百七)
(四十六百八)
(四十六百九)
(四十六百十)
(四十六百十一)
(四十六百十二)
(四十六百十三)
(四十六百十四)
(四十六百十五)
(四十六百十六)
(四十六百十七)
(四十六百十八)
(四十六百十九)
(四十七百)
(四十七百一)
(四十七百二)
(四十七百三)
(四十七百四)
(四十七百五)
(四十七百六)
(四十七百七)
(四十七百八)
(四十七百九)
(四十七百十)
(四十七百十一)
(四十七百十二)
(四十七百十三)
(四十七百十四)
(四十七百十五)
(四十七百十六)
(四十七百十七)
(四十七百十八)
(四十七百十九)
(四十八百)
(四十八百一)
(四十八百二)
(四十八百三)
(四十八百四)
(四十八百五)
(四十八百六)
(四十八百七)
(四十八百八)
(四十八百九)
(四十八百十)
(四十八百十一)
(四十八百十二)
(四十八百十三)
(四十八百十四)
(四十八百十五)
(四十八百十六)
(四十八百十七)
(四十八百十八)
(四十八百十九)
(四十九百)
(四十九百一)
(四十九百二)
(四十九百三)
(四十九百四)
(四十九百五)
(四十九百六)
(四十九百七)
(四十九百八)
(四十九百九)
(四十九百十)
(四十九百十一)
(四十九百十二)
(四十九百十三)
(四十九百十四)
(四十九百十五)
(四十九百十六)
(四十九百十七)
(四十九百十八)
(四十九百十九)
(五十百)
(五十百一)
(五十百二)
(五十百三)
(五十百四)
(五十百五)
(五十百六)
(五十百七)
(五十百八)
(五十百九)
(五十百十)
(五十百十一)
(五十百十二)
(五十百十三)
(五十百十四)
(五十百十五)
(五十百十六)
(五十百十七)
(五十百十八)
(五十百十九)
(五十一百)
(五十一百一)
(五十一百二)
(五十一百三)
(五十一百四)
(五十一百五)
(五十一百六)
(五十一百七)
(五十一百八)
(五十一百九)
(五十一百十)
(五十一百十一)
(五十一百十二)
(五十一百十三)
(五十一百十四)
(五十一百十五)
(五十一百十六)
(五十一百十七)
(五十一百十八)
(五十一百十九)
(五十二百)
(五十二百一)
(五十二百二)
(五十二百三)
(五十二百四)
(五十二百五)
(五十二百六)
(五十二百七)
(五十二百八)
(五十二百九)
(五十二百十)
(五十二百十一)
(五十二百十二)
(五十二百十三)
(五十二百十四)
(五十二百十五)
(五十二百十六)
(五十二百十七)
(五十二百十八)
(五十二百十九)
(五十三百)
(五十三百一)
(五十三百二)
(五十三百三)
(五十三百四)
(五十三百五)
(五十三百六)
(五十三百七)
(五十三百八)
(五十三百九)
(五十三百十)
(五十三百十一)
(五十三百十二)
(五十三百十三)
(五十三百十四)
(五十三百十五)
(五十三百十六)
(五十三百十七)
(五十三百十八)
(五十三百十九)
(五十四百)
(五十四百一)
(五十四百二)
(五十四百三)
(五十四百四)
(五十四百五)
(五十四百六)
(五十四百七)
(五十四百八)
(五十四百九)
(五十四百十)
(五十四百十一)
(五十四百十二)
(五十四百十三)
(五十四百十四)
(五十四百十五)
(五十四百十六)
(五十四百十七)
(五十四百十八)
(五十四百十九)
(五十五百)
(五十五百一)
(五十五百二)
(五十五百三)
(五十五百四)
(五十五百五)
(五十五百六)
(五十五百七)
(五十五百八)
(五十五百九)
(五十五百十)
(五十五百十一)
(五十五百十二)
(五十五百十三)
(五十五百十四)
(五十五百十五)
(五十五百十六)
(五十五百十七)
(五十五百十八)
(五十五百十九)
(五十六百)
(五十六百一)
(五十六百二)
(五十六百三)
(五十六百四)
(五十六百五)
(五十六百六)
(五十六百七)
(五十六百八)
(五十六百九)
(五十六百十)
(五十六百十一)
(五十六百十二)
(五十六百十三)
(五十六百十四)
(五十六百十五)
(五十六百十六)
(五十六百十七)
(五十六百十八)
(五十六百十九)
(五十七百)
(五十七百一)
(五十七百二)
(五十七百三)
(五十七百四)
(五十七百五)
(五十七百六)
(五十七百七)
(五十七百八)
(五十七百九)
(五十七百十)
(五十七百十一)
(五十七百十二)
(五十七百十三)
(五十七百十四)
(五十七百十五)
(五十七百十六)
(五十七百十七)
(五十七百十八)
(五十七百十九)
(五十八百)
(五十八百一)
(五十八百二)
(五十八百三)
(五十八百四)
(五十八百五)
(五十八百六)
(五十八百七)
(五十八百八)
(五十八百九)
(五十八百十)
(五十八百十一)
(五十八百十二)
(五十八百十三)
(五十八百十四)
(五十八百十五)
(五十八百十六)
(五十八百十七)
(五十八百十八)
(五十八百十九)
(五十九百)
(五十九百一)
(五十九百二)
(五十九百三)
(五十九百四)
(五十九百五)
(五十九百六)
(五十九百七)
(五十九百八)
(五十九百九)
(五十九百十)
(五十九百十一)
(五十九百十二)
(五十九百十三)
(五十九百十四)
(五十九百十五)
(五十九百十六)
(五十九百十七)
(五十九百十八)
(五十九百十九)
(六百)
(六百一)
(六百二)
(六百三)
(六百四)
(六百五)
(六百六)
(六百七)
(六百八)
(六百九)
(六百十)
(六百十一)
(六百十二)
(六百十三)
(六百十四)
(六百十五)
(六百十六)
(六百十七)
(六百十八)
(六百十九)
(六十一百)
(六十一百一)
(六十一百二)
(六十一百三)
(六十一百四)
(六十一百五)
(六十一百六)
(六十一百七)
(六十一百八)
(六十一百九)
(六十一百十)
(六十一百十一)
(六十一百十二)
(六十一百十三)
(六十一百十四)
(六十一百十五)
(六十一百十六)
(六十一百十七)
(六十一百十八)
(六十一百十九)
(六十二百)
(六十二百一)
(六十二百二)
(六十二百三)
(六十二百四)
(六十二百五)
(六十二百六)
(六十二百七)
(六十二百八)
(六十二百九)
(六十二百十)
(六十二百十一)
(六十二百十二)
(六十二百十三)
(六十二百十四)
(六十二百十五)
(六十二百十六)
(六十二百十七)
(六十二百十八)
(六十二百十九)
(六十三百)
(六十三百一)
(六十三百二)
(六十三百三)
(六十三百四)
(六十三百五)
(六十三百六)
(六十三百七)
(六十三百八)
(六十三百九)
(六十三百十)
(六十三百十一)
(六十三百十二)
(六十三百十三)
(六十三百十四)
(六十三百十五)
(六十三百十六)
(六十三百十七)
(六十三百十八)
(六十三百十九)
(六十四百)
(六十四百一)
(六十四百二)
(六十四百三)
(六十四百四)
(六十四百五)
(六十四百六)
(六十四百七)
(六十四百八)
(六十四百九)
(六十四百十)
(六十四百十一)
(六十四百十二)
(六十四百十三)
(六十四百十四)
(六十四百十五)
(六十四百十六)
(六十四百十七)
(六十四百十八)
(六十四百十九)
(六十五百)
(六十五百一)
(六十五百二)
(六十五百三)
(六十五百四)
(六十五百五)
(六十五百六)
(六十五百七)
(六十五百八)
(六十五百九)
(六十五百十)
(六十五百十一)
(六十五百十二)
(六十五百十三)
(六十五百十四)
(六十五百十五)
(六十五百十六)
(六十五百十七)
(六十五百十八)
(六十五百十九)
(六十六百)
(六十六百一)
(六十六百二)
(六十六百三)
(六十六百四)
(六十六百五)
(六十六百六)
(六十六百七)
(六十六百八)
(六十六百九)
(六十六百十)
(六十六百十一)
(六十六百十二)
(六十六百十三)
(六十六百十四)
(六十六百十五)
(六十六百十六)
(六十六百十七)
(六十六百十八)
(六十六百十九)
(六十七百)
(六十七百一)
(六十七百二)
(六十七百三)
(六十七百四)
(六十七百五)
(六十七百六)
(六十七百七)
(六十七百八)
(六十七百九)
(六十七百十)
(六十七百十一)
(六十七百十二)
(六十七百十三)
(六十七百十四)
(六十七百十五)
(六十七百十六)
(六十七百十七)
(六十七百十八)
(六十七百十九)
(六十八百)
(六十八百一)
(六十八百二)
(六十八百三)
(六十八百四)
(六十八百五)
(六十八百六)
(六十八百七)
(六十八百八)
(六十八百九)
(六十八百十)
(六十八百十一)
(六十八百十二)
(六十八百十三)
(六十八百十四)
(六十八百十五)
(六十八百十六)
(六十八百十七)
(六十八百十八)
(六十八百十九)
(六十九百)
(六十九百一)
(六十九百二)
(六十九百三)
(六十九百四)
(六十九百五)
(六十九百六)
(六十九百七)
(六十九百八)
(六十九百九)
(六十九百十)
(六十九百十一)
(六十九百十二)
(六十九百十三)
(六十九百十四)
(六十九百十五)
(六十九百十六)
(六十九百十七)
(六十九百十八)
(六十九百十九)
(七十百)
(七十百一)
(七十百二)
(七十百三)
(七十百四)
(七十百五)
(七十百六)
(七十百七)
(七十百八)
(七十百九)
(七十百十)
(七十百十一)
(七十百十二)
(七十百十三)
(七十百十四)
(七十百十五)
(七十百十六)
(七十百十七)
(七十百十八)
(七十百十九)
(七十一百)
(七十一百一)
(七十一百二)
(七十一百三)
(七十一百四)
(七十一百五)
(七十一百六)
(七十一百七)
(七十一百八)
(七十一百九)
(七十一百十)
(七十一百十一)
(七十一百十二)
(七十一百十三)
(七十一百十四)
(七十一百十五)
(七十一百十六)
(七十一百十七)
(七十一百十八)
(七十一百十九)
(七十二百)
(七十二百一)
(七十二百二)
(七十二百三)
(七十二百四)
(七十二百五)
(七十二百六)
(七十二百七)
(七十二百八)
(七十二百九)
(七十二百十)
(七十二百十一)
(七十二百十二)
(七十二百十三)
(七十二百十四)
(七十二百十五)
(七十二百十六)
(七十二百十七)
(七十二百十八)
(七十二百十九)
(七十三百)
(七十三百一)
(七十三百二)
(七十三百三)
(七十三百四)
(七十三百五)
(七十三百六)
(七十三百七)
(七十三百八)
(七十三百九)
(七十三百十)
(七十三百十一)
(七十三百十二)
(七十三百十三)
(七十三百十四)
(七十三百十五)
(七十三百十六)
(七十三百十七)
(七十三百十八)
(七十三百十九)
(七十四百)
(七十四百一)
(七十四百二)
(七十四百三)
(七十四百四)
(七十四百五)
(七十四百六)
(七十四百七)
(七十四百八)
(七十四百九)
(七十四百十)
(七十四百十一)
(七十四百十二)
(七十四百十三)
(七十四百十四)
(七十四百十五)
(七十四百十六)
(七十四百十七)
(七十四百十八)
(七十四百十九)
(七十五百)
(七十五百一)
(七十五百二)
(七十五百三)
(七十五百四)
(七十五百五)
(七十五百六)
(七十五百七)
(七十五百八)
(七十五百九)
(七十五百十)
(七十五百十一)
(七十五百十二)
(七十五百十三)
(七十五百十四)
(七十五百十五)
(七十五百十六)
(七十五百十七)
(七十五百十八)
(七十五百十九)
(七十六百)
(七十六百一)
(七十六百二)
(七十六百三)
(七十六百四)
(七十六百五)
(七十六百六)
(七十六百七)
(七十六百八)
(七十六百九)
(七十六百十)
(七十六百十一)
(七十六百十二)
(七十六百十三)
(七十六百十四)
(七十六百十五)
(七十六百十六)
(七十六百十七)
(七十六百十八)
(七十六百十九)
(七十七百)
(七十七百一)
(七十七百二)
(七十七百三)
(七十七百四)
(七十七百五)
(七十七百六)
(七十七百七)
(七十七百八)
(七十七百九)
(七十七百十)
(七十七百十一)
(七十七百十二)
(七十七百十三)
(七十七百十四)
(七十七百十五)
(七十七百十六)
(七十七百十七)
(七十七百十八)
(七十七百十九)
(七十八百)
(七十八百一)
(七十八百二)
(七十八百三)
(七十八百四)
(七十八百五)
(七十八百六)
(七十八百七)
(七十八百八)
(七十八百九)
(七十八百十)
(七十八百十一)
(七十八百十二)
(七十八百十三)
(七十八百十四)
(七十八百十五)
(七十八百十六)
(七十八百十七)
(七十八百十八)
(七十八百十九)
(七十九百)
(七十九百一)
(七十九百二)
(七十九百三)
(七十九百四)
(七十九百五)
(七十九百六)
(七十九百七)
(七十九百八)
(七十九百九)
(七十九百十)
(七十九百十一)
(七十九百十二)
(七十九百十三)
(七十九百十四)
(七十九百十五)
(七十九百十六)
(七十九百十七)
(七十九百十八)
(七十九百十九)
(八十百)
(八十百一)
(八十百二)
(八十百三)
(八十百四)
(八十百五)
(八十百六)
(八十百七)
(八十百八)
(八十百九)
(八十百十)
(八十百十一)
(八十百十二)
(八十百十三)
(八十百十四)
(八十百十五)
(八十百十六)
(八十百十七)
(八十百十八)
(八十百十九)
(八十一百)
(八十一百一)
(八十一百二)
(八十一百三)
(八十一百四)
(八十一百五)
(八十一百六)
(八十一百七)
(八十一百八)
(八十一百九)
(八十一百十)
(八十一百十一)
(八十一百十二)
(八十一百十三)
(八十一百十四)
(八十一百十五)
(八十一百十六)
(八十一百十七)
(八十一百十八)
(八十一百十九)
(八十二百)
(八十二百一)
(八十二百二)
(八十二百三)
(八十二百四)
(八十二百五)
(八十二百六)
(八十二百七)
(八十二百八)
(八十二百九)
(八十二百十)
(八十二百十一)
(八十二百十二)
(八十二百十三)
(八十二百十四)
(八十二百十五)
(八十二百十六)
(八十二百十七)
(八十二百十八)
(八十二百十九)
(八十三百)
(八十三百一)
(八十三百二)
(八十三百三)
(八十三百四)
(八十三百五)
(八十三百六)
(八十三百七)
(八十三百八)
(八十三百九)
(八十三百十)
(八十三百十一)
(八十三百十二)
(八十三百十三)
(八十三百十四)
(八十三百十五)
(八十三百十六)
(八十三百十七)
(八十三百十八)
(八十三百十九)
(八十四百)
(八十四百一)
(八十四百二)
(八十四百三)
(八十四百四)
(八十四百五)
(八十四百六)
(八十四百七)
(八十四百八)
(八十四百九)
(八十四百十)
(八十四百十一)
(八十四百十二)
(八十四百十三)
(八十四百十四)
(八十四百十五)
(八十四百十六)
(八十四百十七)
(八十四百十八)
(八十四百十九)
(八十五百)
(八十五百一)
(八十五百二)
(八十五百三)
(八十五百四)
(八十五百五)
(八十五百六)
(八十五百七)
(八十五百八)
(八十五百九)
(八十五百十)
(八十五百十一)
(八十五百十二)
(八十五百十三)
(八十五百十四)
(八十五百十五)
(八十五百十六)
(八十五百十七)
(八十五百十八)
(八十五百十九)
(八十六百)

成り、第一、二、三、四、五、六、の六環節の正腹線に接して六對の氣門がある。而して環節の普通現出する第一、二、三、四、の四環節にして第四節の腹面には縦溝を具へ、第五、六、七、八、九、の五環節は、此溝中に環節ある小突起をなして、所々に硬皮部を有し、麁にして毛を生じ、第九節の先端には肛門、第八節の腹門には、陰門を具へて居る。

二、雄蛾腹部の外形

雄蛾の腹部は、雌に比して多くは三角形をなし、九環節より成り、第一、二、三、四、五、六、の環節の正腹線に近く、六對の氣門がある。而して普通現出する環節は、第一、二、三、四、の四環節にして、其各節の基部は、淡青灰色先端部に黑褐色をなし、第四節の腹面には縦溝を具へ、溝の上方へ第三環節に近き方へ、に存する、黑褐色の硬皮部は雌にありては方形を成すも、雄にありては其中央溝縦して下方に向て鋭形狀をなし、其内面の二角は、灰色を呈し、此部が丁度八字狀に見へ、又溝の中央には、今試に針を以て、此部を反すときは、四本の鉤が現出するので、其鉤の基部の背面には、肛門、腹面には黑褐色にして細く彎曲せる陰茎と、其基部に二對の突起がある存の如く、雨者腹部の構造は、第四節以下の環節に、最も著しき變化を見るのであるが、一目して雌雄を區別し得べきは、

一、第四節の溝中、上方の八字狀部の有無を檢し、是の有る者は雌、

二、第四節の溝中に隆起せる縦線部を、針又は爪先端にて反し、鉤の有る者は雄、

三、第四節の溝中に、八字狀部なく、中央に環節ある突起を有する者は、雌、

の三項である、即ち予は常に此法によりて區別して居るから少しく卑見を記述し大方の教を乞ふ次第である。

品川三郎會員第三回品評會に於て蚕種の部に優等賞を得たれば得た榮

鈴木重五郎君

非製絲官營論（下）

本會主事補　小池市松

▲論者の確信を疑ふ

製絲官營論者は加藤君、前に述べたる如く、製絲官營なるべからざるを論ぜり、前號即ち下編に於ては之が實行の法を述べんとするに當り、其論ずる所を檢するに、意外なる故、其論ずる所を檢するに、意外なる故、其論ずる所を檢するに、意外なる故

▲官營の弊

予は今百尺竿頭一歩を進めて直ちに製絲官營の弊害一端を左に列擧すべし。

(一)官營は事業の發展を遲鈍ならしむ

官營は生産費多きを要す

(二)官營は事業の發展を妨げ

三市場の景況を觀察するに敏活なるべし

(四)一切の無職業者を出だす

現に束縛せられ營業の敏活を缺く

(五)多數の無職業者を出だす

右各項に就き更に其理由を概說すべし

(一)商工業の進歩は利慾と競爭とに因て成る、慾少くして獨古の製絲家は各自に對し十分の發達を望むも其たゞ經營、全國に渉り、其城郭に割據して、奮鬪晝夜を分たず、海内を横行し、横濱の生絲商若くは横濱の製用を横張せんとして突擊、夜襲、奮鬪を繰返し、遂に勢力を擴張し、其間多少の犧牲を顧みず、直に目的を達せんとしつゝあり

再び漂白粉液汁の微粒子芽胞形態消失作用に就て（承前）

農學博士　工藤文太郎

▲藥液の溫度と芽胞形態消失との關係如何

水試驗にありては藥液の溫度は芽胞形態の消失に關係のあるもなるや否や知らんが爲めに行へり。

前試驗に供用せるものと同樣の液を作り各ビーカーに入れフラッパス中に入れて次の如き四區に分ちて各液溫に於ける作用を觀測せり。

第一區　三十一度攝氏に藥液を保てる場合

直後にありても多くの氣泡のため視野暈り鮮明ならずされども可なり芽胞を認めたり五分十五分にありても大變なく五%のものは六十分後にありても尙可なり多數の完全なる形態を有せる芽胞を認めたり、一〇%のものの三十分後には固有の光澤形狀を有する芽胞は著しく其の數を減じ六十分時の後には更に其の數を減じなり、二〇%區にありては三十分後には完全なる芽胞はきはめて少數に認められたるも尙六十分後にありても固有の形態を有する芽胞の存するを見る。

第二區　三十四度に藥液を保てる場合

直後五%一〇%及び二〇%區共に大差なきも五分後には一〇%及び二〇%の區にありては視野に小泡を著しく生じ其泡は銀檢を實せり一〇%十五分後には少し生ぜず泡稍部せり三十分六十分後にありても視野決して晴れず二〇%區にありては十五分後は著しく認る芽胞の數すくなく、三十分の後の視野晴れ六十分後も氣泡を見る。視野に現はれ其他塵埃を多く點狀に浮べ銀檢上銀粒なりしも固有の形狀光澤を有するものを認むるも多數の點にありては直後に比べ甚だしき相違あるも。

第三區　三十七度攝氏に藥液を保てる場合

直後既に容器内にありて多くの泡を生ず五%區は左程なら ず銀檢上には二〇%區は多くの塵埃及び空胞の霧あ明かならず 稍芽胞の數は減少せるも知るべし五分後は二〇%區は殆ど視野 全面泡にて只僅に完全なる形態の芽胞を認む、三十分後には 一〇%區は藥液乾ら殆ど プレパラートを作るを得ざり 一〇%區視野明かならざるも芽胞の存するを見る六十分 時後にありても プレパラートの空胞消失せず塵埃多く視野暈る、されども 固有の形狀光澤を有する芽胞の現はるゝを認めたりも。

第四區　四十度に藥液を保ちたる場合

直後より六十分後に至りて尙五%のものには完全に芽胞を認め得たるも一〇%及び二〇%の兩區にありては三〇分後には藥液乾燥して銀檢を行はず。

一〇%區及び二〇%區共に直後容器全面泡を以て白色となり五分後にありて、尙盛に十五分後には稍乾く銀檢上五分後には直後に比し可なり認め得らるゝ芽胞の數を減ぜしなり、十五分後には極めて少數に完全なる形態を有する芽胞を認めたり。

以上成績を總括して考ふるに液溫の大なるに從ひ藥液に芽胞を加へたる際泡の立ち方激しく之れ全く芽胞と共に混加せらるゝ有機物質に藥液の作用する度の如何に原因す、其の上液溫を四十度以上にすれば藥液量大ならざりしため四十度のものは三十分以後一〇%區及び二〇%區三十七度のものは三十分以後二〇%區は乾燥により觸間となれり、今求め得たる所のものゝみより考ふるに液溫の高きほど藥液に浸し芽胞の數の少し、液溫の北較的低きものは漸次藥液に浸漬し時間の長き程視野に現はるゝ芽胞の數の減少するは、芽胞の數すくなくして現はるゝ芽胞の數の減少する場合に短かき時間内に限られある、時は藥液中に浸漬する時間と視野に現はるゝ芽胞の數とは一定の關係あるが如く即ち高溫の場合は低溫の場合に比し視野に芽胞を認め得る事困難なりき。

▲此の如くにして漂白粉液汁は芽胞を變形せしむ

以上の試驗の結果漂白粉液汁は完全に微粒子芽胞を消失せしむるものならざるも銀檢上視野に現はるゝ數の減じ行くは事實を知るべし以來、何故に視野に現はるゝ數の減少するなるやを疑ひ、或は空泡の視野に生じ數其の液は他逐遠せられたるにあらずやとするも、若し他に逐出されたるものと假定すれば空泡外の部分には殆て多く集合してあらざるべからず、然るに此の如き事實あらざりき。

或は空胞の生ぜしにより藥ガラスとの間隙大となりて銀檢上厚き層を見る爲め一方よりは稀釋せられたると同樣の點あらざるやを疑ひ、充分プレパラートをデッキグラスとカバーグラスとの間に液の存するを小ならしむる如き故ならざる事を強む。

或は視野明ならざるによりて認め得ざるやを知らんがためアイス三號銀電にアツペーの集光鏡を附し二〇%及び一〇%とを以て檢せしに視野の暈れるによりて其の認知し難かりし點を發見せり、同時に微粒子芽胞の外多數の顆粒塵埃によりて芽胞は殆ど隱されたるが如き狀態にありて銀檢上認め難し塵埃の多きは知れり、されども此等を除て凡て芽胞の藥液中に浸し置き銀檢上視野に現はるゝ數の減少するを認決せしむるに足らず、更に進みて他の傾面に於ける原因をさぐらんと欲せり。

此所に至り藥液中に芽胞を浸し置く時は起るべき變化を正確に調るには必ず個々につき連續的に檢するの必要あり、故に余輩は藥液中に芽胞を浸し之を顯微鏡檢査を行ひて次の如き成績を得たり。

供試藥液及び芽胞は單に芽胞を藥液に浸し置きたる試驗と同樣唯藥液の濃度は二〇瓦の漂白粉を一〇〇立方センチメートルの水に溶解せるもの、及び五〇瓦を同量の水に溶解せるものとの二通のものによりて試驗し、一〇%區及び五%區の試驗は行はず。

五〇瓦を溶解したる區

直後

無數の氣泡を發す鮮明に認むるを得ざりしに、依りて胞の數も、充分に知るは難く、其の上固有の光澤を認め難かりしなり。

五分後

細に多少芽胞の形狀は圓形を帶べるもの多かりき、されども固有の光澤形狀を有するものも尙可なり認められたり、藥液は尙氣泡を發せり。

十五分後

芽胞の壞れ行くを認めたり、其の形狀は圓形のもの最も多數に、次に日本繭の形狀をなし、中央に一の縊れあるものの、又は二球連續せる形のもの、單に桿狀を呈せるもの、或は桿の一端膨大なるもの等あり、されど光澤は固有のものあり固有の形狀光澤を有するもの尙存在せり。

三十分後

晩早泡を發する事すくなく、固有の形狀光澤を有する芽胞は殆ど見出し難く僅に點々之を認むるに過ぎざりしなり、大部分のものは變形或は破壞して其形を滅し或は光澤を失へるものとなる。

六十分後

殆ど三十分の際に等し此の際に此のものをゲムザ十倍稀釋液を以て十五分間染色して檢するに、變形せる芽胞は單に不規則なる桿狀體となり周邊は圓滑ならず、內容の如きものゝみ存し被膜と認むべきもの存せず、尙完全なる形狀を有せしものも被膜外側によく染色せられたる顆粒質物の附着せるを見たり。

百二十分後

尙ほ完全の形態を有する芽胞は甚だ稀に存在せるを認む。

二〇瓦を溶解したる區

直後

泡の盛に發するを見る芽胞の形態は明に認められ、且つ固有の光澤を放てり。

五分後

曇りて鮮明ならざるも固有の形態を有する芽胞を多く認めたり。

十五分後

固有の光澤形狀を有する芽胞を多數に認めたり、されども他の塵埃と共に存在し且つ顆粒狀物質はめて多く一見之れが附着せるもの、及び接近せるの際は認め難き場合あり其の存せる狀は全く饒檢を困難ならしむ。

三十分後

消變形せるものにありては圓形を帶び漸次其の周邊は平滑を缺きて變せ行くを認むされども完全なる芽胞を認む。

六十分後

前同樣

百二十分後

尙ほ完全なる形態の芽胞を認め得たり其の數はきはめて少數變形せるものは全く圓形又は一細膨大せる桿狀物又は桿狀物等あり、漸次顆粒狀の物に破れ消ゆる傾あるを認めたり。

▲然るべき結論とは如何

以上種々の實驗の結果を總合して考へるに漂白粉液汁は微粒子芽胞に對し確に形態を變ずるものなる事は明なりとす、尙進みて破壞さるゝものなき事は斷言し難きに屬せしむ、されども鏡檢上芽胞の認め難くなるは此等の事實以外に視野の曇る事及び瓦斯發生によりてデツキガラスは壓上げらるゝ事等の生ずる事は明に作用し、尙有機物及び其の他の顆粒質物の芽胞の周圍に附着するによりて一見芽胞と認め得ざる場合あるに據るものとす。

芽胞は普漂白粉液汁中にありて變形するものなるかに就きて考ふるに或るものは或じき變形をなせるにも拘らず全く原形を維持するものあるを見れば、其の形態變化に對する或る差の存在するを考へ得らるべし、されども此の點に關する解決は未だ得ず。

兎も角も漂白粉液汁中に微粒子芽胞を浸し置く時は或る一部のものは變形するにも拘らず尙完全に原形を保存するものあるは事實なり、而して全く形態を消失せしむる者へあるやは知らざるも消失せるものゝあるを是認して止まず、尙漂白粉の消毒作用及び殺菌効力に關しては後日に讓り玆に略す。

蠶絲業法施行に先だち蠶種製造者に望む

特別會員　齋藤積太郎

蠶絲業法は多年の懸案たる繭買の改良と蠶病の驅逐とに關する幾多の問題を包含し、遂く明年一月より之が施行を看んとす、我が政府は同法の施行に對し願る積極的方針を採り巨額の國帑を投じ各府縣又多額の經費を投ぜんとす施行後に於ける我が蠶絲業界は、數年ならずして著しき進歩を遂げ、國富の增進之によりて成るや蓋し疑を容れざる所なり吾人蠶絲業界に身を委ねるもの該法の趣旨を體し上下相つて人心の統一を謀り、各自其の本

分に向つて至誠を盡し、速に其の効果の多大ならんことを期せざる可からず、而して吾人は同法施行の去る日に際し諸氏に對し、蠶種の命數を向上せしめ、其の病毒に對し抵抗力を強きところの蠶種を製造し、一般養蚕者に頒布せんことを希望す、以下所信を掲げて之が實行を勧めんとす。

一　個人的蠶質統一を望む

本邦蠶種製造者の收穫量は特立蠶種に比し頗る多く失敗多し、從て其蠶兒は發育不揃を來し成繭又剛有の形質を具しない、之に反し特立蠶種は發育揃良なる能はず、試に蠶絲業統計の示すところに依るに、其收繭量は最近三箇年間の平均は、各化性を通じ百頭に對し三反七分九厘餘にして之を原種一枚に換算すれば、一反〇六厘餘に當り、吾人は數年前蠶業の隆盛を極むる某地に於て、而も家を以て目せらるゝ多數製造者の收繭量につき調査せるに、原種一枚たりとも一反四五分を收蔓せるものあるを見たり、就中某氏の如きは一反七分を得たりと誇称し、而も前者は「繭」で第三四流の製造者に就き調査せるに、繭量を秤定するに、唯一の衡器を有するなく、所謂眼秤りを用ひ一枚一枚に一反、一反と見做し、其實際の繭量の如きは一反三分を收繭するものあるを見たり、其帰て來て當時を顧みるに、徒に好じの弊あり、其帰立に當り前後に於て僅少なる繭を掃捨て、數回に亘り發生せる所の蠶兒を毎々飼育に供するものあり、從て其の蠶兒は齊一を缺き成繭又整不揃に陥るに至る場合多し、之れ原因無しと雖も、其の收繭量は頗る多數なるの實績あり、當業者諸氏乞ふ安んじて其の方法を實行せられんことを望む。

二　蠶蛾の命數向上に努めよ

吾人の飼育するところの蠶兒は多年人爲の作用に馴れ、天賦の資性に缺を來せ、其の命數の如きは天與の數を展ぶる能はず、從て資性薄弱に傾き命數短縮せられたるものゝ如し、之れ繭質向上に就き生じたる當然の結果なりと雖も、吾人は繭質の向上を謀ると共に資性を損なはず、且つ命數長壽なるものを得るの方法あるを信ずるものなり、以下其の方法に就き所見を述べんとす。

抑々資性の向上を謀るに關し方法多かるべしと雖も、蠶種製造者は原種の製造に當り、春蠶にありては產卵後約十日以上の命數を保ち、而して無毒蠶蛾の交尾產卵せるものを採り、之れに反し命數短きものは假令無毒なりと雖も除去すべし、斯の如く毎年生存期の長短を練り漸次天然淘汰を行はば、之が子孫は益々強健となり、假令病毒に侵されるも發病をなし終るの命數を保たしむることを伸べし

（野川藤次氏寫）

蠶兒の檢査に當る高瀬蠶種所仙台蠶種所蠶種部婦人部員

見は、病毒に侵はるゝことなく、其餘生を保ち製造せられたる蠶種は、生存無毒種として合格、印を付（與せられ、斯の如き蠶種は、熱の下に反覆製造せられたる蠶種は益々不良に陥かざるを畫に依れば、原作を好たる次年は豊作を擧くるものなりと、之れ即ち豊作の年柄に於ては盛受性の蠶兒能く結繭を爲し、不作を呈したる年は盛受性の蠶兒は繭質の向上に關し、又國作の年柄に於ては盛受性の蠶兒は氣候不順なりしが故に

事人は之が含め現行法に於ける消毒及蔵置検査を中止せしまとと云ふに非ず、反つて厳重なる執行を要求するものなり、蔵は唯病毒減少を謀ると発後及孵後の二性を視回し、今日以上に強からしめんと欲するものなり、而して吾人は其實行の手段として、當業者が組合或は試驗所等に依頼し、原蠶種を製造するに際し其飼育法は從來普通に行ふ所の方法を取ることなく、蠶の生理に抵抗し蠶見をして、氣候或は病毒等に對する抵抗力を強からしむる方法を取るにあり、即ち飼育蠶見は時には過度の寒暑又は湿熱に當らしめ、時には繁蠶重桑だる裏に飼育し、或は病蠶黒々中に飼育し、多數の繁蠶を出すもの之を顧みず、抵抗力強度にして而かも病毒に侵さざるへことなきものを撰び原種となすにあり、斯の如く數年間反覆飼育するに至らば、資性強健にして良好なる品種を得るに至るべし、之れ吾人の之が改良を要求して止まざる所以なり。

吾人は以上述べたるが如く、蠶質統一及蠶蛾命數、発疫耐疫二性の向上に就き概要を述べたるが、其目的を達するに於て他に通切なる方法多く存するを信ず、同志の士各自信據する所あらば之を發表し、其實行に吝ならざらんと欲ひ、終りに在み一言する所のものは吾人業界斯オにして往々眞理を解せず且つ不通の文字を弄せしの嫌あるを免れず、蠶くは唯期望改良上熱誠の餘りなるを以て嘱して之を咎ひる勿れ。

晩秋蠶は如何にすれば豐作するか（下の續き）

埼玉農報主筆　新井友吉

寒い時には火を使ふより外に手はない、即ち第八の項目に掲げた通り、必ず火力を用ひよと、云ふ理屈になるのだが、併し乍ら、僅かな低温や、少たし冷たいと思ふ時は東の間又は薄暮に吸に成りそうな見込の立つ時は成る丈火を使はぬ又は薄山便は ぬ方が宜しいと云ふと前後矛盾家撫の樣だが、然してそうではない、機微冒外であるので、多年蠶で腕を鍛へ上げた人は成程と合點するに相違ない、此間の呑み込みやコツとは筆や口おや書きも云ひ難ければ、只實地に其を置いて考へて貰ふ外より仕方ない、即ち火力用ゆべし用ゆべからずである、それから寒い時は可成室内を暖くし、北方には防寒の設備をせねばならぬ、最も飼育に着手する前に間取りに注意すべきは勿論至極のことである、こうゆう風に手等をして置いて、今度は飼育の方に廻つて、桑は長く小さく刻んで分量を減じ、又は雌雄を使用して冷氣を防ぐもの、高温に對する處置低温に対する處置と分けて話して見た所で、一日の中にも種々の變り方があり、夫れに從つて處置して行かねばならぬので、是は是等のことを呑み込んで、實地に臨んでマゴツかぬ用意をあれば十分だ何もムヤケ敷云ふべきほどのことはない、火の使用法のことは前に書いてあるから茲には云はぬ。

十一、晩秋蠶と乾濕に對する處置

乾湿の變化も亦寒暑の變化と同じ樣だ、そこで、臨機應變と云ふ文句は此ゝ處へ來て十分役立つ湿のこうのと云ふことは略して、正確なる乾湿計の用意が必要であること、其示度乾湿の差四乃至六度を標準として置くことを一言して置きたい、即ち其差が二三度に達すれば湿り過ぎた、是れ其差七八度に達すれば乾き過ぎた、是れ実行出來れば夫れで申分なしである。ソンナ各種の場合と云つてどの位の場合があるかと云ふに、第一高温にして乾燥せる場合、例へば暑くて乾く時だ、第二低温にして乾燥せる場合、例へば寒くて乾く時だ、第三、高温多湿の場合、暑さも暑し湿けも湿けると云ふ時だ、第四低温にして湿氣多き時則ち寒くて湿ける時である、此ゝ處らの場合の處置法を呑み込んで居りや間違はない、ことは不肖なから新井友吉の確く保證する所である、いざ節單に其處置法を述べて見よう。

高温にして乾燥せる時は約して云へば熱乾又は暑乾である、此時は室内をして成るべく涼しからしむる樣するのが第一だ、日除は是非作るが宜ろし、場合に依ては水を撒くもよかろう、又は温湿を垂れるのも宜かろう、給桑は切分を少し大きくして新しい桑を少しづゝ度々やるのが専一だ、矢鱈に乾燥を防ぐと思つて室を閉ずると云へば蒸熱つぽくなるし一度に深い山桑をやつて手數を省いた積りで喜んで居ると、蠶が食い盛さぬ内に早く乾燥して、澤山桑を給れて蒸れながら桑不足をさせたり、屑沙が堆積して御邪魔の御見舞を申すことになる注意すべしである。

低温にして乾燥する場合、即ち約言すれば冷乾の時は、先づ火のおこりを早く精して程宜い暖房温度を具せ、而して桑は少宛頻繁にやることにすれば宜い、此方が前の高温乾燥の場合より遙き易いことは云ふまでもない。

次に鬼出づるは、高温多湿と云ふ剛の者で、云はゞ熱湿とでも云ふべき奴だが、之れが一番手にをへぬ奴であつて、我輩の味方も度々此悪敵には イヂメラレタ、然し晩秋蠶では此先生に出喰はすことが少いのが何よりの仕合せである、それだからとてうつかりはせられぬ、防禦法の大要は知つて居らねばならぬ、先づ室内を實々として出來る丈涼しく、又乾かす樣にするが宜い、室内の戸障子や氣窓や天井等も出來る限り放して空氣の流通を圓滑にすべく、又時に焚火をやつて湿氣を排除し減て換氣を促さねばならぬ、次に飼育上に於ては、除沙を頻繁にして、又多量の稚蚕を使用し給桑は一回の量目を堆さずして回數を増加する事を力ひべきである、何んでも

遺腐時には落つき掃つてしかも機敏に活潑にやるのが第一だ、然るに世人は、ソレ〳〵とのみ言ふ所以ではない、馬車でもなく、ガヤ〳〵チヤ〳〵やガラ〳〵するどうしてよいか分らなくなる、遂に大事を仕損ずる様になる、頭腦を明晰にして手腕を活潑にする眼目と心掛けられたい。

実にて謂ふる場合にすれば、冷温とても云ふべき時には如何に冷温に逢遇するか蠶座に冷温を來して、蠶兒の食慾が減退し成るものである、それで前項の手段としては炭火又は焚火を用ゐて、一方に温度を上せ、一方に排湿を行はなければならぬ、而して蠶座の上には籾殻等を撒布し、除湿を頻繁にして、蠶座の潤湿と乾燥とを計るべきで、此外に手段も何にもない。

十二、晩秋蠶の利害如何

凡て何れの物と雖も利害絶對的なる者はない、誠れも一得一失ある者である、されば蠶は害失少くして利得の點數高きものが勝を占めるは、云ふ迄もない、晩秋蠶と雖此理に漏れざるものである、其性質を仔細に點檢すれば決して有利なる蚕慾のみではないけれども、其利害を計算すれば寧ろ損する所少くして益する所多く、養蠶家に向て其飼育を奨勵せざるを得ないのである、即ち何等かの支障に依りて夏秋蠶を飼育せざりしものの、桑園の桑葉に恐れなるもの、假令夏秋蠶を飼育する人も不幸にして建作に遭遇せるもの、秋蠶後桑を所有する人々は此晩秋蠶を飼育せらるゝが良いのである、之に依て或は損失を挽回し或は更に大なる利益を獲得し得るものである、而して其氣候も漸く冷涼と成るから若し適當に火力を使用したならば、其飼育は暑熱乾温に困じ所の夏秋蠶よりも容易に、其結果は安全である、其蠶質と雖決して良てはない、我輩今之を證明する爲に左に農商務省生絲檢査所服部技手の試驗成績を抜萃紹介するであらう。

第一表

試驗項目	一升重量	繭重量	繭數
蔵ヶ崎秋蠶（一）	三〇〇六	二七二	三六四
同　晩秋蠶（二）	二七一	七二六	一九　五
同　晩秋蠶（三）	二七一	二九四	三六一
同　晩秋蠶（四）	二七一	二七二	三五〇
同　晩秋蠶（五）	三〇〇四	二六〇	一一五

第二表

| 試驗項目 | 實綿 | 繭層 | 繭 | 蛹 | 蛹 | 蛹

あるが、君は曾て秋蠶の飼育期節の早晩を論じ晩秋蠶は利少くして害多しと言明したる君の如き大秋蠶家の口より斯く迄も変節を聞くは我一般の顧るる怪訝とする所なりが、當時に於て単純なる秋蠶眼で、単純なる蠶經濟を以て見れば、斯くの如き言説が出るのも無理はない、思ふに嘗にして今日養蠶社會の現狀を見たらば晩秋蠶に賛成するのみならず進んで飼育を勧奨せられたに違ひないと思ふ、今日晩秋蠶を排するが如き取る足らざる愚論であるが、併しながら其愚論を吐かしめたる晩秋蠶從來の狀況を回顧すれば亦必ずしも一理なきにしもあらずである、即ち從來の晩秋蠶は其種類が幼稚で蟲質盛劣にして蠶質亦劣等で飼育しては其結果良好ならず、化蛹して繭糸せんとすれば絲質最悪に不良で解舒困難なるを免れなかつた、思へば何なる蠶が飼育せられたかを、其多くは四化蠶ではないか、然らずんば相場師の際物的に製造する不良種ではないか、思ふに四化蠶は早く孵化せざるものと成るの恐あり

（より行はれた、普通晩秋蠶種は其製造氣節が暖るく爽なる時期に孵化せざるものと成るの恐あり）

（より多くの蠶種を生じ其年の蠶種の製造を投機的に）して晩秋蠶種の製造を投機的に

すること秋蠶の究理發見以前の如くであるなたではない、從て確實なる蠶種家は多くは之が製造に着手するを欲しなかつた、而して又蠶家を見るに何れも斯る不良の蠶種を掴立て、無

本山會長が女子會員に於て蠶業優良の賞勵金を授与せられたる

渡邊久兵衛君

君は攻城六年山形縣東村山郡大寺村に生る、父に蠶業に忠して蠶種製造業に従事其一度地方蠶業の弱はさるを見るや上信地方の先輩に歩み出でて稚蚕補助之育地に應用し其の結果者に勝る、

同年夏蠶業衰亡の盛な話ひるや組合立蠶業講習所を民営に自ら育英義塾の任に當り卒業生なり十二六百八十餘名の多きに及びたり君又進まれて村長の公職に就き次に組合會員となり斯業の發展に盡し組合長となり蠶飼育所を設置し君が五十年の生涯は蠶に始まり蠶に終るの活歴たり而して君が製造に掛る蠶種は盛岡比の其種として名稱に高き其一月九日本會出品蠶種評會に於て優等賞の光榮を授ふ其名聲や實に大なりと謂ふべし。

清國蠶業視察談

學藝委員
農士　本多岩次郎氏談

本多所長

▲柞蠶の飼育地

元來柞蠶は清國固有のもので、他に之れなきことは世人のよく知るところであります、清國のうちでも所謂柞蠶飼育地とも稱せらるゝ所は滿洲の一部と山東省とに限られてをる

本多所長は清國蠶業の實況に就き清國蠶業視察團の一員として無部長の指揮の下に一昨年の秋より翌年の春に亘り清國蠶業の視察に出張せられたるが、其の視察の結果を聞くに、清國は世界の蠶業國として大なる地位を有し其の蠶種は一般に賞讃せられ、一般人民の蠶業に對する熱心は大なる事と云ふべし、

ては最北部と金州半島の一部とを除きまして他に多少〻點々柞蠶を飼育して居ります、ソコデ此柞蠶繭は安東縣附近のものは多く芝罘に輸出し、鮑魚附近のものは其一部を大孤山より芝罘に輸出して居りますが、山東省に於ける柞蠶は萊州附近が最も盛大でありまして、此處に生産せられたる繭は殆んど其土地に於て製絲の上之を上海に輸出し、繭のまゝで送りませぬ、故に芝罘は山東省の一部であつても芝罘より出づる柞蠶絲は全く其原料を安東縣及び大孤山に仰いでをるのみであります。

奉州の柞蠶業ですか、今回調査致しませぬ故ご話することが出來ません。

▲柞蠶絲の産額及輸出數量

柞蠶製絲の最も盛なる所は芝罘でありまして、滿洲に於ては一ヶ所に多數の製絲場が集りて居りませぬ、乃ち點々各地に製絲する所があります、製絲の種類に就ては二通りあります、其の一つは大枠繰であります、他の一つは大枠繰と小枠繰の二種に別れて居りますが、小枠繰は所謂器械絲とも稱すべきもので、比較的品質は善良であるけれども、枠絲は粗惡で安く売られます、此小枠繰を製造する所は主として芝罘安東縣に於て其他の地に於ては大低大枠繰を製造して居ります、而して小枠繰は多數の職工を一製絲場に集めて操絲をしてをるけれども、大枠繰の如く遠つて居るものもありまするが、多くは個人的經營で小數の職工に依つて製絲をして居ります、絲の産出高は豐凶に依りて一樣ではありませぬが、近年に於ける清國全體の産出高は三萬四五千擔でありまして、主なる輸出地の輸出數量は左の如くであります。

	明治四十年	同四十一年	同四十二年	同四十三年
安東縣	三、五五〇	八、一四八	六、五〇七	三、七五三
大連	一、五四九	六、九〇〇	六、四三一	六、九〇〇
牛莊	五、三二六	一〇、二〇七	五、七四四	四、二〇五
芝罘	一、一八一七	七、六六四八	一、一五〇八	一、四〇三四

此數年前迄は牛莊より輸出する柞蠶絲の數量は大連より多かつたさうですが、大連の設備が漸次完成するに隨て凡ての貨物が此處に集まり來ると共に、柞蠶絲も亦此處に集注致し來り、近年は大正に其輸出數量を增加しました、此勢で行つたならば牛莊は全く衰へて輸出の全部は大連に奪はれて仕舞ふであらうといふことでありました。

▲朝鮮の柞蠶業は頗る有望

朝鮮に於ても柞蠶事業を奬勵して居りますので、北部の如きは漸次大規模加の傾向を呈して居ります、元來朝鮮北部の山は殆んど岩石、礫、櫟等の雜木が柞蠶を飼育するに適當なる狀態に於て植付けられてあるから、特に飼育林を仕立てざるも、少しより雜木林の手入れをすれば柞蠶を飼育することが出來ますると、此蠶を害及せしむることは比較的容易であります、ですから、平安北道の如きは最も此業を奬勵し、本年は柞蠶繭一億萬個を收ひる見込で六七千萬個の繭を收めたとい

ふことです。之から見ると朝鮮も亦將來柞蠶に對して有望の土地なることいふ迄もないことであります。

▲柞蠶飼育及製絲の經濟狀態

扨て現在に於ける柞蠶飼育及び製絲の經濟狀態を調査するに、柞蠶の飼育は土地に依りて利益のある處もあるが、此業は隨分豐凶共しきを以て其だ困難して居る所もあるのです、例を挙げて之を説明致しました、柞蠶育に從事する者は土地を借りて之を養ひ育てるから、數年間の平均は凡ての諸入費を差引くと一人一日四十錢位の價値にしかならぬのであります、飼育中山間に小屋を拵へて其中に住まひ、非常の困難を嘗めて居ります、而して一日四十錢位の報酬とは仕方がないやうに思はれますが、元來清國に在ては凡ての生活費が甚だ安いので、四十錢の日當に當れば現時の所では更も充分であるさうであります。

柞蠶繭の製絲の方に於ても之亦非常に有利のやうではあるが、其實體分困難のやうです、殊に柞蠶繭は日本に在りては第一化のものを以て繼絲に充て、二化のものは殆んど之を製種用に供するのですが、清國のものは之と反對で第一化のものは殆んど之を製種用に供し、第二化の繭を以て繼絲用に供するのであるから、製絲家は殆んど第二化の繭を一時に購入して大規模の收繭をなし、然る後に柞蠶絲を相場は高低激しきが故に時に非常なる利益を得ることあるも、又時に非常なる困難に遭遇することがあるので、此業務は常に不安定なるの感があるのです、されば小資本を以て此事業を營んとすれば必ず失敗することは恰も日本の製絲業が小資本を以て製絲事業を經營するよりも困難しいのです、さり乍らよく調査をして見ると決して不利益なる業務ではない、只其資本が時の波瀾に抵抗する丈け餘力があれば其利益の確實なることは予の深く信ずる所であります。

▲彼地に柞蠶製絲場を興せ

福浦に於て日本人の柞蠶製絲を試みたるものは數人ありますが、今日の處何れも普成功して居りませぬ、之は其だ遺憾とするところであります、安東に於て野和太郎君は谷馬之助氏の發明に掛る式を以て柞蠶製絲を營んと企てましたが遂に失敗を生じて廢めて仕舞ひました、又原氏所に於ても安東縣に於て柞蠶繭繰の試驗を遂つたのですが、南滿鐵道株式會社の如き大資に中央試驗場を設て柞蠶製絲の試驗を遂つたのです、此方法は從來の方法と大の違つて繭の時に漂白法を施し湯の中で繰絲するのであります、而して製絲場は二百人機であつて事務室を始め職工の寄宿舎を特設し、設備は實に完備したものであります、又從來柞蠶の製絲に從事する者は男子にて女子は一人もなかつたのですが、此試驗場に於ては男子に代るに女子を以てし、傳習より屢々大連に居る女子を使用致しました、之を使用するのである、然るに各種の事情の爲に遂に十分の働きを爲すことを能はずして數ヶ月の後中止するの狀態に

陷ったといふことでありますが、現今は其工場の一部を他の仕事の方で使つて居るといふ有様でありまして、斯様な譯で日本人の經營として居るのが、失敗に終つて仕舞つたから柞蠶製絲の業務は日本人が經營しては到底利益を得られぬものゝやうに考へて居る人もあるでせうが、之を見れば決してソーでないと思ひます。

〈利益は薄くとも有利な事業である、夫故に天下の有志者に希望するのは十分彼地の柞蠶事業を調査して之を營むことであります、予は此柞蠶繭を本邦に輸入して繰絲するといふことが日本國として最も有利であると考へ、此方法を取りたいと思ふに居ました、然るに一度彼地に行つて其狀況を熟察して見ると、予の今日迄の考へは、全く誤つて居たといふことが判つたのであります、何となれば彼地に於ける製絲場は不完全のもので、寄宿舎もなく、食事場もなき處で能く繰線工が働いて居るから、固定資本は、少く、又經常費も少額で行くことが出來るのであります、故に今日では繭を日本に輸入することが出來ないのです、故に今日では之を競爭することは、到底日本に於ては出來ないのです、故に今日では繭を日本に輸入して繰絲するよりは寧ろ彼地に於て日本人經營の製絲場を滿山に興すことを希望するのであります。

▲柞蠶以外の野蠶

最後に柞蠶以外の野蠶に就て一寸一言しておきませう、湯淵には柳蠶といふものがありますが、此柳蠶は、全く柞蠶と同一のものであります、併し只其異なる處は柳の葉を食ふといふ方法であり、柳の種類は澤山あるけれど、其内の朝鮮名細柳と稱するものを以て飼育してあります、支那では此柳のことを嵩と稱し朝鮮には狗柳と稱するのであります、此柳で飼育すると飼育日數が早いといふことであります。

(例支那には楸蠶なるものがあると聞いて行つたから、所々方々に調査をしてみたが何處にもないのである、或は秋木といふ木があつて鍬道の枝木などに用ゆる堅い木であるが、此木で柞蠶を飼育するので特に楸蠶といふのではありますまいか。

又柳蠶といふものがある、之は朝鮮の平壤附近に最も多い、が、平安南道の各所に在るのです、此蠶は柳の木や楡の木に類似した木の葉を以て飼育するのである、之を以て業務とする程でもない樣であります、柞蠶に類似したものは此位のものであるから、之で止めて次に清國の蠶業に就て御話いたしませう。(口絵參照)

本會創立以來第一回品評會に於ける優等賞を受けたる

君鄭次市郎

君は弘化四年四月二十三日石川縣能美郡白峰村に生る、父を小市郎氏と稱す君は其三男たり、明治十八年初めて彩蠶業に從事し年々其規模を擴張したるが二十二年六月白峰繭織合組織し工場の改革工女の禮節共衛生に新たり然れども生糸相場の變動甚しきを以て幾多の損害に遭遇したが君終始奮闘の結果遂に今日に至る君は性温厚にして主義の別を設けず故に工場に入れる工男女は皆厚くして他に類なし好まず水平の勤續者頗る多しといふ去月三日本會石川支會第一回品評會に於て優等賞の光榮に浴するも亦偶然たらずといふべし

産繭地を荒し廻はる製絲家を取締る方法なきか

蠶業講習所技師　町田穣氏談

町田技師

繭者一日町田技師を東京農業講習所に訪ふ氏に繭産地荒廻り製絲家の取締方法なきかを問ふ氏は東京都出身にして日く蠶界の形勢日々に進歩して廻て未だ飽満するの其象あるを聞かず此邊にて望く後株ぜんか迄に新業の根株を植ふるに至らんと多數當業者の歎賞なり然れども過度の發達は大に關係して居るやに思ふ、何故に交通機關の發達すれば繭相場が高くなるかといふに下へでも各地の製絲家が這入り込むことになるからである、各地の製絲家が這入り込む結果は同一地方の產繭を同一の製絲家が獨占的に買ふことが出來なくなる計りか此間には所謂此間京都から兵庫の方へ行つて來たが有名な某共同製絲も昔のやうではないやうに聞いて來た、夫れはイロ〳〵の原因もあるであらうが、近來生絲相場が安いのに繭相場が反對に高いといふことなどは慥に影響して居るやうだ。

◉何故に繭相場が高いか

何故に繭相場が高いか之にもイロ〳〵の原因があらうけれども、交通機關の發達などは大に關係して居るやうに思ふ、何故に交通機關の發達すれば繭相場が高くなるかといふに下へでも各地の製絲家が這入り込むことになるからである、各地の製絲家が這入り込む結果は同一地方の產繭を同一の製絲家が獨占的に買ふことが出來なくなる計りか此間には所謂競買なるものが盛に行はるゝことになつて、自然に繭相場を吊り上げ悪い繭迄も安くては買ぬやうなことになるのである。

◉交通機關發達の影響

タトへ繭相場が少し位高くなつても、年々買ひ來りし養蠶家の繭を相變らず仕入ることが出來れば宜しいけれど夫が出來なくなるから其製絲家も亦他へ出掛けて買はねばならぬことになるし、又一方では、原料が昔のやうに續けなくなるから生絲の品質も一定せぬことになつて顧客の信用も維持することが出來ず、之が自然賣行きにも影響して遂には經營の上に也躓いを生ずることになる、マー困つた現象といはねばなるまい、彼の平田商全株式會社の如きも其地方の養蠶家とは小

作的養蠶のやうな一種特別の關係を持つて居たのであるが、二三年來他の製絲家の爲に此特別の關係を破られて大に弱つて居るさうぢや、之も歎るべき所である。所は交通機關の發達の爲で、といつてマサカに蠶業地丈けは交通機關の發達を御免蒙る、といふ譯にも行かず、否益發達するものであつてみれば製絲家たる者は其考へて將來の經營をせねばならぬ。

◎氣の毒な地方の小製絲家

一體交通機關が如何に發達した所で各製絲家が互に公德を守つて行けば調和買の弊も起らず、又其方が結局兩互の利益であるけれども、算盤に目のない人には公德も商業道德もあつたものではない、勢の續く限り手の廻はる限りは何處へ來製絲家と養蠶家との間に存じたる一種の美風は忽ち破られて其上繭價を暴騰せしむるから一番氣の毒なのは地方の小製絲家である、他から來た製絲家は良い品を計り撰つて値段に構はず引き拔いて行くから、後に殘つた惡るい繭でも我慢をして而かも繭に高く買はねばならぬことになる、タトへば普通一貫目四圓五十錢位の繭を良繭計りを拔いて五圓に買つて往つたとすれば後に殘つた繭は三圓七八十錢か四圓位が相當と聽めても四圓五十錢も買はれぬことになるので小製絲家の經營は之が爲に非常の困難を來す譯けである。

◎粗雜な飼育法を行ふ惡習慣

斯うなつて見ると獨り養蠶家丈けが繭の値賣りをして甘いやうだが併し茲に一つ困つた考へを養蠶家に持たせることになる、夫れは何かといふと粗ろい繭でも相當の値賣りが出來るものを骨を折つて良い繭を作ることは及ばぬといふ考へである、一度此考へを起して飼育法を粗雜にすると、夫れが忽ち習慣となつて容易に改むることが出來なくなる、斯て何れの養蠶家も皆粗雜な飼育法を行ふて粗惡な繭を取るやうになつたらドーしたものであらう、兎ても立派の生絲の得られやう筈はないであらうか、之れでは如何に種類の統一など云ふ事は何ども立たぬことになり、政府が今日多大の國費を投じて原今種の統一を圖らうとする事柄なども空しく水泡に歸するであらう、誠に遺念に堪へぬことである。

◎産繭地を荒し廻はる製絲家

されば交通機關の發達に任して產繭地を荒し廻る製絲家ほど厭のものはない、併しナポ品買の良いものゝみを買ふにした所でよく算盤が持てたものだと知れても不思議のやうに思はるるが、段々聞いてみると今年の調は平均何掛けで買ふと見込みを立てゝ手先きとなつて働く繭仲買に就き合を下すさうである、此就合に接したる仲買人等は電光石火の如く東に西に馳け廻る、或所では高いものを買ふかと思へば又或所では非常に安いものを買ふやうにするさうである、斯くすれば製絲家の方では之を平均して見れば見込みを立てた何掛かに相當するやうになるといふことである、先づ彼等はコンナ事してせばは到底長續の持てない筈はあるまいが、何れにしても損流す際害は其に何とか之を厳重に取締る方法はないものであらうか速に之か方法を講じたいものである。

萬國蠶絲業會議の模様

學藝委員　吉池慶正

吉池慶正氏

去十月十六日に無事閉會せられたる萬國蠶絲業會議に關しては既報ありて嘗く引續り詳報せられたるが昨今漸く錄事に復せられ再び會務に執筆せらるゝことゝなつた於此乎編者或時萬國蠶絲業會議の始末如何を問ふ乃ち氏の筆を煩はしたるものを本誌なり愛讀者諸君の一讀を請ふ所以なり

僕が佛蘭西の里昂に於て生絲商組合長を訪問した時、其組合長は君が歐洲へ來られたは頗る良好の機會であつて、歐洲一の蠶絲業地たる伊太利には建國記念の五十年祭博覽會がある、又萬國蠶絲業會議もあると話された、そして僕は博覽會の事は承知して來たが、蠶絲業會議の件は和耳だ、場所は何處で何人が主催者であると尋ねると、伊太利の鳥野で同所の蠶絲業組合長クラポンヌ氏の名に依て招待狀が來たと、佐々木長淳翁は臨席せられ盛會の演說をされたことは豫て聞いて居つたが、それと是れとは性質は違ふてあるふが、其間に何等かの關係があるであらうと、クラポンヌ氏に面會して總ての狀況を尋ね自分も出席する手續を取つて運ぶべく考へた、其後暫らくして伊太利に赴き鳥野蠶絲業組合に「クラポンヌ氏を訪ひ前段の事を聞いて見た所が今回の萬國蠶絲業會議は昔時のものと其間に何等の關係もなく、又紹介者があつて二十リーラ の會費を納めたりとも出席する事が出來る、して其幹部より提出する議題は生絲檢査方法及改良の件及亞細亞製絲綿驗入に關する件である、若し夫れ君に於て意見があれば前以て幹部に申込で呉れと言つた、そこで自分の思ひたるに伊佛兩國共到る處蠶絲業者は我が蠶絲の勁敵は日本絲であつて吾々の「パン」を奪ふものは日本の蠶絲業者なりと迄で絕叫して居る、或は亞細亞蠶絲の名稱は主として日本生絲を指すものであつて此會に復讐的の問題を掲ぐるのではあるまいか、兎に角出席して事の

萬國蠶絲業會議の模様

異と相を探究するに若くはないとの念慮出で、既定の手續を濟ませし、其後里昂の水島領事より英國蠶絲業會議より見積の書信を受取り歓迎へ侵入するに有力なる援軍を得たるの思をなした。

斯くて九月の二十一日午前八時半頃水島君と相携へて馬車を驅り當日の議場たる鳥野市商業會議所へ往った。それと前後して伊太利、佛蘭西、獨逸、瑞西、墺太利、英吉利、亞米利加及支那等より出席者百三四十名許り來集した、自分は「めの絲業の梗概」を述べた。

斯くて伊太利の「ロッシ」氏は「日本蠶絲業の梗概」を述べた。

各國の代表者に紹介した。

開會の時間が來て「クラランス」氏が議長となり開會を宣告し、鳥野市長及鳥野商業會議所長の演說があつた、之を終ると議長の選擧に移り、暫時の休憩をなし此間に於て「レセプション」宗あつた、それから再び開會して議長選擧の投票をなさんとするや佛蘭西の某議員が「クラランス」氏を推さんと発言を求むるや、「クラランス」氏を推さんと発言を求むるや、「クラランス」氏を推さんと発言を求むるや、

自然的發達の必要に反對なる經濟制度に關聯せられ或は屢大廣大にして長期なる國際に渡はれ、或は外國が斯業に多大の奬勵を加ふる競爭に遭遇し、伊太利の養蠶及生絲工業は殆ど零落滅亡の境に沈淪せり、之を救濟するは政府の當然の義務なりとす、故に調査委員が調査するに依り一般經濟的利害を顧み重要の程度を察し研究普及保護の事業に對して國家は助力を與ふるを必要なりと認むる事を聲明す、而して本件に對する運動は伊太利養蠶業、生絲業及同技術家の賛同を得て蠶絲業に關する農工業者に委任す。

當局大臣及議院議員に本會の希望を進達することは之を本會の議長に委任す。

此夜會員一同は鳥野商業會議所の夜會に招かれてあったが、僕は止むを得ざる用事があって遂に參列せなかった。

第三日目には愚案となり居りたる國際委員を設くるの件を協議し、次の議決をなした。

本會は「左の希望を有す。

各國に於て諸種組合の發議により生絲及絹織物商工業に關する國際的問題の研究をなす爲委員會を組織すること。

此委員會は其國に於ける重要なる各種生絲商工業者の代表者を以て組織すべし。

毎年此各國の委員會の間に於て幹事を選定し此幹事なる委員會は國際委員會の中央部となり應務を處理す。

此中央委員會は必要に應じ各種の委員を招集して議決をなすものとす。

次に歐洲產絲の販賣條件と强細强產絲の販賣條件の異なる問題に關しては左の議決をなした。

本會は器械製强細絲の取引に行はるゝ實際の商慣は「ボーラック」里埔、美國、島野の規則及商習慣と一致せざるを認め其修正の必要なるを認む。

次に鳥野生絲檢査所長ザイベンス氏の提案と云ふよりは寧ろ歐洲生絲檢査所長多數の協議になりたる檢査法を一定する爲檢査規則改正の件を議したり、右に就ても質問檢出したるが主として里埔生絲檢査所長「デストナール」氏之に答へ反對なく左の如く議決なした。

本會は强細强產絲加工の契約に關し檢査すべき洋俵の選定は檢査所長に於てなす事を希望す。

本會は「檢査所長に於てなす事を希望す。

本會は「檢査所長に諸君の提案に係る正量、纖度、精練の方法を統一する爲檢査所規則の改正に關する提議を審議したる後討論及説明の旨意をも考量し成るべく速に之を賛成し檢査所規則中に之を採用せん事を望む」を以て本提議を各種生絲業組合及關係ある商業會議所に轉送す。

次に「モダー氏の提議に係る美濃及島野の商習慣の統一なる問題に對しては左の決議をなした。

本會は生絲及絹織物取引の一般の傾向は各地の商習慣を統一せんとする大勢なれば美濃及島野兩組合の研究を認め其他の各市場の商習慣に關しては此研究を繼續し完成せん事を國際委員會に委任す。

尙未了の問題があったが、是にて萬國蠶業會議は閉鎖された、そうして「クラポンヌ」氏は壇上に立て桑目鏡を氣障に掛け閉會の挨拶をした、そして佛國の委員「バイオン」氏は同氏の勞を謝し會衆一同之に和して此幕を取った。

午後は鳥野生絲組合の案内にて博覽會見物の日程であったが、自分は博覽會は厭く程見て居つたから此行に加はらなかつた、此夜は博覽會構内の料理亭に於ける曉餐會に招かれたが前の伊國國務大臣たる博覽會副總裁「ガキーラー」氏外數名の演説があって頗る盛であった、期待したる萬國蠶業會議も之にて終ぬた、此會議は有志の會合であるから何等の强制力は持たない、ほんの參考に過ぎぬ、唯歐洲の蠶絲業者が如何なる意向を有するかと判つたのみである、それで今後此血脈を受けたる萬國蠶絲業會議は開かるてあらふか、僕の見る處では或は六かしくはあるまいかと思ふ、佛蘭西の如きは蠶絲業は餘り息竈なので伊太利もあまり不振の狀態にある、されば其勢進元を引受けて遣る所はあるまいと思ふ、殊に博覽會なんと云ふ御祭騷が一方にあれば兎も角も何もない時には人は氣乘りもせまいと考へられるれば恐らくは是にて御仕舞であらふ。

蠶種の不時催青及び發蟻に就て

特別會員　田中良太郎

本年十一月の候各地に於て春蠶種の催青發蟻を見當めに產蠶家の產室と居るの事實を聞き、種別に在りて左の一節の要領ありたり時に本欄に收錄して讀者の參考に供す「編輯」

元來蠶種學中に其發育の如何を問ふ事は實際の蠶種に於て明かに明瞭なる事なれども、尚ほ其一般的事實の發育發蟻の現象に於ては、未だ研究の餘地多くして、尚ほ研究を要する問題の多きを見る、僅かに數年前より蠶種の催青及び發蟻の現象に關する研究は、其一部分は生育期に於ける溫度の高低と氣候の遲速に基因するものなりとの一定の結論を得たるのみにして、其他の二次的の問題は未だ研究の餘地多くして、二週間前外にして發生するものなりと云ふ。

而して蠶種は從來の慣例に從て、春期の蠶種は夏を過ぎ秋季に至り一旦冷氣に逢ひて、冬期中室内又は大氣の溫度の高低に從ひ、稍ゝ溫暖なる氣候に遭遇する時は、再び孵化を開始するものとなし、其間に於ては、其孵化の遲速は、其年の氣候の如何に關係するものとなし、其年の氣候の如何は、其年の春期に於ける溫度の高低に關係するものとなし、其年の春期に於ける溫度の高低は、其年の冬期に於ける溫度の高低に關係するものとなし、其年の冬期に於ける溫度の高低は、其年の秋期に於ける溫度の高低に關係するものとなし、其年の秋期に於ける溫度の高低は、其年の夏期に於ける溫度の高低に關係するものとなし、其年の夏期に於ける溫度の高低

原富岡製絲所の買入繭品評會に如何き順序方法を以て開設したり

原富岡製絲所の買入繭品評會は如此き順序方法を以て開設したり

原富岡製絲所長　大久保佐一氏談

大久保所長

稍者は前號誌上に上州富岡町なる原富岡製絲所に於て開かれたる買入繭品評會が所期に與ふる轉益の甚大なるを叙して該者諸君に之を紹介しおきたるが其後如何なる順序方法に依りて此品評會を開設したるかと大久保所長に導れける際貴は其質問を受くること幾りを以て一々之に應するの傾を設け開設の順序方法を問答體に認めしおきたり宜しく之を御覽あれと示されたるに依り故に之を錄することゝなしぬ

左様今回開催した記念買入繭品評會なるものは、原合名會社の一部に屬する製絲部に關連した原富岡製絲所内に特設してある蠶業改良部の七週年を好機とし、一般蠶業の進歩、發展に聊かなりとも貢する處あるべきを切に願ひ、開設したるものにして是を原家の一部から見れば未だ緒に成するの域がありますが、併し開設の精神と其異例の實際的方法とは不日各方面よりの同情と協賛を築り、當富岡製絲所は開設準備の爲め多數の有志家日夜盡力せられ、街町會の決議を以て五ヶ所の絲門を建設し、之に飾燈を點じ其に開期中は全町民二千數百戸は擧げて國旗を揭げ、祝意を吊り各種の催しを起し、あらゆる手段を盡して會の盛大を計つて與れられましたので、實は當町創設以來の盛況であつたと一般の稱賛を得たことであります、且つ開會式、褒賞授與式及び附會式の式日に際しては、群馬、埼玉兩縣知事を初め、農商務省高等官、群馬、埼玉兩縣の高等官、蠶業技術官、東京市、横濱市、群馬、埼玉、長野、福島、青森、栃木、千葉及び茨城の各縣下に於ける蠶業大家並に紳士、紳商及組織者各位の御臨席を賜り、一層の光彩を添へ其の盛況は等しく意想外とする處でありましたが、其一般

蠶業界に對する影響の如何は此處に述ぶるまでもないことゝ存じます。

此買入繭品評會を開催しまする順序方法等でありますか、よく其御質問を受けることでありますが、茲に之を問答體に記述したのがありますから、それを一つ御覽に入れませう。

一問、何月頃より準備に着手でもありしや

答、在繭の平均見本採集は學園實習期五月廿八日より晩秋繭の採集十月八日迄に終了し其陳列及褒賞の準備は九月十日より着手し十月十二日に至り諸般の手續を投到、開會期間及授與式の日取り等を決定す

二問、出品人に應募するには如何なる方法を用ひたりや

答、出品繭は生産農人の際選其と認めたるものに限り實習試立の産業組合産繭に對し均見本出百五百名に限り出品者の恵見如何

三問、平均見本の採集は何時に依頼されたる生徒の所屬學校名人數

答、東京蠶業講習所蠶絲科本科三年生八名、横濱商業學校五年生五名、早稲田實業學校卒業生壹名、名古屋、大阪の商業學校卒業生各壹名、横濱商業學校卒業生貳名、合計十五名に依頼し當製絲所五名を補助として採用せり

四問、平均見本の取り方如何

答、生繭の調査總産口を床上へ一定の厚さに揃げ上下前後左右各々四面より一樣に蠶を公平に採集し、又產繭は實見せざるも出品者の申込者に對して特に出張して出品同樣の手順を施せり

五問、此實習方法に對する蠶絲の最初の出發と同樣の手順を施せり

答、出品方法は全然前例にして買入繭と同樣の陳列及れば購入價格を計算して後巻れ出品に免に鑑て聞で實差內規も皆て期間なき新方法を以て開設したり

されば再三實習重書講の結果決定せり而して審査の結果發表の後は此品評會の實習上、貴民又は實の結果を聴する人幾分風はるゝのは止むを得ざるものと一新る場合は其生産者の意に應して明基如見合すべしと思想せし處なり

六問、此品評會に對する一般出品者の恵見如何

答、昨年度蠶繭に於て本品評會開設の發端として今年の如く見本採集し上部の品評會に於て本年品評會開設は公表仕さりしと雖も參觀者時とり北海道に遠ちざりしなり故に採集されし見本は必ず品評會に出品するに至るものと一般に思像するに至れるが如し故に生産者の住所姓名を明すれば其に授賞の選に入れし如く故に出品者の住所姓名を明すれば列ぶ仕ず明る落體し者も往々あり、たりし之に反して繭仲買人に賞賛せしに業外にも其産繭は例實習の際に代價に品評會の結果に高價なり繭よりも反て等級の上位となり等差の公平最密な同賞に成績ざるの別所にて其例の選の品評會には其選期と落値と落値と落値

れを出品するものなり

陳列方法　一升内外を長方形の箱に入れ其上に硝子蓋をなし周圍に多少の裝飾を施し容易に陳列するを通例とす

審査方法　第一、審査肉眼鑑定には色澤、形狀、趣味、絲量等の採點をなし第二、審査器械檢定は出品全部より三粒乃至五粒の繰絲試驗を行ひ絲長、纎度、類節、切斷等の採點をなす

見本授業方法　其他詳細別紙にあり

陳列方法　始めて虚飾を去り蠶繭の容器を廢とし乾燥用の蠶箱を出品繭の容器に利用し更に蓋を用ひず陳列せり而かも陳列の單調を避けんが爲め蠶室蠶具用の器具ゝ其製品及出品繭參考品等を巧に應用して各種の模形を作成し趣味を以て一般に觀覽せしめんことを勉めたり

審査方法　從前審査を行ひたる後に從來の肉眼鑑定及器械檢定を普通審査として行ひ更に繰步及び産出額の項目を追加し是に特別審査の新方法を以て實地模繰の試驗を行ひ解舒及乾燥量に對する絲量並に繊質或は色澤趣味類力纎度等製絲に就て細密の審査を遂げたり

尚詳細は審査内規に參照せられたし

以上通例の審査方法なり

之で大抵御判りてあらうと思ひますが尚此外に特に蠶業組合の進歩發達を奬勵する爲に優賞旗の規定を設けまして、審査の結果蠶業組合に於ける群馬縣中の成績最優良なるものに第一區優賞旗を、埼玉縣中の成績最優良なるものに第二區優賞旗を贈呈し、又蠶業組合聯合會中の最優良なるものへ優賞旗を贈與しました。

第一區及第二區優賞旗の授與は特に各其の地方長官に申請せしに斯業奬勵の思召を以て親しく授與せられましたが、優賞旗に對する人氣は實に非常なる結果を現はす可く授賞せるものは更に此の名譽を明年度に於て重ねんとし他組合に於ては來年は是非此優賞旗を取りたいと意氣込んで居るやうです

遠響

朝鮮の蠶業（承前）

通信委員　戸塚巳之助

●官府の奬勵と其施設

如何にして朝鮮を扶殖開發すべき乎貧弱困憊の極に達せる韓人農家の將來は如何にして治むべき乎は日韓合邦以後に於ける朝鮮の一大問題にして一度足を新領土に移したる爲政家諸氏の異口同音に歎聲を禁ずる能はざる處なりし。

衣食足りて禮節を知り恒產ありて始めて恒心ありと云ふ、尤も普通なる古來の金言は現時の朝鮮に如何に適切を感ぜしめしか。

國利民福は將來の問題として如何にして先づ衣食の道を與ふべき乎とは實に急中の急なるもの、されば官府の當局者は總ての殖產方面に全力を傾注し、調查、探究至らざるなく指導に奬勵に保護干涉劃策周到遺算なからしめんとすと。而も一般普通農作を除くの外朝鮮の全般に亙つて氣候と云ひ土地と云ひ貧富老若相通じて從事經營し得べき副產的事業は蠶業を措て他に求むべくもあらず、果然當局者の意見も茲に重きを措かれたるが如く地方一般の有志も又其必要を認め茲に官民上下相一致して副業中就中蠶絲業の開發奬勵に最も重きを措くの傾向を實現しつゝあり。

合邦當時我　陛下は朝鮮民衆の無產貧弱を愍み賜ひ鮮人授產恩賜金一千七百萬圓を下賜せられ、夫れ〱各道各郡に配與し、地方適切の產業奬勵開發に資せらるゝに當り各道各郡其費途を攻究せる內、期せずして其大半を蠶絲業奬勵費に充當せらるゝに至り、之に加ふるに各道及郡に於ける勸業費を合算せば朝鮮に於て蠶業の開發奬勵に投ぜらるべき經費は內地の夫れに比して比較の遙に大なるものあるべきは疑を容れず。

昨四十四年中朝鮮總督府當局者が各道農業技術官を招集して決定せる蠶業上の重要問題は

　蠶業の奬勵

一蠶業傳習所　共同殺蛹乾繭所　稚蠶共同飼育所
模範桑園　桑苗育成　蠶種製造

二現狀に適切なる養蠶方法に關する件

三家蠶繭柞蠶繭及び生絲の販賣狀況に關する件

四蠶業傳習所事業を最も有効ならしむる方法に關する件

等にして一は道及び養蠶の主要地となすべき地方に蠶業技術者を配置し左記事業の指道奬勵及び監督を掌らしむる事

一蠶業傳習　二共同殺蛹乾繭　三稚蠶共同飼育
四模範桑園　五桑苗育成　六蠶種製造

二は蠶室は溫室又は土間其他在來家屋に多少の改良を加へて使用する事、飼育中の溫度は七十度前後を標準とする事、給桑回數は一齡七回二齡六回四齡五回五齡四回を標準とする事

三家蠶繭は可成內地に向て輸出するを可なりとするも、朝鮮に於て製造する生絲は朝鮮內に於て消費する絹織物の需用を充たす事とし、適當なる地方に機業を奬勵する事、但し繭の販賣に關しては中央及び地方の當該機關に於て相當の便宜を與ふる事、柞蠶繭は製絲を奬勵し其生產せる生絲は內地に向け移出すると同時に朝鮮に於ける柞蠶絲織物の需用を充す爲め適當なる地方に機業を奬勵する事、

四蠶業傳習所は先づ養蠶の主要となすべき地方に置く事、蠶業傳習所は郡又は確實なる團體をして經營の任に當らしめ左記の事業を施設せしむる事、但し事情の許す限り道立蠶業講習所を設立し、郡蠶業傳習所の統一を圖る事。

一共同殺蛹乾繭　二模範桑園　三桑苗育成
四蠶種製造　五稚蠶分配

蠶業傳習所及蠶業傳習所の蠶室蠶具は朝鮮の現狀に適切なる設備をなし、主として實地の傳習をなす事、蠶業傳習所は其地方に於ける稚蠶共同飼育の奬勵及び監督の任に當る事、蠶業傳習所及び蠶業傳習所の卒業生には相當の便宜を與へて其地方蠶業開發の率先者たらしむる事。

等其重なるものにして、各道當局者何れも此方針に基き夫れ〱施設計畫に勸められつゝあり。

而して恩賜授產金の利子に因て各道の經營せる養蠶施設の重なるものを擧ぐれば左の如し

京畿道

京城府に在ては養蠶傳習所を設置し生徒五十人を養成し、五ヶ月間の傳習を爲す事

桑園拾五町歩を設置する事

桑苗圃壹町歩を設置する事

桑苗七千五百本配布する事

製絲生徒三十六都は水源、富平、陽智、廣州、揚州、開城、仁川府外三十六都は水源、富平、陽智、廣州、揚州、開城、江華、漣川の八箇所に共同授產場を設け、養蠶傳習を行ひ生徒二百九十六人を養成する事

各場に一町歩宛の桑苗養成所を設くる事

授產者二百九十六人に對し桑苗三千本宛八十八萬八千本を配布する事

養蠶肥料蠶室蠶具の費用を相當に補助する事

桑園肥料蠶室蠶具の費用を相當に補助する事

作蠶授產場八ヶ所を通じ三十七人に一町歩宛の飼育林を撥當せしむる事

慶尙北道

桑苗配布一戶に對し一反歩を栽植すべき苗六百本宛を配布する事とし、四十四年度に於て九十九萬七百本を配布し爾後年々六十四萬七千六百本を配布し一戶一反歩宛を補助し、四十四年度に於て豐百四十八町九反歩桑園設定の補助として金五圓宛を補助し、爾後年々九十七町九反歩に對し補助する事、蠶具蠶室及蠶棚材料を配布する事とし、四十四年度に於て蠶具二萬九千六百二十枚棚材料一千四百八十一、爾後年々蠶具一萬九千五百八十枚棚材料九百七十九宛を補助配布する事

蠶室修繕補助し、四十四年度に於て一千四百八十一箇所、爾後年々九百七十九箇所宛補助する事

拔術傳習所より一都一人宛、淡道傳習せしむる事

慶尙南道

桑苗配布一戶に就き三百本宛とし、四十四年度に於て二十六萬七千本を配布し、爾後年々配布する事

蠶具傳習四箇所に就き五箇月とする事

期間を五箇月とする事

桑苗配布一戶に就き三百本宛とし、四十四年度に於て二十六萬七千本を配布し、爾後年々配布する事

養蠶傳習所に於て生徒八十人宛を養成し、淡道傳習せしむる事

道廳に蠶業巡廻教師を置き、栽桑蠶絲の、巡廻指導を爲さしむる事

桑苗蠶具の配布をなす事

桑苗圃設置共同蠶業所設置する事

各郡に種蠶共同飼育所一ヶ所宛を設け共同飼育を行はしむる事

蠶種及び桑苗は共同飼育者は勿論其他希望に應じ無代配布する事

蠶具蠶座、蠶網、蠶薦、蠶種計及族折器等前同斷無代配付する事

共同殺蛹所は各郡に一ヶ所宛置き共同飼育者其他一般の生產したる繭を殺蛹する事

桑苗の育成配布を爲す事

巡廻講話を爲す事

道內二十四ヶ所の授蠶講習所と八ヶ所の巡回教師撥當區域を定め農蠶業及林業の實地指導養成を爲す事

同小學校なるも蠶業講習所の設置共同育所の設置巡廻教師の設置其他各道に於ても之に準ずる事

桑苗の無代配布、種蠶共同育所の設置巡廻教師の設置殺蛹乾繭所の設置に對する補助等を爲て補助保護ならざるなければ、近き將來に於ける其効果の如何に顯著なるものあるべき筈は豫像に難からず。（未完）

比律賓群島の養蠶

マニラ帝國領事館報告

比律賓群島に於て養蠶を爲し得べきや否やの問題に關し、此程同群島農務、商務、學校局、見藏課長チャールス、エス、バンクス氏の發表したる意見を見るに、其記載の生產統計等の如き

比律賓群島に於て養蠶を爲し得べきや否やの問題に關し、此程同群島農務、商務、學校局、見藏課長チャールス、エス、バンクス氏の發表したる意見を見るに、其記載の生產統計等の如き

較へ小規模なれども養蠶を試みられたる結果に基く爲にや我邦の如く蠶一匹の食葉七匁、繭一個の目方四、五匁、其内一匁二分の輕繭を得らるべき割合なども多少不權衡の點なきにはあらざるも目下同政府に於ては切り實にして南今後多少我富業者の注意を要す。

比律賓群島は正しく熱帶圏内に位すと雖も其氣候は嚴格に云へば熱帶地方なるも思はれず寒暖の差甚だ少なく殊に本群島は海洋に囲まれ海風に來る及宜敎師等が本群島に來航したる以來、昔時は繁茂したる牧種植物の半半は移植せられ熱帶地方より移植せられ繁茂したるものなるも明かに今より四百年程以前に於て西班牙人の宜敎師等が蠶と共に其生育に必要なる桑樹の輕種を撒げ居る實より察するに桑樹の輕種は本群島に於て生育するに足るべし、而して今日に於て多少此等の蠶に關する諸柄の傳はり居れるも、比律賓家の史家に負ふ所多からず、北方諸氏の如く早世時代に於て養蠶家の試みられたる此種の冒險は種々の理由に依て幾期の成功を得ざりしと雖、當時比律賓人が此蠶に冷淡なりしとも其不成功の一因たるやも蠶の存せざるところなる元來絹は人の丹精によりて成る產物の一にして其起源は上古に發たる暗影に包まれて今之れを詳にすること能はざれども當初支那人又は印度人の唯先づ絹に成功したること並に蠶の原始はヒマラヤ山中の某所に存せしことは想像され得べき分の證左なきにあらず、然れども斯かる比較的寒冷なる温帶地方より蠶を直接に比律賓群島に輸入したりとせば直ちに疾害を惹起したるや明かなるを以て本群島に於て容易に繁殖し

得べき養蠶の輸入原地は其何れなりやを考ふるに當り既に厥羅巴式の養蠶法を採用し、且つ氣候稍本群島に似たる某國を想到するに初めて蠶を輸入したるは佛蘭島にして、此最初の蠶よりして引續き多くの養蠶期を経て、此功を見て其蠶は最早や五年間何等の故障を見ず、又ラグデアの養蠶家ペルシー、エヌ、ペーン氏は一年間に二回以上の收繭を上げ得べき意見を有し、多年間養蠶に從事しつゝあり、其の原産地なる歐羅巴及東洋諸國に於て養蠶は現に商業的金業として成され漸次横張し居れるが、此等諸國に於ては若し氣候養蠶に適し一年間に二回以上の收繭あり、而かも之れを以て一年一回若くは多きも二回の收繭あり、而して前記の如き比律賓群島に於て一年間に六、七回の收繭あるを得らるゝことを發見せしに於ては世人は直ちに本群島に於て養蠶を飼育せんとする熱心なる考を起したるなるべし、故に吾人は今次の記載をなし得ることに付ては尠なからざる滿足の感を抱くものとす、即ち前記千九百七年の初期に於て輸入したる蠶種は凡そ四十、五日間を經過したる今日迄は僅に良なる飼育を遂しつゝあり、而して一養期は概ね四十五日間にして少なくとも「マニラ」以外の二地方即ち「イロコス」「パルテ」洲の「バタク」並に「カガヤン」洲の「バンバンガ」に於ては既に取引程度に達して絹の産出を見つゝあることゝ之れなり。

本論文に於ては養蠶上の諸問題を詳論せんとするものにあらず、蓋し斯の如き諸問題に付ては既に本群島政府科學局に於て出版したる書籍に於て述べたる事項中大略左の如きものなり。

比律賓養蠶の手工業と趣を異にする書籍に於て述べたる事項中大略左の如きものなり。

比律賓養蠶の手工業と趣を異にするなり、而して同書の記載せる事項中大略左の如きものなり。

養蠶の總説、養蠶室の設備、使用器械、紡績法、繭市場買出し及び解化用蠶の運搬方法、桑樹の種植並に其の管理法、桑葉の採取法、桑葉の選定、同上の見積、蠶の飼育法、蠶の刻蔟、蠶の上仕立、蠶の刻蔟、繭の採取及び乾燥法、繭の貯蔵、繭の選定、繭の見積、繭の出荷並に其の取扱方、繭の販賣、繭の品質、繭の等級、繭の製造用に供せらるべき繭の等級、繭を材料とするものにして、蠶れも此島の名産なり、又右生

十八年間養蠶及び製絹業に從事せる同國人某は養蠶にマニラへ來遊の際語るらく、同人は當地科學局に於て經營する養蠶法の學課を修了し、直ちに本群島に見るが如き斯の如く多くの養蠶家に於て養蠶を飼育せんとする熱心なる考を起したるなるべし、故に吾人は今次の記載をなし得ることに付ては尠なからざる滿足の感を抱くものとす、即ち前記千九百七年の初期に於て輸入したる今日迄は僅に良なる飼育を遂しつゝあり、而して一養期は概ね四十五日間にして少なくとも「マニラ」以外の二地方即ち「イロコス」「パルテ」洲の「バタク」並に「カガヤン」洲の「バンバンガ」に於ては既に取引程度に達して絹の産出を見つゝあることゝ之れなり。

本論文に於ては養蠶上の諸問題を詳論せんとするものにあらず、蓋し斯の如き諸問題に付ては既に本群島政府科學局に於て出版したる書籍に於て述べたる事項中大略左の如きものなり。

比律賓養蠶の手工業と趣を異にする書籍に於て述べたる事項中大略左の如きものなり。

養蠶の總説、養蠶室の設備、使用器械、紡績法、繭市場買出し及び解化用蠶の運搬方法、桑樹の種植並に其の管理法、桑葉の採取法、桑葉の選定、同上の見積、蠶の飼育法、蠶の刻蔟、蠶の上仕立、蠶の刻蔟、繭の採取及び乾燥法、繭の貯蔵、繭の選定、繭の見積、繭の出荷並に其の取扱方、繭の販賣、繭の品質、繭の等級、繭の製造用に供せらるべき繭の等級、繭を材料とするものにして、蠶れも此島の名産なり、又右生

絹中十分の九は支那より輸入するところなるが、如何にも粗造のものなり、税關の報告に據れば千九百三年より千九百五年に於る三ヶ年間本群島内に輸入されたる生絹及び絹絲の價額は米貨五十四萬九千弗にして、其の關税額は米貨十二萬五千弗にてありき、其中若干は北米合衆國及他諸國より絹として輸入され居れども、大部分は隣國支那より來りたるものとす、又千九百十年度支那及日本より輸入されたる絹織物の總額は米貨十八萬七千弗にして、其の關税額は米貨八萬五千三百弗なり、翌年度米貨十七萬五千弗の絹絲並に米貨十八萬七千弗の織物が他日比律賓群島内に於て生産し得らるべきを嗚導したりとせば、是等輸入絹絲の全部は比律賓群島内に於て假令輸入絹絲に優ることゝ雖も、同じ品質のものを生産し得べきことを充分立證し得らるゝ域に於ては、如上の假説と世人が想像するが如く然かく然かを以て若し之が材料として絹絲の全部は比律賓群島内に於て

米貨十五仙、小兒米貨十仙の割合にて、此等は目下實際其雇入れらるべき多數の勞働者に對し支拂ふべき最高の賃錢なりとす。

養蠶用家具、家屋は本群島何れの場所に於ても實際何等充分の用意なくして建設せられ得べし、蓋し之れが建築に適當なる材料は本群島内到る處に豐富なればなり、余は之れが材料として竹及ニッパ(椰子の種類)を舉ぐるものにして、竹は家屋に、ニッパは屋根に用ひらる、而して其造られたる家屋は炎天及且つ雨天共に安全にして充分蠶兒を保護するに足るべし、又縲具は何處にても得らるべきのみならず、其材料も亦多く附近にあり、故に製絹業に從事せんとする者に對する唯一の問題は養蠶業開始前二ケ年間に桑樹を植へ付け同期間該樹に適當なる注意を施し、且つ其培養をなすに在り、斯の如くして同蠶業家は其後各樹より生ずる桑葉を以て一千乃至一千五百の蠶兒を飼育せられ得べき位置にありと云ふを得べし。

毎一「ヘクター」(我一町二十五歩に當る)の土地にて容易に一千の桑樹を培養せられ得べく、又毎年一本の樹より五十「キログラム」(一「キログラム」は我が二百六十六匁に當る)の桑葉を得らるゝものとすれば一「ヘクター」より五萬五千「キログラム」の桑葉を生じ、之れにて三百乃至三百五十萬の蠶を飼育せられ得べし、而して三百萬の蠶は三千「キログラム」の繭を生じ、内一割二分は純良なる部類に屬し、其市價は大抵一「キログラム」に付米貨五弗五十仙乃至米貨七弗の割合なるを以て先づ一「ヘクター」の土地より米貨二千弗乃至米貨二千五百弗の收入を得らるべき計算なり此計算は全く香港相場及之れに對する關稅に基くものにして、同地に於ける生絹六十三「キログラム」の價米貨二百二十五弗のものに對し本島に於て之れが輸入關稅として米貨九十四弗五十仙を支拂へり、而して本島に於て同量の卸相場米貨三百六十九弗五十仙を唱へ、又其小賣値の如き一「キログラム」に付米貨十五弗乃至米貨二十弗を稱し居れり、從て内國產品が此小賣値の半額にて賣らるゝものとすれば幾許の利益なるやは容易に計算せられ得べし。

本群島產絹の市場に於ける眞の價値を知らんとするには今之れが評價の目的を以て本島產絹の見本を送り付けたる米國の信用ある一會社が右に對する稱讚的書翰の一節を玆に引用するは敢て不當にあらざるべしと思はるゝを以て左に之れを掲げん。

本社は當國大會社の多數より回答に接したるが、此等の會社は最初孰れも五封度乃至十封度の見本送付を請求し、之れを試用したる後其眞價を本社に通報し來れり、今や其回答に依りて判ずるに同會社等は一封度米貨四弗若くは五弗の市價を拂ふことゝなるべく、是れ本社の大に滿足とするところなり、而して是等諸會社は廣東及ベンガル絹に對しては一封度米貨三弗乃至四弗を拂ひ、歐羅巴及日本絹に對しては一封度に付き米貨五、六弗を拂へり、此に於て比島產絹は其品質の能く知らるゝ迄は先づ一封度の價米貨五弗は充分なるべしと思はるゝなり、

是等養蠶に精通し且つ決然其成功を收めんとするの熱心家にして、養蠶業を經營するの曉に於ては比律賓群島が現にフーシと稱する優美にして且つ無双の織物の著名なるが如くに生絹も亦頗る有名のものとなるならん、是れ敢て過大の想像にあらざるべしと信ず云々。

千九百十年度に於る世界の蠶絲業

佛蘭西

掃立數量、例年の通り佛國生絲の收穫に關する事項は佛國農務省公刊の統計表に依ることにした。

千九百十年度に掃立た蠶種の量は二十五瓦の十七萬八千七百十九箱である、今最近五年間の掃立數量を案ずるに實に左の通てある。

一九〇五年	一八九、二七九
一九〇六年	一七八、三〇三
一九〇七年	一八八、三六〇
一九〇八年	一八七、〇七三
一九〇九年	一三三、一八一
五ケ年間平均	一八五、二三九

千九百十年度に掃立てた十七萬八千七百十九箱は左の二十四佛國產繭地方に於て掃立たのである、

掃立蠶種の數量

(二十五瓦の箱)

郡名	地方蠶種	日本蠶種 原蠶種	日本蠶種 複蠶種	支那蠶種 原蠶種	支那蠶種 複蠶種	其の他の外國種合	計
ヱン	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
下アルプス	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
上アルプス	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
アルプ、マリチーム	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
アルデーシュ	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
オード	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
アヴェロン	[illegible]	—	[illegible]	—	—	—	[illegible]
ブーシュ、ヂュ、ローヌ	[illegible]	[illegible]	—	—	—	—	[illegible]
コルス	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
ドローム	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ガール	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ガロンヌ	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
エロー	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]
イセール	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ロアール	[illegible]	—	[illegible]	—	—	—	[illegible]
ロ、テ、ガロンヌ	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
ロゼール	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
ピレネー、オリエンタール	[illegible]	—	—	—	—	[illegible]	[illegible]
ローヌ	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
サヴォアー	[illegible]	—	—	—	—	[illegible]	[illegible]
タルン	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
タルン、エ、ガロンヌ	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]
ヴァル	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ヴォークリューズ	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

最近十年間の掃立數量は左表の如し、

年度	地方蠶種	日本蠶種 原蠶	日本蠶種 複蠶	支那蠶種 原蠶	支那蠶種 複蠶	其の他の外國蠶種合	計
一九〇〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
一九〇一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
一九〇二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
一九〇三	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
一九〇四	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]
一九〇五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]

千九百年度に於る世界の蠶絲場

| | | |

生絲が佛國絹絲家に歡迎せられつゝあるを知るに足らん、然れども右の增加は品質及び揚返しの改良と相俟ちて常に增加するのみなることを記憶せざる可からず。

以上は當佛國Angoulême市の燃絲家Arnaqui holdmsl氏の意見なりとて、農學博士大森順造氏及び農商務省海外實業練習生酒匂鷲郎氏の報告にかゝるものなり。

右は成るべく速かに本邦製絲家に知悉せしめ、其改善の從て速かならん事を欲するが爲取敢へず之を報告す。

右は在里昂領事木島孝藏氏（本會名譽通信委員）よりの報告に係るものにして本邦製絲家の再考と實行を要すべき重要問題也

新刊紹介

學士會月報　全　學士會刊行

學士員の住所姓名を敍錄したるものなり本書に依れば帝國大學の出身者見て之れ大百八名にして內法學博士七十八人醫學博士百七十七人農學博士三十一人工學博士三人文學博士四十八人理學博士六十五人獸學博士七十九人獸醫學博士一人また產業組合に就て

產業組合に就て

▲生產組合の性質

農科大學助教授　農學士　佐藤寬次

生產組合の目的は、組合員の生產したるものに加工し、又は組合員の產業に必要なるものを使用せしむるにある。是に於て此の組合は加工組合と使用組合の二種と爲すことを得るのである、然るに加工と使用との間には、實際の上に於て物の生產上同一の場合が多い、例へば生產組合に製絲機械を据へ付けたときに、組合員の繭を組合に集めて之を生絲にするに即ち前記の加工であつて、組合員が隨意に繭を持ち來りて自ら其の機械を動かし製絲する場合に於ては、之を使用と稱するのである。從つて生產組合に於て物の生產上必要なる物を供ふる理由は、要するに組合自ら此の設備を使用するか、若くは組合員をして之を使用せしむるかの場合より外にない、設備の使用を主とするものとも考へ得られるから、又事實上は使用組合と稱することも出來るものである、かく云へば或は生產組合の實質上の生產なるものを否認する樣に聞えるかも知れぬが、そういふ譯ではないのである。例へば生產組合に於て、組合員の繭を組合が生絲となし、又は組合員をして生絲となさしむることは、繭の加工で生絲の生產であるのである、從て此の意義に於て生產組合の名稱も高更捨てたるものでない、然しながら、生產組合の生產即ち加工と販賣組合及購買組合の生產即ち加工との間には、手續こそ同一の加工手續なる場合があるけれども、加工物の處分に於て大に趣きを異にすることを忘れてはならぬ、販賣組合の加工は組合員の消費上必要なる生產物を共同販賣する必要上より爲す所の所作である、購買組合の加工は組合員の消費若くは事業の原料として使用する便宜上より爲す所の所作である、然るに生產組合の加工は、組合員は其加工物を消費するも販賣するも貯藏するも一切關係する所はない、要するに加工物の處分は之を組合員の任意で、組合には一切無關係である。

販賣組合の加工は組合員の生產物を組合が生絲となし、又は組合員をして生絲となさしむることは、繭の加工で生絲の生產であるのである、從て此の意義に於て生產組合の名稱も高更捨てたるものでない、然しながら、生產組合の生產即ち加工と販賣組合及購買組合の生產即ち加工との間には、手續こそ同一の加工手續なる場合があるけれども、加工物の處分に於て大に趣きを異にすることを忘れてはならぬ、販賣組合の加工は組合員の消費上必要なる生產物を共同販賣する必要上より爲す所の所作である、購買組合の加工は組合員の消費若くは事業の原料として使用する便宜上より爲す所の所作である、然るに生產組合の加工は、組合員は其加工物を消費するも販賣するも貯藏するも一切關係する所はない、要するに加工物の處分は之を組合員の任意で、組合には一切無關係である。

販賣組合の加工は組合員の生產物を組合が生絲となし、又は組合員をして生絲となさしむることは、繭の加工で生絲の生產であるのである、此の點は確に生產組合が加工を爲すに不拘本來の性質は使用に重きを措くものなりと觀察せらるゝ譯で、前に使用組合と稱するを得と言ふた所以であるのである。

以上は勿論我國の生產組合に關して言ふたのである、歐洲各國の生產組合は概して我國の販賣組合に該當するものである、組合員が共力して生產するといふことは何の爲であるかといへば其の生產品を高價に販賣するにあるのである、高價に販賣し又一定の販路を獲得せんが爲めには、勢加工を爲すを可とするのである。是に於てか歐洲の生產組合は我國の製造販賣組合に該當するのであつて、我が生產組合の如く加工品は之を組合員に返戻する樣なものでないのである。

我が國の生產組合に於ては、都合の點もあるが、生產組合は上記の如きものであるが故に、又各種の生產物に加工を爲し又は組合員の生產物を組合が買入れて生產物を作り出すことを必要とする人々に就て考へて見ると、或人は自己の生產物の消費上精白を必要とする、又は自己の生產物の消費上精白を必要とする。

白米の販賣組合であつたならば第一の生產者のみを滿足せしむるに過ぎぬ、購買組合であつたならば第二の生產者のみを滿足せしむるに過ぎぬ、況や商品取扱者たる第三の人を滿足することの如きは販賣組合や購買組合の如き水車を組合員をして使用せしむる場合に於ては、第一の生產者も第二も第三の人々をも加入せしめて水車を利用せしむることを得るのである、是に於て生產組合は生產者、消費者及商業者をして其の所有物を處分する上には、一切自由放任せしめ、單に加工上の便益を與へるのである、又販賣組合の如く販賣物品を有する組合員とのみ組合員となし、購買組合の如く消費者若くは生產原料を要する人のみを組合員に限定するが如く狹隘なるものではないのである、此の點は販賣、購買組合の外に仰ぎ此の生產組合を必要とする所以

であるのである、又同じ販賣を目的とする為に、組合に於て加工を為すを必要としても、其の販賣に就きては從來の關係もあり、又製品に共に利益の獲得の妙所があつて、販賣組合に於て他の組合員と販賣を共にするよりも自己の名義を以て販賣するを可とする場合もあるものである、此の場合には生産組合よりも組合員に利益を得ぶ場合はないのである。要するに生産組合は外に利用組合が其生産物の精製を必要とするか、若くは其の産業を傍側の人にては到底利用するを得ざる生産手段の活用を為す場合である。

それ故に生産物の販賣に當りては販賣組合の如く、組合員の生産物の販賣に當りては、個人企業の利潤を以て個人企業の利潤を獲得することを出來るし、又消費を為し費を為す場合は他組合員若くは組合の側時を受けず全く隨意である所に特徴がある。

從つて個人の活動を充分に認めつゝ、生産手段の共用を為す、此の場合は組合員の目的である。

中産以下の産業者の苦痛を救ふ所のものは、販賣購買上に於ける事業者に適當に事業の經營を為すことである、然るに今日の社會に於ては物の生産上最も必要なる機械器具の如きものは水の如き、開墾の如きは個人としては有利の條件を以てしては到底難し、利用し若くは實行するを得ぬ狀態の下に居るのである。是に於て何とかして此等の人々をして其の技能を發揮し、勤勉を活用する手段を講ぜねばならぬが、生産組合は即ち此の期待に應ぜんが爲めに案出せられた制度であるのである。

農業を營む上に於ても資金をなす上に於ても、機械器具を利用するを必要とする上に於ても、非常な從來の存在場合、工場倉庫等を利用することの能否が、今更述ふる迄もないとである、工場倉庫等を利用することは、今日の産業者の事業を進歩發達せしむる上に効力のあるとの力にて、今更述ふる要はない、生産組合員としての出來ぬ前記の機械其の他の生産手段を使用せしめて、文明の今日に適應した事業を營み得べからしむるのである。此の外に土地の獲得、開墾、若くは耕作上に此の組合を利用せしむるに於ては、今日最も複雑なる問題と稱せらるゝ土地問題をも多少解決することが出來るかも知れぬ。

反別は狭小である、殊に小作人の耕作人の勤勉力行を以てする、小作料の高い人の土地持農業者と、組合員の土地は小作人の小作料を減ずる作人の勤勉力行を以てする、小作料の高いのは小作人の責任なることは出來難い樣である、地主は小作料を減ずる為地位の不安固なるに基するものである、小作料中に見積つて居る消耗の費用を平常の小作料の增減を為す制度は、し、若くは救助するの費用を平常の小作料の增減を為す制度は、年々の豊凶に依つて小作料の增減を為す制度は、小作人をして金々從屬的關係に立たしめ、地主をして其の反別等に堪えざらしめる、從つて今日の小作制度は何とかして改めなければならぬが、小作人をして生産組合を組織せしめ、小作料は年々の豊凶に依つて減ぜしめるの制度は、一方從來の小作料の減ぜんとするの制度よりも小作料を減ずることゝなしたならば組合員は小作料の減ぜんとするの如く小作料の減少に依つて幾分かの餘裕を生じ且在來の如く小作

人を苦しめ、害毒を與へ、病害等の騙除豫防を怠るか如き弊害もなくなり、其の餘剰に應じた報酬を得る樣になる。かくして富有なる小作人となり得ることゝ思ふ、又土地の開墾等に就きては、今日の所個人の力にては到底爲し得ざる場所のみ殘つて居るが、生産組合の力を以てすれば、餘程面白く國土の開發を爲し得ることゝ思ふ、北海道の開拓の如きは徒に貧産を有する人だけに止まらず、將來或は內地よりも一層困難なる小作問題を惹き起す場合もあらふと思はれるから、余は寧ろ眞に開墾に從事しつゝあるが如き人々をして生産組合を起さしめ、之に貸下げの手續に出でたならば立派なる開墾地が出來るし、又其の社會的事情も一層良好なることゝなるであらふと思はれる、かくする時は獨逸の內地植民策としての地代農地の設定と同樣の結果を奏することゝ思ふ。

▲兼營組合

兼營組合とは、既に述べた所の信用販賣購買及生産組合の事業の二種以上を兼ね營む組合を云ふのである、それ故に兼營組合には信用販賣組合、信用購買組合、信用生産組合、販賣購買組合、販賣生産組合、購買生産組合、信用販賣購買組合、信用販賣生産組合、信用購買生産組合、販賣購買生産組合、信用販賣購買生産組合の十一種ある。然し其性質に關しては更に說明するの要はない。以上にて略産業組合の性質の大體を述べ終つたから次には組合の設立管理等の大略并に組合の聯合に就いて主話をしようと思ふ。

正誤　前號印刷誤り中重要なるもの左に

第五十二頁　上段第一行の我が國產業組合員の染々は國賣組合員の誤り

第五十二頁　上段第十九行二八四四年の十一月廿四日は十月廿四日の誤り

第五十三頁　下段朱行故郷すると出來るは故郷朱々に依賴すると出來るの誤り

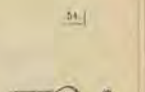
第五十四頁　下段二十一行讀入せしめ此上にも共費な朱々は讀入せしめの上にも非常の朱々の誤り

来代が拂へぬと云ふので移るのでもない

引越に際を拂ひ加藤治郎と重宮少尉とは、マサカ来代が拂へぬのでは移るに云ふ譯でもなし、又家賃が滯つて追立て食ふと云ふ無理でもドーヤラないが引越と云ふことには見けず者ならず餘の藤居る、マサカ桑原の切るのに驚いたのでもない訳、又親を切る泡落付かぬ……東京住居の年數と移轉數とを御聞すれば加藤は一年に二度何分とか家も所もお引上だ……ソレデ郷里の四ケ月で親愛すべきものがあつたと見へ本年九月一日現在の本籍生地一覽に加藤は伏町、重宮は南横町としてある、僅ほ本年の九月に其處をおつて移ること二回今は早稻田町千一に、加藤及仁矢來町四番地四十八番に今年の春頃引越した。余の爲めに餘自を借りて

通常會員 梅津重太郎

催青中蠶卵に微妙なる音響を聞く



實驗談

催青中蠶卵に微妙なる音響あることは三四年前友人から聞て居たから、催青中何時も注意して聞こゝとして居たが、其の時期が不明なので未だ聞き得ずにゐたが、處が本年春蠶の催青中、隣らずも其の音響を聞いた時は五月十日後二時頃で、獨り靜かな催青室で妄想に耽つて居つたら、極めて微かな音がピヅピヅと耳朶に響いて來た。さて變な音だと怪んだが若しや蟻て友人より聞た蠶種よりの音であるまいかと、蠶棚より蠶種を取ると耳傍に近く寄せたら、慎いた絶えたり續りに聞へる、そうして一枚一枚に中にも高いのと低く聞へる音がある、卵の音響とは甚だかと聞り音と思つた。猶ほ耳を立て心を沈めて室内に居ると、多數の蠶種より間斷なくピヅピヅが聞へる、松で四五里餘外の野に蠶の演習でも聞く樣だ、然し何なる蠶卵が音がするか、音が起るとき卵に孵化がなきかと耳を立て眼を大にして居つたが、不明だ、然し其の蠶種の模樣は卵が凹面の光澤が消へ少しく白ぼけ且つ脆れ上りたものが二三個ある頃で蟻るから、此の樣な卵に變る時音を發するのであるまいか、音に強弱のあるのは卵殼に厚薄ある爲であるまいかなどと疑ふて見た、或は又卵内脂肪の發達と或る切な時期を知らせるのであるまいかとも思して見た其の後蠶種は平均七十二三度位の温度（正確ならず）に接して、十二日目に一枚に二三酉の毛蠶が現れ十五日に全部揃立した、愛讀諸君中に多分御承知のことと思ふが、此の欄の餘白を借りて面白く聞いたから此の欄の餘白を借りて面白く聞いたから此の欄の餘白を借りて面白く聞いたから

二　桑苗配付又ハ奬勵金交付竝其監督ニ關スル規程
三　桑苗ノ配付ヲ目的トスル設備ニ就テ事業施行方法書
第四條　桑苗ノ有償配付ハ栽培實費ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス
桑園ノ新設、桑樹ノ植替ニ對スル奬勵金ノ交付ハ一反歩ニ付左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

仕立別	開墾	熟畑植替
高木	三圓	二圓
根刈中刈	五圓	四圓
密植速成	六圓	五圓

郡市ノ状況ニヨリ特別ノ事情アリト認ムルトキハ前二項ニ依ラサルコトヲ得
第五條　第三條第三號ノ事業施行方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　原苗圃ニ在リテハ其位置、面積(地目別及接穗、砧木ノ區別)竝桑樹ノ種類別、栽植本數又ハ播種量、穗木又ハ砧木トナスヘキ見込本數
二　苗圃ニ在リテハ其ノ位置、面積(地目別及砧接、根接、實苗ノ區別)竝桑樹ノ種類別栽植本數又ハ播種量、成苗トナスヘキ見込本數
三　原苗又ハ桑苗ノ栽培ヲ委託スルトキハ其委託ニ關スル契約事項
第六條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル後第三條ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
第七條　補助金ノ交付ヲ受ケタルモノハ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ
一　原苗圃又ハ苗圃ノ生育状況　其ノ年十月末日限
二　配付桑苗ノ發育状況　同　上
三　奬勵金ヲ交付シタルモノハ其ノ事業ノ行程　同　上
四　奬勵金ヲ交付シタルモノハ其桑園ノ發育状況　翌年十月末日限
五　事業成績(別紙樣式ニ依ル)　翌年四月末日限
六　事業ニ關スル經費ノ收支決算　翌年七月末日限
第八條　補助金ノ交付ヲ受ケタル事業費支出額經費豫算ニ達セサルトキ又ハ本則ニ違背シ若ハ事業ノ成績不充分ナリト認メタルトキハ補助金下付ノ指令ヲ取消シ又ハ其金額ヲ減少シ既ニ交付シタルモノハ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ
第九條　補助金ハ四月及十一月ニ各半額ヲ交付ス
第十條　島郡農會、蠶業同業組合ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケ事業ヲ施行スル場合ハ所轄島司郡市長ノ指揮監督ヲ受クヘシ
第十一條　本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ島司、郡市長ノ管理ニ屬スルモノノ外所轄島廳郡市役所ヲ經由スヘシ
第十二條　隱岐國西郷町外十一ケ村組合ハ之ヲ一郡ト見做ス

附　則

第十三條　本則ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十四條　明治三十八年二月本縣告示第二十三號桑苗栽培補助費支給規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

樣　式

明治　年度桑樹栽培成績報告

仕立別	開墾			既墾			植替			計		
	反別	見積反別	計	反別	見積反別	計	反別	見積反別	計	反別	見積反別	計
高木												
根刈中刈												
密植速成												
合計												

備考
高木及速成ノ混植仕立ハ別欄ニ記載スヘシ

無償配付			有償配付				
人員	種類	本數	人員	種類	本數	價額	單價

一　配付ヲ受ケタル總人員(一人ニシテ數種ノ配付ヲ受ケタルモノハ一人トスヘシ)
一　奬勵金交付額
一　郡市費支出總額(桑樹栽培ニ關シ支出シタル總額ヲ記スヘシ　島郡農會蠶業同業組合ノ支出モ之ニ準ス)
一　奬勵金ヲ交付シタル總人員

備　考
一　配付種苗種類數量ハ仕立買入ヲ區別スヘシ

二　奬勵金交付額ハ郡市ヨリ交付シタル金額ノミヲ記載スヘシ

生絲共同揚返場設置費補助規則(明治四十四年四月一日縣令第十五號)

第一條　生絲ノ共同荷造及共同販賣ノ目的ヲ以テ座繰若ハ足踏製絲業者ノ組織シタル產業組合法ニ依ル組合ニシテ生絲揚返場ヲ新設シ又ハ揚返機械ヲ增設セムトスルトキハ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ下付ス
第二條　補助金ハ揚返機械一窓ニ付金五圓以內トス
第三條　補助金ノ下付ヲ受ケムトスルモノハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス
一　揚返窓數二十窓以上ナルコト
二　揚返場ハ六角形ニシテ周圍一メートル半ナルコト
三　生絲乾燥及生絲檢査ニ必要ナル設備ヲ爲スコト
四　生絲揚返量一ケ年二百貫以上ナルコト
第四條　補助金ノ下付ヲ受ケムトスルモノハ毎年四月末日限リ別紙樣式ニ依リ知事ニ申請スヘシ
第五條　補助金下付ノ指令ヲ受ケタルモノハ指令ノ日ヨリ三ケ月以內ニ第三條第一項第一號乃至第三號ノ設備ヲ完了シ知事ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ
第六條　補助金ハ前條ノ檢査ヲ行ヒタル後之ヲ下付ス
第七條　補助金下付ノ指令ヲ受ケタル後本則ニ違背シ又ハ第一條第一項第四號ノ數量ニ達セサルトキハ補助金下付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ下付シタル補助金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ
第八條　補助金ヲ受ケタルモノハ三ケ年間毎年度事業ノ成績ヲ事業終了後二ケ月以內ニ知事ニ報告スヘシ
第九條　本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ町村役場、島廳郡市役所ヲ經由スヘシ
第十條　本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(樣式)

生絲共同揚返場設置費補助申請

生絲共同揚返場設置(揚返機械增設)致度候間明治四十四年四月本縣令第十五號生絲共同揚返場增設費補助規則ニ依リ補助金下付相成度別紙調書相添ヘ此段申請候也

年　月　日　所在地
何々組代表者　氏　名㊞
知事宛

調　書

一　揚返場ノ位置及名稱
二　揚返機械ノ窓數(增設ノ場合ニアリテハ既設竝增設ノ窓數)
三　揚返場(揚返室、乾燥室及檢査室等ノ區別)及附近ノ略圖
四　設置豫算書
五　設備完了豫定月日
六　一ケ年就業豫定日數
七　一ケ年生絲揚返豫定數量
八　一ケ年間收支豫算書
九　事業經營ノ方法(共同荷造及販賣方法)
十　組合定款

町村蠶業技術員設置補助費支給規程(四十三年三月九日縣令第六十八號)

第一條　島郡又ハ島郡農會蠶業ニ關スル同業組合ニ於テ蠶業ノ改良發達ヲ圖ルノ目的ヲ以テ町村又ハ町村農會ニ技術員ヲ常設シ補助費ノ支給ヲ受ケムトスルモノハ本規程ニヨリ申請スヘシ
町村又ハ町村農會ニ於テ蠶業技術員ヲ常設シ補助費ノ支給ヲ受ケムトスルモノハ本規程ニ準シ申請スルコトヲ得
第二條　補助費ハ豫算ノ範圍內ニ於テ技術員俸給年額ノ半額以內ヲ支給ス
但特別ノ事情アリト認ムルトキハ前項ニヨラサルコトヲ得
第三條　本規程第一條ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ具シ前年度三月二十日迄ニ差出スヘシ
一　設置スヘキ技術員ノ數
一　設置スヘキ町村名
但數町村ヲ一區域トシ設置スル場合ハ其區域內ノ町村名
一　設置ニ關スル經費豫算

第十一條　島司郡長ノ管轄ニ關スルモノ、外水産報ニヨリ発出スル官國ハ島廳官吏所手經由スヘシ

人事彙報

徳島縣麻植郡立蔵堂學校長ニ任ス（十一月二十日付）
十一月廿日徳島縣）
東京帝國大學農科大學教授（文部省視學官兼任）
文部省視學官正六位勲六等農學博士　澤村眞
叙高等官三等（只上十一月二十日付）
任東京帝國大學農科大學教授（文部省視學官兼任）
叙從七位　東京帝國大學農科大學教授　澤村眞
木俣七郎俸下賜
農藝化學第三講座擔任ヲ命ス（只上十一月二十九日付）
任上田蠶絲專門學校教授　上田蠶絲專門學校教授　大瀧照太郎
叙高等官七等（只上十一月三十日付）
十一月廿三日付文部省）　上田蠶絲專門學校教授　大瀧照太郎
任原蠶種製造所技師　蠶業講習所技師勝峯啓吾少尉從六位　辻　保次郎
叙高等官五等
叙高等官六等（只上十二月六日付）
（外省）
九鬼俸下賜（只上十二月六日勲務者）

原蠶種製造所技師　辻　保次郎
原蠶種製造所技師　肥後俊彦

横濱市場

絲況

十一月中の横濱絲況　十一月上旬に於ける横濱生絲市場は、人氣の餘沈衰し近年稀に見るところであつたあらう、信州、上州一番金々七百圓臺に墜落せんかと痛く氣遣はれた絲價も、中旬に至りて歐州向の買進みに進れて稍昂進の氣配となり、五圓高の八百二十圓を示したるが、其後海外の注文亦不活潑にて自然相場も安唱へにより八百十圓と迄落ち込んだ、斯くて十圓乃至十五圓の間を往來して乗角面白からざる商況を持續したが、二十五六日頃より氣配幾分引返しの模樣となり、遂に月末には八百三十圓を唱ふるに至り、市況概して手堅く、殊に定期絲の引締りは注文を誘ふる商館をして買進むに便よろしかつたので旁賣行は頗る好況を呈した、而して十二月に入りて以來市場稍〻順調に向ひ本稿を草する當時は上一八百四十五圓を以て取引せられた、產地に於ける天候漸く寒さに赴き、生產力少し、爲に出繭の品薄となれるさへあるに、歐洲の景況如何を顧みれは如何にも需要に迫り居る模樣なれば、以て價の前途を悲觀するに及ぶまじいか、這々絲家の態度大に慎重を要する處である。

價格の差　十一月中に於ける最高價は信濃東有絲の九百〇五圓にして最低價は岩代共同二馬折返の七百九十圓である、之を昨年同月の最高價上野碓氷絲羽子板太の九百九十圓と最低價岩代共同二馬折返の八百三十五圓とに比すれば高値に於て八十五圓低値に於て四十五圓の差があるのである。

集散の狀況　十一月中に於ける生絲集散の狀況は左表の如くである。

明治四十四年十一月自一日至三十日生絲集散表

	繭檢	座繰	機絲	計	詰越	入荷	賣了	進出荷	繰越
	二八、三七七	五、二五一	二四、九二〇	三四、五四五	二、六〇〇	二、一〇〇	一、七六一	一、四四四	三〇、〇五六
掛返						二七〇	六二八	一五七	五、三三六
繰越			二六	二六		二七〇		九	二八五
合計	二八、三二三		二四、八〇四	二四、八〇四	二、二六四	三、三三	一、八	一、五四四	三五、七〇九

御考

一、此中某位個に九百五を得て
二、持越とは賣れより來たる持越したるものにして本月一日の調査機械とは本月
三、繰越とは賣れより來たる持越したるものにして先月末日の調査に係る
四、賣了中米國に輸出せるものは九千三百四十四俵歐洲に輸出せるものは四千三百七十八俵外に蛋餅四俵なり

之を昨年の同月と比較するに積戻に於て三百十五個半を増したるも、入荷に於て三千二百九十個半手合に於て二千〇六十一個買了に於て九百六十一個半を減した、而して持越と入荷とを合したる六萬二千七百七十七個より、買了と積戻とを合したる二萬七千〇六十八個を引去りたる殘高三萬五千七百〇九個は十一月末日に於ける市場の在荷である。

倘十一月中に於ける日々の生絲集散の狀況を示せば左表の如くである。

明治四十四年十一月自一日至三十日生絲集散日別表

（器械太□　同中△　同細○　座繰×　折返し＋）

月日	入荷	手合	買了	引戻	輸出	地方横濱	國名	社名	種別	最高價	最低價	摘要
一日	一、一五〇	三一六	八九三半	―	―	七三	上野 信濃	甘樂社赤字 三井製絲	× □	八四五	八二五	座繰の補充口へ商ひ出來ありしのみ不相變捗々しからず
二日	九〇三	七五三	八七五	―	二三四	四六	上野 同	碓氷社五人組 甘樂社銀字	× ×	八三五	八〇七半	氣配不勢にして又五圓安を以て當用商談口へ折合たり
三日	―	―	―	―	―	―						大祭日
四日	二、三三四	二八〇	一、五二九	三六	―	五六	信濃 武藏	東行社優 改伸社金泉	○ ×	九〇五	八一〇	當用商談の續きへ上一番同直にて少しく賣行けり
五日	―	―	―	―	六六六	―						日曜日
六日	一、八二四半	三二〇	六七九半	―	―	二五	三河 上野	日登社 碓氷社金紅葉	○ ×	九〇〇	八〇七半	兎角商談薄く人氣亦捗々しからず
七日	九五六	二九七	六七三	―	―	一二〇	信濃 同	小口館 八木東	□ □	八一五	八〇五半	信州上一番の補充口だけ直段先づ保合にて出來せり
八日	六三二	三六二	一、〇〇一半	―	二、五二斤 玉絲一〇	一一二	上野 信濃	碓氷社姫 今組	□ □	八六五	八〇五	安直にあらざれば總て買入なく氣配ぢり〱不況なり
九日	八三六	二八九	二、七九八	―	―	九二	信濃 岩代	東行社優 共同二馬	○ ＋	八九〇	八〇五	折返し絲は五圓安の小商ひ行はれ其他は悉く安見越しにて頗ぶる人氣不振なり
十日	八五〇	五七一	一、三一六	―	―	九五	武藏 上野	上水社 碓氷社金紅葉	○ ×	八六〇	八〇二半	百七十四番館へ買先に叫はれ上一番前直にて變りなく折合たり
十一日	一、二四五	三六一	五九一	―	五三九	四八	信濃 同	尾澤組 道眞社盃	□ □	八五〇	八一五	上一番は非常に品薄の處歐洲向必要商談を生じ遂に五圓高に出來せり米國向は變りなく落付居れり
十二日	―	―	―	―	八五五	―						日曜日
十三日	二、〇〇七	五二一	一、〇九七半	―	―	八二	三河 岩代	旭館 共同二馬	○ ＋	八八〇	八〇〇	一番館へ買氣續き居り上一番五圓高にて出來せり米國向は依然落付き居れり
十四日	一、二六七	二一九	九二八半	―	一、八一〇	一一一	岩代 同	共同金盃 同二馬	× ＋	八四五	七九〇	歐洲向亦新規買入薄なりし爲め唯補充續きの小商ひにて打止めたり
十五日	六四〇	九	六七九	二八	―	一八二	美濃 岩代	丸二製絲 共同一馬	○ ＋	八七五	八〇五	早くも頓挫の姿となつて碌々商談なく形勢靜かなり
十六日	八六五半	一八	一、六七五半	一八	―	二三六	伊豆 信濃	城南社 信英社	○ □	八八〇	八〇五	前日同様不人氣にて捗々しき商談なし
十七日	一、三一一	―	七二八	九	―	六四	信濃 上野	伊那林組 碓氷社二人組	△ ×	八四〇	八一五	前報同様別に變りなし
十八日	八二九	二二五	五九九	―	―	六九	三河 信濃	牧製絲 川岸片倉	○ □	八八〇	八一〇	上州座繰及國遠太筋物未發表にて少し手合出來せり
十九日	―	―	―	―	二、八一五	―						日曜日
二十日	一、四四〇	一九一	九六八	四七	―	七〇	上野 同	甘樂社赤字 碓氷社銀字	× ×	八三五	七九七半	信州物直段により買氣の向ありしも折合ず細筋座繰の手合ありしのみ休日前と別に變りなし
廿一日	九三〇半	四五	八〇七	―	七四〇	五七	信濃 同	東行社 先進社	○ □	八八五	八〇五半	捗々しく商談なく上一番は今日も見合ひて遂に折合はず
廿二日	一、二五一	七九八	一、〇八一	五四	八七二	五〇	三河 上野	天野製絲 交水社若松	○ ×	八七五	八〇七半	出帆前となり之れが積出しの必要に迫れるもの商談を進め上一番五圓方買進み相應の手合出來せり
廿三日	―	―	―	―	―	―						大祭日
廿四日	一、六六六半	七六七	六五五	―	―	一四二	相模 信濃	公明社 入一製絲	○ □	八八五	八一〇	相場變りなく歐米向適當品弗々商談行はれたり
廿五日	六九九	一五二	一、〇二〇半	―	五九六	一一二	三河 上野	東信要社 碓氷社銀	○ ×	八八五	八〇二半	商談少なかりしも變なく概況賣人稍々氣丈なり
廿六日	―	―	―	―	―	―						日曜日

廿七日	一、七三一	五四三	八〇三半	一八	—	一六〇	甲斐 信濃	甲州小口組社	□○	八八〇 八一五	上一番物に向て必要の商談起り適當品薄の際一躍十五圓高に吹上げたり然品は其割合に進まざりし
廿八日	九〇二	三三八	七二五	—	一、六六四	七九	信濃 同	東行社 日本社 白	□○	八八五 八一〇	同直にて英一番館へ少し許り賣行あるのみなりし
廿九日	九〇九	五六七	一、二七六半	—	—	八六	上野 信濃	碓氷社羽子板 小松組	□○	八八五 八一五	傚して相場予堅く保合にて弗々商談出來し株に折返し絲不足の爲め最も好適の賣行けり
三十日	一、一四四	八二	一、四〇三半	三六	四〇四 玉絲四	一〇七	武藏 上野	征木製絲 甘樂社 青字	×○	八八五 八一五半	新規商談は現はれず補充口も至て尠なかりしも氣配變らず保合へり
合計	二八、三二三	八、〇一四	二四、八〇四	二四六	一三、七二〇	二、二六四					

倘本年十月中の生絲集散の狀況を示し、且つ昨年十一月末の夫れとを對照すれば左の如くである。▲減じた印×は増した印

月次	持越	入荷	賣了	横濱	繰越	輸出數量	輸出價格
四十四年一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年三月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年四月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年五月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年六月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年七月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年八月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年九月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四十四年十月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
四十四年十一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
計		[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	
四十三年十一月		[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	
		×[illegible]	▲[illegible]	▲[illegible]		▲[illegible]	

紐育市場

紐育生絲市況に就き同地駐在水野總領事よりの電報左の如し

生絲は横濱より一封約十俵安に當るを以て可なり當市場の需要を刺激せり重なる取引口は來年年市渡なるも直渡品の需要も亦相應なりと傳へらる本日引値一「ヘンドレタド、ウェート」建關西特別飛切三弗七五、同飛切上三弗六五同飛切三弗五二五、信州飛切三弗五二五、同一番三弗二七五、同一番半品なし(十月八日發電)

生絲横濱「シチアコツコター」(不明)銀は晴天の霹靂の如く先物賣手に一驚を喫せしめ相場亦伴れて騰貴したるも名義のみにて實際取引を「ソヘイ」(不明)せり一封建關西特別飛切三弗七七五、同飛切上三弗六七五、同飛切三弗五七五、信州飛切三弗五七五、同一番三弗三五?、同一番半品なし(十一月十四日發電)

生絲市況立て直らず値段に拘はらず買手一向に氣乘りなし一封建關西特別飛切三弗七五、同飛切上三弗六五、同飛切三弗五二五、信州飛切三弗五〇、同一番三弗三二五、同一番半品なし(十一月二十一日發電)

生絲は横濱に連れ騰貴したるも何時まで高値を持續すへきや氣迷姿にて瀰商ひ一封建關西特別飛切三弗八二五、同飛切上三弗七五、同飛切三弗六五、信州飛切三弗五五、同一番三弗三七五、同一番半品なし(十一月二十八日發電)

本邦生絲相場の騰貴に付き當地買手間に投機的一時推上直段と爲すものと正當相場と見るの二あるも機業家は原料の逼迫を感ぜず寧ろ無頓著の姿なり一封建關西特別飛切三弗八五、同飛切上三弗七五、同飛切三弗六二、信州飛切三弗五五、同一番三弗四〇、同一番半品なし(十二月五日發電)

里昂市場

里昂生絲市況に就き同地駐在本島副領事よりの電報左の如し

生絲依然賣手見送り一番半器械絲九乃至十一「アニール」相場四十一法五〇見當一番半器械絲十三乃至十五「アニール」相場三十七法五〇見當、在荷六、一四七「ベール」(十一月八日發電)

漸次高値に伴れ生絲商談皆無の姿一番半器械絲九乃至十一「アニール」相場四十二法二五見當一番半器械絲十三乃至十五「アニール」相場三十八法二五見當、在荷六二一八「ベール」(十一月十五日發電)

生絲依然閑散一番半器械絲九乃至十一「アニール」相場四十一法見當、一番半器械絲十三乃至十五「アニール」相場三十七法七五見當、在荷六、二五二「ベール」(十一月二十一日發電)

生絲市況本邦の高値に連れ賣手は安賣せず買手先安を見込み商談尠なし一番半器械絲 九乃至十一「アニール」 相場四十二法五〇見當 同同 十三乃至十五「アニール」 相場三十九法二五見當 (十二月六日發電)

●蠶病豫防成績

農商務省調査

昨四十三年度蠶病豫防成績に關し農商務省の調査に依れば全國蠶種製造者の實數は一萬五千八百六十四戸此收繭量四百六十四貫二百七十八匁六分にして是れより十三萬四百三十七石三斗三合の收繭を擧げたり内合格種繭七萬六千八十四石五斗二升六合にして之を以て製絲用種四百五十九萬五千八百一枚、原種用種三億七千三百八十八萬二千百九十六蛾を製造し製絲用種の検査に合格せるもの四百五十六萬千七十六枚蛾檢查に合格せるもの三億三千五百二十四萬二千二百九十八蛾なりと

●蠶兒の飼育に就き質問

群馬縣 通常會員 山口里治

(一)蠶體を緊むると緩むるとは飼育上に於て如何なる相違ある者あるや其要點を御教示されたい。

(二)當地は榛名山麓にして極めて山間なるが故に年々四五齡期に至れば朝霧多く濕度高くして濕氣が多い爲に當業者は此期に至り年々飼育に困難しつゝ充分の結果を得ないが之に對する適當の飼育術御教示ありたい。

答

學藝委員 土屋泰

(一)蠶體を緊り且く發育せしむるには左の諸項に注意せればならぬ

(イ)蠶齡と桑の生長程度とを適當に伴ばしむること

(ロ)室内溫度を七十度前後に保持すること

(ハ)室内の溫度を七十五六度卽ち乾濕兩球の示度の差四五度の間に保持すること

(ニ)用桑は摘採當時の重量に比して約一割減量したるものを用ゆること而して成るべく摘桑を與ふることを避け且雨桑露桑を嚴禁すること

(ホ)蠶沙は常に乾燥狀態に保たしむること

要するに平均七十度以上高溫度で水分多き軟桑を與へ、濕氣多き空氣中にて飼育すれば、蠶體發軟し體量重き蠶兒となるのである。

問　答

(二)遺傳の關係は、ある時代に於て、ある特徴を現はすことは、ある時代に於て、ある特徴を現はすことは、ある時代に於て、ある特徴を現はすことは

會務錄事

當日午前十一時第一鈴の下に六百餘名の會員は參集し、第二鈴に數十人の來賓は第一鈴の下に岡田安會長は松平會頭、農務局長代理、理事岡農務局長を案内し席定まり敬禮終る田村副會長は立つて開式の辭を述べ、松平會頭の式辭に立つを待つて審査長、東京蠶業講習所技師肥後俊彦氏は左の審査報告を朗讀し裁賞授與を申請せり。

審査報告

今回の品評區域は一府十二縣に亘り蠶種百四十三點米五十七點繭千五百五十七點糸百五十四點繭百四十三點米五十七點糸五十四點繭千五百五十七點糸百五十四點に於て之を前回に於ては出品數に於て疎少せりと雖も品質に於て大に改良進歩の跡顯著なりとの評あり之を前回の審査報告と比較するに繭は前回に比し數段の進歩を認めたるも海産蠶種の製造に於ては多くの不正種を多く混入し不正種多く混入せるは不正種多く混入せるは不正種多く混入せるは

〔園遊會〕　式後午後一時より四山日光町長同役に於て大園遊會は開かれたり四人入れて賀寄為せる園遊會は足れども大七百の會員に所柴のみに限らず、餘興の綱引は勝りに投りて柄本側の圓物産を工藝品より所柴の人に集めたる大の呼び物、忽ち人の流れを一方に集まり、士族の陣幕、少類の吸入れに相騒すもあり、牛乳の接待、酒可付ける日の立ち雖問、日光音頭に合せて三人の美妙浪花節に、一時は恩しく敵へざる紅潮に、日光音頭に合せて舞へるに、二月の花よりも鮮に鳴りて紅潮と其技を讃へるも、何が芝手、一番建物の機を得ずとと夫に〳〵遠家喫驚、被服の山、庭園の谷、間一流水落して後に、微力の協議に慰もからず、正午、ローカル黒鉄倉庫に集り、午後の時代に何者か鐵柴者に要求するやの議論ありて午後五時閉會を告げたり

〔協賛會と日光町〕　下野新聞社が今次の品評會を日光町に開催するに就ては日光町は此の事に賛せられて、協賛會を起し、多大の慈援を與へられたのみならず工藝品のわたゆるものに迄も賛助引して雪嶺人の優宜を図られたことは此度に於て本會員人の感謝する處である

〔日光と協賛會〕　本會員協賛會は日光ホテルに開會し本會了後に於て、日光町長の挨拶なる簡潔なる挨拶をかけたり、萬事萬端協賛するの外に別段なかりしが、會場しのつたのは柄本農の都合提供したる、都合の御協賛のあり、鋼會長田村氏之新著の說明に依て都合の悪敷なかりし柄本が新氷が新しく卷き酒會社に供給する親の少なくるを由の聞くに及んで、一番ラッキ感に出した。

〔日光と氣仙沼〕　明くれば廿八月十六日、喜見の華鋼の從業員の慰めて鎬なる鋼の紅葉を見すが如くに、ロードバイ、ロードバイ、ロードバイ

しかたなるの餘一層奮勵あらん事を望む

○著たるるの餘一層奮勵あらん事を望む

○蚕は其品質數に于六點にして前回より十五點を增加するのみならず製造術も改良漸歩の時期に於て文部省の賞牌を授与せられ、就中蚕種

の十時上野に著いた
昨日に倣んで船日協賛会長及日本蠶業技手其他有志氏の厚意を厚く謝す

◎岡山支會發會式

從來岡山縣には別立せる岡山蠶絲會なるものありて本會の機關としては地方委員部の設置あるのみなりしが、當縣の蠶絲業は年々を追ふて隆盛に赴き、隣て本會の趣旨を賛同し入會する者漸くに多きを加へ地方委員部の組織を見て甘ずる能はざるものあると、一方有志者氏又地方小團體の孤立は到底大成を期し難く中央なる本會に合して斯界に活躍するを必要となし、爾來大に會員の募集に努め遂に一千百名の會員を得るに至り、去る十月二十八日を期て岡山支會發會式を同縣議事堂に於て挙行せり、當日の出席員は會員五百餘名來賓六十餘名には農商務省明石技師、生絲檢査所是枝技手、京都蠶業講習所水野技手其他當縣選出衆議院議員、縣會議長、山口市長等にして、當日午前十時第一鈴にて會員着席第二鈴にて來賓着席第三鈴にて、松平會頭、大山支會長、大山副會長、岡本幹事等壇

なく原案を可決し、終て更に講演會を開き左の諸氏の講話あり。

製絲業上の研究點と其改善

水野京都蠶業講習所技手

製絲業の改善を促す

是枝生絲檢査所技手

人造絹絲に就て

明石農商務省技師

午後三時より左の話を終る。

斯くて來賓及び會員一同は後樂園鳴鶴館に催せる園遊會餘興場に赴み製番の餘興あり、殊に蠶絲業の發展に祿めて「吉備の夢」なる餘興は此會の爲めに新作節付けせるものとして盛況たる十二名の總手が各絲製を手に踊り、又として踊れる滿場の大喝采を博せり、了て庭園に數個所に設けたる寫影所にて同紙を撮影し、了て一同紙を撮影し、了て一同紙を撮影し、了て一

蠶桑雜觀

▲蠶絲業法施行期日　蠶絲業法は明治四十五年一月一日より施行せらるることゝなれり終令第二百七十五號なる以て去十一月二十一日の官報に公表せられたり

▲蠶業學校の改稱　長野縣小縣郡上田町なる長野縣立小縣甲蠶業學校は私立東京農業學校と改稱の件去十一月十六日を以て文部大臣より認可せられたり

▲私立東京農業大學　大日本農會附屬私立東京農學校は大學組織に變更し其名稱を私立東京農學校と改稱の件去月十六日を以て文部大臣より認可せられたり因て文部大臣認定の學校及總甲種學校に及ぼすことゝなれり

▲種蔴審査會規則　同規則の動令は二月七十六號を以て去月二十一日の官報に公布せられたるが其條項左の如し。

種蔴審査會規則

第一條　種蔴審査會ハ中央種蔴審査會及地方種蔴審査會トス

第二條　種蔴審査會ハ中央種蔴審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ種蔴ノ審査ニ關スル事項ヲ調査及之ニ關スル諮問ニ答ヘ其ノ會則ヲ定ム

第三條　中央種蔴審査會ハ地方長官ノ監督ニ屬シ蔴種ノ製造ニ使用スヘキ種蔴ノ審査ヲ行フ及之ニ要スル事項ヲ調査ス

第四條　中央種蔴審査會ハ委員ニ三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

地方種蔴審査會ノ委員ハ農商務大臣ノ認可ヲ得タル地方長官之ヲ定ム

第五條　委員ハ官吏公選及蠶絲業ニ關スル學識經驗アル者ノ中ヨリ中央種蔴審査會ニ在リテハ農商務大臣地方種蔴審査會ニ在リテハ地方長官之ヲ命ス

第六條　種蔴審査會ニ會長及副會長ヲ置キ中央種蔴審査會ニ在リテハ農商務大臣地方種蔴審査會ニ在リテハ地方長官其ノ中ヨリ之ヲ命ス

第七條　種蔴審査會ニ會長ヲ缺キタル時ハ其ノ職務ヲ代理シ會長ヲ缺キタル時ハ其ノ職務ヲ代理シ會長ヲ缺キタル時ハ其ノ職務ヲ代理シ

若クハ之ヲ他ニ貸与シ其ヲ賃借アルヒトヲシテ又賃借ニ依ル蔟数セシメ蔟数ニ応ジテ六分間以上之ヲ密閉シ蔟間ニ蔟数アルヒトヲ又原蚕

百枚以下　一二五
二百枚以下　二〇〇
三百枚以下　二五〇
四百枚以下　三〇〇
五百枚以下　三五〇
六百枚以下　四〇〇
七百枚以下　四五〇
八百枚以下　五〇〇
九百枚以下　六〇〇
一千枚以下　七〇〇
二千枚以下　一〇〇〇

▲京都蠶業講習所別所入學試驗問題

本年度に於ける京都蠶業講習所別所入學試驗問題は左の如し

二時間

一、次ノ式ヲ簡単ニセヨ、

$$\frac{\frac{1}{1+x}+\frac{1}{1-x}}{\frac{1}{1+x}-\frac{1}{1-x}}$$

二、次ノ分数ヲ簡単ニセヨ、

$$\frac{1}{1+\frac{1}{1+\frac{1}{1+

文藝

懸賞 俳句

花の本花翁宗匠選

秀逸

春と云ふよき隣あり冬籠　甲斐　麒麟

日毎來て人馴もせず三十三才　豐後　寺柳

天追加

地賞

人賞

懸賞募集 狂句

金坊子選

秀逸

▲人賞

天狂蠶種屋鼻の紀利に借金し　京都　吉川鬼法外

▲地賞

蠶が鬼を地獄にして逃し　愛知　松村孝女

▲天賞

借金の山蠶積んだり崩したり　山梨　天野寸雪

▲選者吟

蠶蠶も豐蠶も先づ帳消しの年の暮　金坊子

懸賞募集 俚謠

高橋鬼川選

▲秀逸

▲人賞

▲五彩賞

霜に雲る丶山茶花星散
逆蠶織きて逝けた跡

京都　小雲　秦華

▲地　賞

今朝の初霜桑の葉落ちて
渡り鳥鳴く宮の森

豊橋　杉田　麥村

▲天　賞

好きて逆ふたる此の二つ鶴
何が未練で飾つける

羽前　松田　東雲

▲選者　吟

乾した蠶具の間を抜けて
乙女からかム三十三才

鬼　川

懸賞募集

小品文

高橋鬼川選

▲秀　逸

◎乗　候　　丹波　大槻　不鳴生

秋晴れの空に絹のたわゝに積み渡した桑園の此所彼所に絹糸が絡つて、バラ〳〵と自然が上る。蚕作り蔵に休めて立つた。そこへ三人の乙女がバラ〳〵と飛んで来た。蚕作は蔵くゝお相手をした。乗上は蔵なして軽く帰手をした。

◎桑　　愛知　高瀬　町東

桑だけの物の音がない。鶯の鳴もない。けれども秋の清なる蔵の音が聞こえる。桑だけの物の音がない。鶯の鳴もない。けれども秋の清なる蔵の音が聞こえる。桑園の田舎乙女の歌唱が聞く。そして秋も日本の繁栄の基礎となる蔵を人間もかゝありたい。

◎詩　郷　　仙臺　中島　紫水

どんんなに生活の苦しい日であつても、川辺の蔵と共に、ほの〳〵と明るい。今門なんて各蔵に立つてある。永い間の勤めにはのれし身に、故郷の蔵と思はれる風にそよ〳〵と吹く。蔵の笑は鶴に浮んでゐる。そして悲哀さを感ずる事は無かつた。外にそれが居る。

◎人　蔵　　鹿兒島　永田　天牛

蔵の仕事が明日は入蔵と云ふので、蔵門に来て入る。明日は蔵の日だ。蔵の日だ。蔵の日だ。

▲懸賞 天(一人)會報一ヶ年分○地(一人)會報牛ヶ年分○人(一人)會報三ヶ月分

▲規則 毎月一句一人に付五句づゝ。用紙端書に張る。便宜上東京新宿花園三松林花翁宛とし投函のこと。雅号と住所を明記せば會員外の投句も掲載せず會員若くは會員外の投句に對し會員は會費を以て其選に入るも掲載せず

狂句（柳）

（原稿ノ切毎月三十日限リ）

▲選者 高橋鬼川先生

▲課題 監絲樂に關係あるものならば何にてもよし

▲懸賞 天(一人)會報一ヶ年分○地(一人)會報牛ヶ年分○人(一人)會報三ヶ月分

俚謠（藤々）

（原稿ノ切毎月三十日限リ）

▲選者 高橋鬼川先生

▲課題 監絲樂に關するものにて女工などに唄はしめても差支なきもの（但し卑猥なるものは投書とす）

▲懸賞 天(一人)會報一ヶ年分○地(一人)會報牛ヶ年分○人(一人)會報三ヶ月分

一口噺

（原稿ノ切毎月三十日限リ）

▲選者 高橋鬼川先生

▲課題 何にてもよし但し卑猥なるものは投書とす

▲懸賞 天(一人)會報一ヶ年分○地(一人)會報牛ヶ年分○人(一人)會報三ヶ月分

小品文（名寄）

▲選者 高橋鬼川先生

▲課題 監絲樂に關する百般の事を見聞した感想百字以内

▲懸賞 天(一人)會報一ヶ年分○地(一人)會報牛ヶ年分○人(一人)會報三ヶ月分

注意

選者用課題紙懸賞

端書一枚に限り一行二十字詰にして五行に記すこと

●句（無題題名）は用紙一枚に付き五句限り一行に一句五行分一人に付三つ限り）▲用紙は新聞紙に使用する罫紙を用ひ▲投稿の際は會員外と記し住所▲投稿の際は會員外と記し住所▲投稿の際は會員外と記し住所氏名を明記し大日本絲會宛にて送るべし住所氏名無き分は採用せず

大日本蠶絲會報廣告料

回數	特等		並等	
一回乃至六回ニ付	一頁	半頁	一頁	半頁
	貳拾圓	拾貳圓	四分ノ一頁	四分ノ一頁
七回以上（一回ニ付）	拾七圓	拾四圓	七圓	拾五圓
	拾四圓	六圓	拾貳圓	八圓
			七圓	五圓
			四圓	

●會員は右料金の二割引とす●四分の一頁未滿は謝絶す●前金にあらざれば掲載せず●一頁は一行二十七字詰七十二行とす

●本報定價

一冊金拾五錢
一ヶ年前金壹圓七拾錢
但會員に限り壹圓五拾錢

明治四十四年十二月二十日印刷發行
東京市神田區錦町三丁目十八番地
編輯兼發行人 小池松市
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人 島連太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所 三秀舍活版所
東京市神田區錦町三丁目十八番地
發行所 大日本蠶絲會
（電話本局一四七三番）
（振替貯金口座東一二〇六番）

EMPIRE DU JAPON
CONDITION DES SOIES DE YOKOHAMA.

MOUVEMENT DU 1er AU 30 Novembre 1911.

Mois et Années.	Conditionnement des soies grèges.			Passage des soies grèges.	Décroissage des soies grèges.	Existe des soies grèges.
	Nombre.	Poids net.	Poids conditionné.	Moyenne de la perte au cent.	Nombre.	Nombre.	Nombre d'ouvreuse.
Novembre 1911	5,083	305,152.00	304,881.24	1.70	204	5	6,142
Mois precédent	5,429	274,356.83	269,327.06	1.83	111	2	7,408
Novembre 1910	5,757	286,541.78	280,725.47	2.02	187	4	7,689
Total depuis Janvier, 1911	45,600	2,303,996.84	2,323,786.93	1.05	2,276	18	61,163
" " 1910	46,223	2,323,353.03	2,290,976.47	1.85	1,435	19	69,282
" " 1909	35,850	1,851,061.22	1,822,005.00	1.57	384	3	61,205
" " 1908	33,318	1,800,393.08	1,857,502.84	1.77	"	11	49,532
" " 1907	35,447	1,836,967.99	1,816,377.25	1.78	9	4	33,921
" " 1906	40,058	1,903,546.54	1,873,958.40	1.62	"	50	31,900

Le Directeur par Intérim de la Condition des Soies,

N. IMANISHI.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK

Jours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée. Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Prix. Prices.
	Soie. Silk.					Maximum du prix. Highest prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		*Yen*
1	622	502	41	—	Kanasha.	845
2	508	492	26	132	Usuisha.	835
3	—	—	—	—	——	—
4	1313	860	32	—	Tôkôsha	905
5	—	—	—	357	——	—
6	1026	382	14	—	Nittosha.	900
7	5 8	379	68	—	Ogmebigumi.	845
8	355	563	63	1426	Usuisha	865
9	470	1574	52	—	Tôkôsha.	820
10	478	740	53	—	Jyôsuisha.	860
11	700	332	27	303	Ozawagumi.	850
12	—	—	—	481	——	—
13	1129	617	46	—	Asahikan.	8 0
14	713	523	62	1018	Iwashiro-kizo-Kyodoniskumiai	845
15	360	382	102	—	Maruniseishi.	875
16	487	942	127	—	Jyônansha.	880
17	962	410	36	—	Ina-hayasigumi.	840
18	466	337	39	—	Makiseishi.	880
19	—	—	—	1583	——	—
20	810	545	39	—	Kanasha.	835
21	523	454	32	416	Tôkôsha.	885
22	704	608	28	491	Amanoseishi.	875
23	—	—	—	—	——	—
24	937	368	80	—	Kômeisha.	885
25	393	574	64	335	Tôshinyôsha.	885
26	—	—	—	—	——	—
27	974	452	90	—	Kônansha.	880
28	507	408	44	936	Tôkôsha.	885
29	511	718	48	—	Usuisha.	885
30	644	789	61	234	Susamotoseishi.	885
—	—	—	—	—	——	—
Total	15.932	13.952	1.273	7.726	——	—

1 yen vaut environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg environ.

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(November 1911.)

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Novembre 1911.)

	Report.	Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sent back.	A reporter. Brought forward.
		Picul.	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*
Filature. Filature.	15.961	14.380	12.598	—	1.031	16.897	
Zagui. Reeled.	2.954	1.181	991	—	143	3.001	
Kakoda. Orihayashi.	450	152	353	—	88	161	
Autres. Other.	15	19	10	—	5	19	
Total.	19.380	15.932	13.952	7.726	1.273	20.087	
1910.	11.910	17.782	14.491	9.132	1.096	14.102	

CONTENTS.

Discourses:

On the composition of the egg-shell of the domestic silkworm.... Y. Miyake, *Nogakushi.* / T. Tadokoro, *Nogakushi.*
Secretive function of the silk gland.... Y. Tanaka, *Nogakushi.*
Spots on the uginya have nothing to do with their sex.... S. Nishikawa.
Argument against making filature a government enterprise.... I. Kodde.
Effect of the juice of bleaching-powder upon the form of the corpuscules.... B. Kudo.
Advice to the producers of silkworm-seed on the enforcement of the Sericultural Law.... S. Saito.

Essays:

How to succeed with late autumn silkworms.... T. Arai.

Interviews:

On natural silkworms in China.... I. Honda, *Nogakushi.*
Is there no way to control resters who infest sericultural districts?.... M. Machida.
My impressions of the International Sericultural Conference.... Y. Yoshiike.
How the exhibition of cocoons was held by Messrs Hara & Co's filature in Tomioka.... S. Okubo.

Echoes:

Sericulture in Korea.... M. Tobuike.
Silkworm-rearing in the Phillipines.... Charles S. Banks.
Figures on the world's sericulture in 1910....
Points on which Japanese sericultural industry requires improvement.... K. Kijima, Vice Consul, Lyon.

Lecture:

On the Industrial guild.... K. Sato, *Nogakushi.*

Experience:

Delicate sound heard during incubation.... J. Umetsu.

Market Condition:

Yokohama Market.
New York Market.
Lyon Market.

Queries and Answers:

About the growth of silkworms.
About bleached gum.
About heliothosi diana mompa.
About using chrysalises as manure for the mulberry.
About manure.

Reports and Miscellaneous:

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Voici la situation de notre marché au mois de Novembre dernier.

Pendant les premiers jours de ce mois, l'activité a régné toujours sur notre place comme continuation de fin du mois précédent. Vers le milieu du mois, cependant quelque activité animu un moment le marché, Shinshu extra No 1 accusa le prix de yen 820, soit une hausse de 5 yen. Mais les demandes d'outre-mer ayant été très nouvelles, les prix accusèrent une nouvelle hausse, tombèrent à yen 810 et oscillèrent entre 10 yen et 15. Vers les 24 et 25 la situation devint un peu favorable, et, à la fin du mois, Shinshu regagna le prix de 830. Le nombre des balles arrivées, renvoyées, traitées et livrées pendant ce mois, a été respectivement de 28.3 3 de 2.264 de 8,014 et de 24,804. Excepté le nombre des balles renvoyées, tous les autres accusèrent une diminution comparés à la même période de l'année précédente.

RAW SILK MARKET.

THE RAW SILK MARKET OF YOKOHAMA.

The raw silk market of Yokohama at the beginning of November could not yet get out of the dull condition into which it had fallen at the end of the previous month. At the middle of the month it became somewhat livelier and Shinshu extra No 1 went up to 820 yen—5 yen higher than the last quotation, but orders from abroad becoming scarce, it again went down to 810 yen. The quotation fluctuated between 810 and 815 yen, until on about the 24th the market somewhat livened up and at the end of the month 830 yen was realized and the sale was fairly brisk. During this month 28,3:3 bales were received, 2,264 bales were sent back, 8,014 bales were dealt with, and 24,804 bales were sold. These figures are, with the exception of the number of the goods sent back, are larger than those of the corresponding month in last year.

BULLETIN

DE

L'ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No 239.

20 Decembre 1911.

SOMMAIRE :

Articles de fond :

Sur les éléments des coquilles d'œufs de vers-à-soie. ....Y. Miyake, *Nogakusshi.*
T. Tabikawa, *Nogakusshi.*

Sur la sécrétion de la substance soyeuse des vers-à-soie. ..Y. Tosawa, *Nogakusshi.*

Les moucharbins des mûriers n'ont rien rapport avec le sang....S. Nishikawa.

Antiexploitation par l'Etat de la filature. .....I. Kobe.

Le jus de la poudre blanchissante affecte-t-il la trama du cocon? .....
.....B. Kudo.

Désidératum envers les graineurs avant entrée en vigueur de la Loi sur l'industrie séricicole. .....S. Saito.

Opinions diverses :

Comment élève-t-on les vers d'automne satisfaisants? .....T. Arai.

Visite et Entretien :

Investigation de l'industrie de tussah en chine. ... .I. Honda *Nogakusshi.*

N'Y a-t-il pas le moyen de surveiller les mauvais filateurs qui d'vastent les centres producteurs de cocons? .....J. Machida.

Sur la Conférence internationale séricicole. .....Y. Yoshiike.

Ouverture du Concours des cocons séchés à la filature de Hara, à Tomioka. ...
.....S. Okabe.

Echos :

La sériciculture à Chosen. .....M. Totsuka.

L'élevage des vers-à-soie en Philippines. .....C. S. Banks.

Statistique de la récolte des cocons pendant 1910.

Points essentiels nécessaires à l'amélioration des soies gèlées japonaises.

Cours :

Sur le syndicat producteur. .....K. Sato, *Nogakusshi.*

Choses expérimentées :

On entend un bruit délicat pendant l'incubation.... .....Y. Umeda.

Marché des Soies :

Marché de Yokohama.—Marché de New York.—
Marché de Lyon

Questions et Réponses :

Sur l'élevage des vers.—Sur la gamma blanche.—Sur la maladi dite "Mompa-bya".—Sur les chrysalides destinées à l'engrais de Mûriers.—Sur les engrais.—

Nouvelles diverses :

Notes sur le service de notre Association.

etc, etc, etc.

TOKYO.

Association Sériciole du Japon.
(Dai Nippon San-shi Kwai)
No. 18 Nishikicho, Sanchome, Kanda, Japon

明治二十五年四月七日内務省許可（明治四十四年十二月二十日發行）